科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21A010）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	松尾美香（まつおみか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（講義の概要、進め方、評価方法等の説明） マインドマップの書き方（自己紹介、自分史作成の準備）を説明する。
２回	相手に伝えるための技術を解説する。 自分史を作成することで、自己理解を深め、自分を表現する。
３回	読む技術を解説する。 効果的な読み方を説明する。
４回	資料の活用方法を理解するためのワーク①を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
５回	資料の活用方法を理解するためのワーク②を活用して実践する。 資料を用いて、要約を作成する。
６回	映像内容の要約方法を学ぶためのワークを実践する。 視聴覚教材を用いて、要約を作成する。
７回	グループで協同学習した内容をまとめるためのワークを実践する。 グループワークを行い、要約を作成する。
８回	1回目～7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
１回	シラバスを確認して講義の目的を理解し、この科目に必要と考える高校までの基礎的知識を復習しておくこと（標準学修時間120分）
２回	予習として、過去の自分を振り返り、自己年表を作成しておくこと（標準学修時間120分）
３回	配布資料を読んで予習をしておくこと。この際に、重要な部分にマーカーで印をつけておくこと（標準学修時間120分）
４回	予習として、配布資料を熟読し、その内容をマインドマップを使い整理してくること（標準学修時間120分）
５回	文章の要点を把握できるように予習しておくこと（標準学修時間120分）
６回	要約の仕方について復習し、実際に新聞記事等を読んで、要約の練習をしておくこと（標準学修時間120分）
７回	視聴覚教材の要約文を完成させ、復習しておくこと（標準学修時間120分）
８回	これまでの学んだ内容を整理して、復習し、実際に文章を書く練習を行うこと（標準学修時間120分）

講義目的	本講義の目的は、大学での学びにおいて必要となる文章作成の基本的なスキルや知識を習得することである。 まず、マインドマップを使って、自分の考えや集めた文献や情報を整理し、それを文章化する方法を学ぶ。次に、資料を読み解いたり、映像の内容を理解したりして、それを文章に要約するための方法について学ぶ。 これら学術的な文章を作成するたの基本的なスキルや知識は、レポートやビジネス文書を作成する際に活用することができる。 （教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①自分の考えや主張を整理するために、マインドマップを作成することができる（E)。 ②映像や資料から情報を読み取り、要点をマインドマップを活用して表現することができる（E)。 ③マインドマップを読み、全体の構成を考えながら、２００字程度にまとめることができる（E)。 ④グループで話し合った内容を２００字程度にまとめることができる（E)。

キーワード	マインドマップ、要約、資料の活用、読解力
成績評価（合格基準60	・授業中に作成したワークシートの提出（30%） ・小テスト（30%） ・課題提出（40%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。 ※3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、 それ以降の入室は認めない。 ※1点でも課題の未提出物がある場合やペアワークおよび協同学習等での欠席がある場合は、評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論A・B、文章表現法基礎編B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は指定しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E-Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・本講義は、文章表現法基礎編Bを受講することが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・当日、やむを得ない事情により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	日本の文化と歴史ＩＡ（FB21A020）
英文科目名	Culture and History of Japan Ｉ A
担当教員名	西野雅二＊（にしのまさじ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション。受講者各自に自己紹介や日本について知っていることを日本語で話してもらう。また、担当者（西野）および岡山理科大学について日本語で説明する。
２回	配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。
３回	配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。
４回	配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。
５回	ー　日本の昔話　ー 配布資料により、日本に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、日本の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。
６回	配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。
７回	配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。
８回	前半はこれまでの復習を行う。後半に最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	自分自身のことを日本語で口頭により紹介できるよう準備しておくこと。（標準学習時間60分）
２回	配布資料に目をとおし、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	配布資料に目をとおし、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分）
４回	配布資料に目をとおし、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分）
５回	配布資料に目をとおし、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、文章の中で見た文化や社会について整理しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	配布資料に目をとおし、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分）
７回	配布資料に目をとおし、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの復習を自分でもしっかりとしておき、試験に備えること。（標準学習時間180分）

講義目的	岡山の昔話、日本の昔話等を見ていくなかで、留学生に、日本の文化や歴史、風俗、習慣について理解を深め、日本での生活と日本語により一層なじんでもらうことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）
達成目標	日本語を母語とする人が日本語を話す上で基礎として持っている(と思われる)「桃太郎」、「かぐや姫」等に関する知識を習得して、自分の言葉で表現することができるようになること。また、自身の文化と日本の文化の異同について自分の言葉で表現ができること。
キーワード	日本文化、日本語表現、昔話
成績評価（合格基準60	小テスト（３０％）および最終評価試験（７０％）による。
関連科目	日本の文化と歴史IB
教科書	プリント（資料）を配布する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	
注意・備考	※中国からの留学生の場合、日本の漢字と中国語簡体字の違いに注意すること。 ※辞書（電子辞書でよい）を携行すること。
試験実施	実施する

科目名	心理学Ａ（FB21A030）
英文科目名	Psychology A
担当教員名	鉄川大健＊（てつかわひろかつ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	心理学の歴史と方法について概説する
２回	感覚・知覚の仕組み（特に視覚）について説明する
３回	錯視を通して、心の働きを学ぶ
４回	条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
５回	強化スケジュールについて学び、身近な問題への応用可能性について考える
６回	自由再生実験を通して、記憶の仕組みについて知る
７回	映像資料を用いて、記憶術や記憶の変容について説明する
８回	知覚、学習、記憶についてこれまでの授業内容の復習を行い、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
１回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと(10分)
２回	前回の授業内容を振り返り、自分が心についてもっている考え方を整理しておくこと(120分)
３回	前回の授業内容を復習することと、身近な錯覚の例を探してみること(120分)
４回	前回の授業内容を復習することと、学習とは何かについて考えてみること(120分)
５回	前回の授業内容を復習することと、学習理論から説明できそうな身近な行動について考えてみること(120分)
６回	前回の授業内容を復習することと、記憶について何を学びたいかを整理しておくこと(120分)
７回	前回の授業内容を復習することと、自分自身がこれまで行ってきた記憶術について振り返ること(120分)
８回	これまでの授業内容を振り返り、疑問点を明らかにしておくこと(180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域からスタートし、人の心にかかわるさまざまな問題を科学的に扱う方法を知ることを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のＢにもっとも強く関与する）
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ることで、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。
キーワード	知覚・感覚、記憶、学習、感情、動機づけ
成績評価（合格基準60	各講義後に提出する小レポート（35%）、講義内容の理解についての最終評価試験（65%）により、総合的に成績を評価する。
関連科目	心理学B、教育心理学
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山嶌圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0
参考書	「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-4223-6 他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	初回の授業で伝達する
注意・備考	特になし
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論Ａ（FB21B010）
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）,松尾美香（まつおみか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間づくり本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。本講義は、アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。 （西村　次郎,松尾　美香）
２回	生涯にわたる学びと大学での学び生涯にわたる学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。特に、主体的な学びについて説明する。 （西村　次郎,松尾　美香）
３回	生涯にわたる学びと自己実現充実した人生を送るために、学びが生涯における幸福追求とどのようにかかわるのか説明する。 （西村　次郎,松尾　美香）
４回	ノートティキングノートの取り方について解説し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。 （西村　次郎,松尾　美香）
５回	目標設定とタイムマネジメント、4年間の計画を立てる学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。目標を達成するためのタイムマネジメントや4年間の学びの計画、課外での学びについて計画を作成する。 （西村　次郎,松尾　美香）
６回	リーディングスキル①著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識を関連付ける練習も行う。 （西村　次郎,松尾　美香）
７回	リーディングスキル②著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識を関連付ける練習も行う。 （西村　次郎,松尾　美香）
８回	振り返りの仕方3回目で設定した目標がどこまで達成できるいるかを点検するために、振り返りの仕方について説明する。 （西村　次郎,松尾　美香）

回数	準備学習
１回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。（標準学習時間60分）
２回	生徒と学生の違いについて、まとめておくこと。（標準学習時間60分）
３回	大学生活での目標を踏まえつつ、目標を達成するために、どのように時間を使うべきか考えておくこと。（標準学習時間60分）
４回	復習としてこれまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。（標準学習時間⑥0分）
５回	4年間でどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。（標準学習時間60分）
６回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
７回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
８回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行う

	とともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる（E)②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる（E)③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる（E)④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる（E)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価（合格基準60	・ワークシート（50%）・レポート（50%）より、成績を評価し、総計で得点率60%を合格とする。＊早退・遅刻は3回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。＊グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論B、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Bを履修することがのぞましい。・授業中の飲食・私語は禁止する。・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。・提出課題については講義においてフィードバックする。・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21B020）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	尾崎美恵＊（おざきみえ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」（文芸春秋出版）のキャッチコピーについて説明する。 自己体験を言語化し、他人に伝えるポイントを説明する。 ①「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
２回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に①「得意な事」を指導する。
３回	①「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
４回	②「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
５回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に②「辛かった事」を指導する。
６回	②「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
７回	③「大切なもの（事）」を通じて自己分析を指導する。
８回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に③「大切なもの（事）」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：①「得意な事」を考えておくこと。 復習：①「得意な事」アウトラインを作成すること。（標準学習時間120分）
２回	予習：①「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：①「得意な事」文章を作成すること。（標準学習時間120分）
３回	予習：①「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：①「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分）
４回	予習：②「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：②「辛かった事」アウトラインを修正すること。（標準学習時間120分）
５回	予習：②「辛かった事」文章を作成すること。 復習：②「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。（標準学習時間120分）
６回	予習：②「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習；③「大切なもの（事）」アウトラインを作成すること。（標準学習時間120分）
７回	予習：③「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習:③「大切なもの（事)」文章を作成すること。（標準学習時間120分）
８回	予習：③「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習：③「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。

	個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価（合格基準60	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの（事）」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」の提出課題４０％と試験２０％、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出４０％により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/　著者尾崎美恵　/　出版社文芸春秋出版
参考書	なし　必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論Ａ（FB21B030）
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	・ガイダンス　　・文化について述べる。
２回	テキストの解説と考え方について述べる。
３回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。
４回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編1）について述べる。
５回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編2）について述べる。
６回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編3）について述べる。
７回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編4）について述べる。
８回	総括をする。最終評価試験をする。

回数	準備学習
１回	自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておくこと。（標準学習時間30分）
２回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
３回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
４回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
５回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
６回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
７回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
８回	講義の復習をしておくこと。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与）
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「　　国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価（合格基準60	最終評価試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書　青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	心理学Ａ（FB21B040）
英文科目名	Psychology A
担当教員名	鉄川大健＊（てつかわひろかつ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	心理学の歴史と方法について概説する
２回	感覚・知覚の仕組み（特に視覚）について説明する
３回	錯視を通して、心の働きを学ぶ
４回	条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ
５回	強化スケジュールについて学び、身近な問題への応用可能性について考える
６回	自由再生実験を通して、記憶の仕組みについて知る
７回	映像資料を用いて、記憶術や記憶の変容について説明する
８回	知覚、学習、記憶についてこれまでの授業内容の復習を行い、最終評価試験を実施する

回数	準備学習
１回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと(10分)
２回	前回の授業内容を振り返り、自分が心についてもっている考え方を整理しておくこと(120分)
３回	前回の授業内容を復習することと、身近な錯覚の例を探してみること(120分)
４回	前回の授業内容を復習することと、学習とは何かについて考えてみること(120分)
５回	前回の授業内容を復習することと、学習理論から説明できそうな身近な行動について考えてみること(120分)
６回	前回の授業内容を復習することと、記憶について何を学びたいかを整理しておくこと(120分)
７回	前回の授業内容を復習することと、自分自身がこれまで行ってきた記憶術について振り返ること(120分)
８回	これまでの授業内容を振り返り、疑問点を明らかにしておくこと(180分)

講義目的	心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域からスタートし、人の心にかかわるさまざまな問題を科学的に扱う方法を知ることを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のＢにもっとも強く関与する）
達成目標	心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ることで、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。
キーワード	知覚・感覚、記憶、学習、感情、動機づけ
成績評価（合格基準60	各講義後に提出する小レポート（35%）、講義内容の理解についての最終評価試験（65%）により、総合的に成績を評価する。
関連科目	心理学B、教育心理学
教科書	「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山嶌圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0
参考書	「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-4223-6 他、授業中に適宜紹介する。
連絡先	初回の授業で伝達する
注意・備考	特になし
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教Ａ（FB21B050）
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	堀田和義（ほったかずよし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法）、および倫理とは何かを説明する。
２回	一神教の倫理（1）―ユダヤ教・キリスト教の倫理を説明する。
３回	一神教の倫理（2）―イスラームの倫理を説明する。
４回	哲学者と倫理（1）―徳倫理学を説明する。
５回	哲学者と倫理（2）―カントの倫理学を説明する。
６回	哲学者と倫理（3）―功利主義を説明する。
７回	現代の倫理―動物の生命についての様々な考え方を説明する。
８回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、「倫理とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
２回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
３回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
４回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
５回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
６回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
７回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義では、代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、主として西洋の倫理思想を学ぶ。倫理的な思考方法をしっかりと身につけることにより、日常生活でもそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）
達成目標	①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 ③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を追体験し、日常生活に役立てることができる。
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学

成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	倫理と宗教B、哲学
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論Ａ（FB21C010）
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）,松尾美香（まつおみか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間づくり本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。本講義は、アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。 （全教員）
２回	生涯にわたる学びと大学での学び生涯にわたる学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。特に、主体的な学びについて説明する。 （全教員）
３回	生涯にわたる学びと自己実現充実した人生を送るために、学びが生涯における幸福追求とどのようにかかわるのか説明する。 （全教員）
４回	ノートティキングノートの取り方について解説し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。 （全教員）
５回	目標設定とタイムマネジメント、4年間の計画を立てる学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。目標を達成するためのタイムマネジメントや4年間の学びの計画、課外での学びについて計画を作成する。 （全教員）
６回	リーディングスキル①著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識を関連付ける練習も行う。 （全教員）
７回	リーディングスキル②著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識を関連付ける練習も行う。 （全教員）
８回	振り返りの仕方3回目で設定した目標がどこまで達成できるいるかを点検するために、振り返りの仕方について説明する。 （全教員）

回数	準備学習
１回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。（標準学習時間60分）
２回	生徒と学生の違いについて、まとめておくこと。（標準学習時間60分）
３回	大学生活での目標を踏まえつつ、目標を達成するために、どのように時間を使うべきか考えておくこと。（標準学習時間60分）
４回	復習としてこれまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。（標準学習時間⑥0分）
５回	4年間でどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。（標準学習時間60分）
６回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
７回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
８回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行う

	とともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる（E)②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる（E)③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる（E)④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる（E)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価（合格基準60	・ワークシート（50%）・レポート（50%）より、成績を評価し、総計で得点率60%を合格とする。＊早退・遅刻は3回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。＊グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論B、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Bを履修することがのぞましい。・授業中の飲食・私語は禁止する。・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。・提出課題については講義においてフィードバックする。・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21C020）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	尾崎美恵＊（おざきみえ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義の進め方並びにインターネットによる履修登録について説明する。 就職活動におけるエントリーシートの役割と重要性を説明する。 「すごいお母さん、EUの大統領に会う」（文芸春秋出版）のキャッチコピーについて説明する。 自己体験を言語化し、他人に伝えるポイントを説明する。 ①「得意な事」を通じて自己分析を指導する。
２回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に①「得意な事」を指導する。
３回	①「得意な事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
４回	②「辛かった事」を通じて自己分析を指導する。
５回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に②「辛かった事」を指導する。
６回	②「辛かった事」の完成文とキャッチコピーを指導する。
７回	③「大切なもの（事）」を通じて自己分析を指導する。
８回	問題点を指摘しながら、どうすれば自己分析できるか、模範解答を基に③「大切なもの（事）」の指導する。「最終評価試験」を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。 予習：①「得意な事」を考えておくこと。 復習：①「得意な事」アウトラインを作成すること。（標準学習時間120分）
２回	予習：①「得意な事」アウトラインを修正すること。 復習：①「得意な事」文章を作成すること。（標準学習時間120分）
３回	予習：①「得意な事」キャッチコピーを作成すること。 復習：①「得意な事」文章を完成させ、提出すること。標準学習時間120分）
４回	予習：②「辛かった事」アウトラインを作成すること。 復習：②「辛かった事」アウトラインを修正すること。（標準学習時間120分）
５回	予習：②「辛かった事」文章を作成すること。 復習：②「辛かった事」キャッチコピーを作成すること。（標準学習時間120分）
６回	予習：②「辛かった事」文章を完成させ、提出すること。 復習；③「大切なもの（事）」アウトラインを作成すること。（標準学習時間120分）
７回	予習：③「大切なもの(事)」アウトラインを修正すること。 復習:③「大切なもの（事)」文章を作成すること。（標準学習時間120分）
８回	予習：③「大切なもの(事)」キャッチコピーを作成すること。 復習：③「大切なもの(事)」文章を完成させ、提出すること。(標準学習時間120分) 「最終評価試験」の準備をすること。

講義目的	キャッチコピーでエントリーシートを完成させる。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	自分の体験や意思を明確に表現できる。

	個々のテーマに沿って、自分の過去、現在、未来の出来事を通して自己分析できる。 決められた文字数で説得力のある文章を作成できる。
キーワード	自分の長所も短所もそれを味方につけて相手の関心を引き込もう。
成績評価（合格基準60	テーマ別エントリーシート「私の得意な事」「辛かった体験」「私の大切なもの（事）」「私が将来したい事」「私のターニングポイント」の提出課題４０％と試験２０％、総括として「すごいお母さん、EUの大統領に会う」のキャッチコピー完成文提出４０％により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「すごいお母さん、EUの大統領と会う」/　著者尾崎美恵　/　出版社文芸春秋出版
参考書	なし　必要に応じて配布
連絡先	cool@muchujin.jp
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。 講義の性格上、毎回文章作成の課題があり、課題も授業も厳しいことを理解した上で、受講すること。 原則として、自宅では自己分析と文章校正に時間を割き、講義はあくまでもその問題点を修正するように努める。毎回の課題提出をいい加減にしている場合は出席日数を満たしていても、単位修得は無理である。作成課題については添削指導を行い、返却する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21C030）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	崎重敏幸＊（さきしげとしゆき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
２回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
３回	「レポートの書き方」について説明する。
４回	「小論文の書き方（１）」について説明する。
５回	「小論文の書き方（２）」について説明する。
６回	「小論文の書き方（３）」について説明する。
７回	「知る」ことと「人生」について説明する。 （「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。）
８回	「言葉の違い」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
１回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 （標準学習時間１２０分）
２回	将来の目標について考えておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 （標準学習時間１２０分）
４回	「作文」と「小論文」の違いについて考えておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	現代社会の「キーワード」「用語」について考えておくこと。 （標準学習時間１２０分）
６回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 （標準学習時間１２０分）
７回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について考えておくこと。 （標準学習時間１２０分）
８回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて調べておくこと。 （標準学習時間１２０分） ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。（標準学習時間１８０分）

講義目的	１．生涯を通じての「学び」の意味について考える。 ２．論理的な思考力を養い、社会人として必要な文章表現上の 知識や技術を身に付ける。 （教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	１．論理的で、説得力のある「小論文」を書くことができる。 ２．教科書「６０歳からの健康人生」から、文章の構成、表現、 用語・用字などの、正しい使い方を習得し、適切な文章を 書くことができる。
キーワード	・目的意識　　・基礎知識　　・実行力
成績評価（合格基準60	１．授業における提出課題＋時間外における提出課題　・・・　５０％ ２．最終評価試験　・・・　５０％ ●　１．と２．の総計で、得点率６０％以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「６０歳からの健康人生」／執筆者代表　崎重敏幸／ 株式会社　ライフ・サポート／　ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。

連絡先	info@hiroshima-life.jp
注意・備考	・授業における「課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容をチェックしたものを、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締め切日を設定して提出させ、指導内容をチェックしたものを、締切日後の２週間後の授業の初めに返却する。 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21C040）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	石井成人＊（いしいなるひと＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	「文章表現法」講義概説 をする
２回	文章の構成、アウトライン　をする
３回	アウトライン作成　をする
４回	アウトラインの推敲 をする
５回	アウトラインの完成 をする
６回	序論・本論・結論の作成１ をする
７回	序論・本論・結論の作成２ をする
８回	小論文構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
１回	なし
２回	なし
３回	課題テーマの草案 を作ること（標準学習時間60分）
４回	アウトラインの作成、修正 すること（標準学習時間60分）
５回	アウトラインの作成、修正 すること（標準学習時間60分）
６回	アウトラインの仕上げ ること（標準学習時間60分）
７回	８００字小論文、序論の作成 すること（標準学習時間60分）
８回	８００字小論文、本論の作成 学習内容の再確認 すること（標準学習時間60分）

講義目的	小論文、レポートなどの作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を知り、認識し、そして実現すること。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	文章の構成をあやつる「アウトライン」の重要性を理解し、それに基づいて800字の小論文を独力で完成できること。
キーワード	文章表現、アイデア・構成・アウトライン・要約・作文
成績評価（合格基準60	課題添削・修正作業（４０％）、中間提出（４０％）、最終提出（２０％）の総合評価
関連科目	プレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を５０名とする。 フィードバック 毎回試作、提出された論文原稿については、次の文章作成ステップへ反映させることが実現出来るように、コンピュータ室のモニタまたはプロジェクター表示された画面上で、個別にチェックし添削を行う。（自分の作成した文章だけではなく、他人の文章へのチェック・添削を客観的に眺めることで、試作している自分の取り組みに関して何倍も学習することを目指す）
試験実施	実施する

科目名	比較文化論Ａ（FB21C050）
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	・ガイダンス　　・文化について述べる。
２回	テキストの解説と考え方について述べる。
３回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。
４回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編1）について述べる。
５回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編2）について述べる。
６回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編3）について述べる。
７回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編4）について述べる。
８回	総括をする。最終評価試験をする。

回数	準備学習
１回	自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておくこと。（標準学習時間30分）
２回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
３回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
４回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
５回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
６回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
７回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
８回	講義の復習をしておくこと。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与）
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「　　国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価（合格基準60	最終評価試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書　青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	政治学Ａ（履修登録不可）（FB21C060）
英文科目名	Political Science A
担当教員名	前田浩＊（まえだひろし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス～講義方針と講義予定
２回	第１章　組織された集団（１）について講義する。
３回	第１章　組織された集団（２）について講義する。
４回	第２章　官と民の関係（１）について講義する。
５回	第２章　官と民の関係（２）について講義する。
６回	第３章　大企業と政治（１）について講義する。
７回	第３章　大企業と政治（２）について講義する。
８回	最終評価試験と講義のまとめ

回数	準備学習
１回	なし
２回	第１章（前半）を読んでくること。（標準学習時間３０分）
３回	第１章（前半）の復習・第１章（後半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
４回	第１章（後半）の復習・第２章（前半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
５回	第２章（前半）の復習・第２章（後半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
６回	第２章（後半）の復習・第３章（前半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
７回	第３章（前半）の復習・第３章（後半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
８回	第１章・第２章・第３章の復習をしておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治を理解する。　（教養教育センター　単位認定の方針Ｃにもっとも強く関与。）
達成目標	現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得する。また現代の政治について自分の考え方を文章で表現することができる。
キーワード	現代政治　政治学　現代社会
成績評価（合格基準60	講義内容確認テスト（ほぼ毎週行なう）４０点　最終評価試験　６０点
関連科目	
教科書	はじめて出会う政治学【第３版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-64112 3687
参考書	講義中に指示する。
連絡先	欠席・質問・問合せ先　mae◎law.okayama-u.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学A(科学概論)（FB21C070）
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
２回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
３回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
４回	静電気力を使った技術（コピー機など）を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
５回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
６回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
７回	前回に引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供（疑似科学など）、受講生間で意見交換する。
８回	この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスを行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
２回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
３回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
４回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
５回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
６回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
７回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。（標準学習時間180分）
８回	この授業全体について復習をしておくこと。Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	現代の科学技術文明社会を生きる市民は、よりよい判断を行うために一定の科学リテラシー（教養）をもつことが望ましい。同時に、科学の楽しさを知ることは、人生を豊かにしてくれる。本講義では、身の回りの材料を使った演示実験（主に物理・化学分野）とその解説などを通じて、自然科学を学び続けるために役立つ科学リテラシーの基礎を伝えるとともに、受講生の自然科学への興味・関心を高めることを目指す。また、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方について話題提供し、受講生間で意見交換もしながら、自分なりの意見を持てるようにする。科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。また、可能な限り双方向的な授業手法（クリッカー等のICT活用も含む）を取り入れて、学生の能動的な学修を促す。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	1．科学・技術全般に関心をもち、学び続けようとする意欲をもつ。 2．原子論、物質循環、DNAなどの現代科学の重要概念について一定のイメージをもち、それを他者に説明できる。 3．科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見をもち、それを他者に説明で

	きる。
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方
成績評価（合格基準60	課題提出状況（65%）および最終評価試験の点数（35%）によって評価する。
関連科目	他の科学技術教育科目
教科書	特になし
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e－mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学Ｉ」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学Ｉ」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学Ｉ」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・Momo-campusで出題した確認テストは自動採点され結果がフィードバックされる。Momo-campus経由で出された意見・質問については、Momo-campus上で回答するとともに、主なものは次の講義で紹介するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	哲学Ａ（FB21C080）
英文科目名	Philosophy A
担当教員名	堀田和義（ほったかずよし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法）、および哲学とは何かを説明する。
２回	西洋哲学（1）ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。
３回	西洋哲学（2）ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。
４回	西洋哲学（3）ー中世の哲学（スコラ哲学、普遍論争等）を説明する。
５回	西洋哲学（4）ーデカルトの生涯と思想を説明する。
６回	西洋哲学（5）ーカントの生涯と思想を説明する。
７回	西洋哲学（6）ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。
８回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
２回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
３回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
４回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
５回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
６回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
７回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義では、代表的な哲学者の思想を通して、西洋哲学の歴史をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）
達成目標	①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各時代の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 ③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。

キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学
成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学B、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【月4水4】（FB21D010）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限 ／ 水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
２回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能をはたしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
３回	国民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および国民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
４回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法９条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法９条の解釈と集団的自衛権について説明する。
５回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
６回	憲法１３条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
７回	憲法１４条の「法の下の平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
８回	憲法１９条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
９回	憲法２０条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法２０条３項および８９条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
１０回	憲法２３条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ポポロ事件」を取り上げることにする。
１１回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法２１条１項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
１２回	憲法２２条１項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および２９条１項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準のの区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
１３回	人身の自由に焦点を当てて講義する。具体的には、憲法１８じょうの「奴隷的拘束」からの自由、３１条の「適正手続きの保障」、３３条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の捜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
１４回	憲法２５条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
１５回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法１７条の国家賠償請求権を、後者については、４０条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることとする。
１６回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。
２回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
３回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
４回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
５回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
６回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
７回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
８回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分
９回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
１０回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
１１回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
１２回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分
１３回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
１４回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
１５回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。60分。
１６回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センター単位認定方針のＣにもっとも強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的問題解決の思考力を身につけること。
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
成績評価（合格基準60	レポート(２０点)、小テスト(２０点)、最終評価試験(６０点)
関連科目	法学
教科書	テキスト『日本国憲法第４版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2 ;『法学六法』/ 石川明・池田真朗等編/信山社
参考書	テキスト『法学第３版』(大学教育出版、2015年)等
連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題(小テスト)をミシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21D020）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	崎重敏幸＊（さきしげとしゆき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション 講義の目的・進め方について説明する。
２回	「自己の将来設計」について、文章を作成し、その意味を考える。
３回	「レポートの書き方」について説明する。
４回	「小論文の書き方（１）」について説明する。
５回	「小論文の書き方（２）」について説明する。
６回	「小論文の書き方（３）」について説明する。
７回	「知る」ことと「人生」について説明する。 （「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味を説明する。）
８回	「言葉の違い」について説明する。 ●最終評価試験

回数	準備学習
１回	シラバスを読んで、講義全体の内容・過程を把握しておくこと。 （標準学習時間１２０分）
２回	将来の目標について考えておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	レポート作成の基本的な構成の型や留意点について、考えておくこと。 （標準学習時間１２０分）
４回	「作文」と「小論文」の違いについて考えておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	現代社会の「キーワード」「用語」について考えておくこと。 （標準学習時間１２０分）
６回	事前にテーマを選択し、関連する情報や資料を準備しておくこと。 （標準学習時間１２０分）
７回	「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の意味について、考えておくこと。 （標準学習時間１２０分）
８回	日常使われる言葉で、言葉の違いが判然としないものについて、調べておくこと。 （標準学習時間１２０分） ●今まで学習してきたことを復習しておくこと。（標準学習時間１８０分）

講義目的	１．生涯を通じての「学び」の意味について考える。 ２．論理的な思考を養い、社会人として必要な文章表現上の 知識や技術を身に付ける。 （教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	１．論理的で、説得力のある「小論文」を書くことができる。 ２．教科書「６０歳からの健康人生」から、文章の構成、表現、 用語・用字などの、正しい使い方を習得し、適切な文章を 書くことができる。
キーワード	・目的意識　　・基礎知識　　・実行力
成績評価（合格基準60	１．授業における提出課題＋時間外における提出課題・・・　５０％ ２．最終評価試験　・・・５０％ ●　１．と　２．の総計で、得点率６０％以上を合格とする。
関連科目	・プレゼンテーション基礎編
教科書	・「６０歳からの健康人生」/ 執筆者代表　崎重敏幸　/ 株式会社　ライフ・サポート/ ISBN978-4-9907110-0-9 ・資料を配布する。
参考書	・適宜指示する。
連絡先	info@hiroshima-life.jp

注意・備考	・授業における「課題」については、授業終了後、提出させ、指導内容を チェックしたものを、次々回の授業の初めに返却する。 ・時間外における「課題」については、提出締切日を設定して提出させ、 指導内容をチェックしたものを、締切日後の２週間後の授業の初めに返却する。 ・授業内容の「ポイント」については、必ずメモを取ること。 ・提出物等については、記述内容や形式の見直し、確認を徹底すること。
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション基礎編Ａ（FB21D030）
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	石井成人＊（いしいなるひと＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	授業概説 をする
２回	非言語的コミュニケーションの特徴、スクリプトの作成 をする
３回	模擬発表とプレゼンテーションスクリプトの改良 をする
４回	リハーサル・プレゼンテーションの実施 をする
５回	PowerPoint利用のプレゼンテーション をする
６回	PowerPoint資料の改良 をする
７回	PowerPoint資料を使ったリハーサル・プレゼンテーション をする
８回	プレゼンテーション全体構成の再確認 最終評価試験をする

回数	準備学習
１回	なし
２回	スクリプト準備 すること
３回	スクリプト修正 すること
４回	プレゼンテーション練習とスクリプト修正 すること
５回	プレゼンテーション改良 すること
６回	PowerPointの作成 すること
７回	PowerPointの修正 すること
８回	学習内容の整理 すること

講義目的	聴衆を前にした単独での発表の場において、自分のアピールポイントを明瞭かつ論理的、戦略的に展開する技法の基礎を身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	PowerPointを用いながらプレゼンテーションにおける非言語的要素の重要性を理解した発表を行うことができることを目指す。（パワーポイント資料、責任者としての発表者のプレゼンス、アピールポイントの軸のぶれない内容構成、など
キーワード	プレゼンテーション、PowerPoint、非言語的コミュニケーション、自己表現
成績評価（合格基準60	課題添削・修正作業（４０％）、中間提出（４０％）、最終提出（２０％）の総合評価
関連科目	文章表現法、およびその他のプレゼンテーション
教科書	教室にてプリント資料等配布予定
参考書	なし
連絡先	elmar35@yahoo.co.jp
注意・備考	PC教室にて、Web上の課題システムを毎回利用して授業を行う。受講者数の上限を５０名とする。
試験実施	実施する

科目名	日本史Ａ（FB21D040）
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	小林博昭＊（こばやしひろあき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション。授業の進め方を説明する。その後、弥生時代の特色や、この時代の時期区分について説明する。
２回	弥生時代に海外から伝播した技術について、水田によるコメ作り技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
３回	前回に続いて、水田によるコメ作りの技術について説明し、さらにガラス加工技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、青銅器加工技術についても説明する。
４回	前回から続いて、弥生時代におこなわれた青銅器加工技術と青銅製武器の変遷過程について説明した後、鉄器の加工技術と製品についてOHCを用いながら、配布プリントを中心に説明する。
５回	青銅器や鉄器加工技術の補足説明と、それら製品を説明した後、古墳時代へつなげる意味で、弥生時代の墓制の変遷について、西日本の各地域における例を説明する。今回は、そのなかで北部九州の具体例にスポットを当てて、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
６回	畿内の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について、さらに日本海側、とくに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。
７回	瀬戸内地域、とくに岡山県の特定集団墓について説明する。さらに後期中頃から出現する規模の大きなそれらの墓とその特徴について具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、初回以降、今回までの授業内容の整理とまとめをおこない、受講生の当授業内容への理解の深化を促す。
８回	第1回目から第7回目までの授業で扱った歴史的な事象についての補足説明をおこなう。 最終評価試験を実施する。(試験会場等の関係で、8回目に最終試験実施が困難な場合、通常通り講義をおこない、試験予備日に同試験を実施することがある)

回数	準備学習
１回	シラバスの注意事項を熟読しておくこと。弥生時代の特色、そして時期区分の方法についてノートを中心に復習すること。弥生時代のコメ作りについて、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
２回	弥生時代の水田によるコメ作り技術について十分に復習すること。弥生時代のガラス製品について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
３回	弥生時代のコメ作りやガラス加工技術について、復習すること。弥生時代に製作、使用された青銅器について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
４回	青銅器加工技術や青銅製武器の移り変わり、そして鉄器の加工技術と製品について、配布プリントを中心に十分復習すること。弥生時代の鉄器についてどのような種類があるのか、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
５回	北部九州の弥生時代の墓制について復習をおこなうこと。畿内の弥生時代の墓制、とくに方形周溝墓について図書館等で予習しておくこと。さらに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その構築技術などを図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)
６回	畿内、および出雲地域の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について説明できるように復習をおこなうこと。くわえて、岡山県の弥生時代の特定集団墓について、予習をしておくこと(標準学習時間120分)
７回	第1回目から第7回目までの授業のポイントを各自まとめて再度確認し、内容を十分理解しておくこと。(標準学習時間120分)
８回	ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)

講義目的	主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、列島の弥生時代から各地の首長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳発生前後までの時代における人々が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。(教養教育センターの単位認定方針項目Ｂにもっとも強く関与する)

達成目標	我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を習得する。
キーワード	“古代史”、“弥生時代”、“古墳時代”、“日本史”
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価する。
関連科目	日本史B
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料をプリント等で配布する。
参考書	授業の進行過程で適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	(1)毎回出欠をとる。(2)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は、欠席扱いとなる。(4)講義資料は主に講義開始時に配布する。特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、Momo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。(5)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。(6)試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。(7)受講生数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	政治学Ａ（履修登録不可）（FB21D050）
英文科目名	Political Science A
担当教員名	前田浩＊（まえだひろし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス～講義方針と講義予定
２回	第１章　組織された集団（１）について講義する。
３回	第１章　組織された集団（２）について講義する。
４回	第２章　官と民の関係（１）について講義する。
５回	第２章　官と民の関係（２）について講義する。
６回	第３章　大企業と政治（１）について講義する。
７回	第３章　大企業と政治（２）について講義する。
８回	最終評価試験と講義のまとめ

回数	準備学習
１回	なし
２回	第１章（前半）を読んでくること。（標準学習時間３０分）
３回	第１章（前半）の復習・第１章（後半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
４回	第１章（後半）の復習・第２章（前半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
５回	第２章（前半）の復習・第２章（後半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
６回	第２章（後半）の復習・第３章（前半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
７回	第３章（前半）の復習・第３章（後半）を読んでくること。（標準学習時間６０分）
８回	第１章・第２章・第３章の復習をしておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治を理解する。　（教養教育センター　単位認定の方針Ｃにもっとも強く関与。）
達成目標	現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得する。また現代の政治について自分の考え方を文章で表現することができる。
キーワード	現代政治　政治学　現代社会
成績評価（合格基準60	講義内容確認テスト（ほぼ毎週行なう）４０点　最終評価試験　６０点
関連科目	
教科書	はじめて出会う政治学【第３版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-64112 3687
参考書	講義中に指示する。
連絡先	欠席・質問・問合せ先　mae◎law.okayama-u.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教Ａ（FB21D060）
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	藤丸智雄＊（ふじまるともお＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことがらであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死
２回	善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪
３回	ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義①“幸福と善の関係”
４回	善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類
５回	古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷
６回	善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義
７回	善と理性との関係について、カントの思想を通して学びます。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考えます。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義②“義務としての善”
８回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
１回	教科書の１－９ページを読む。（標準学習時間３０分）
２回	教科書２７－２８ページを読む。（標準学習時間３０分）
３回	前回の講義内容を復習する。２７－２８ページを読む。（標準学習時間３０分）
４回	これまでの講義内容の復習（標準学習時間３０分）
５回	教科書の２８ページを読む。（標準学習時間３０分）
６回	前回の講義内容を復習する。（標準学習時間３０分）
７回	教科書の33-38ページを読む。（標準学習時間３０分）
８回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておく。（標準学習時間３０分）

講義目的	現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。（教養教育センター　単位認定の方針Ｂにもっとも強く関与。）
達成目標	①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。
キーワード	倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由
成績評価（合格基準60	提出物１５％講義関与度３５％テスト（最終評価試験）５０％
関連科目	哲学
教科書	プレップ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学Ｆ(科学・技術の説明責任を巡って)（FB21D070）
英文科目名	Science Literacy F
担当教員名	財部健一（たからべけんいち）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と２回目以降の進め方のガイダンス。
２回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング１）
３回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング２）
４回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング３）
５回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング４）
６回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価（アクティブラーニング５）
７回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ（アクティブラーニング６）
８回	アクティブラーニング６のまとめの報告

回数	準備学習
１回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。(標準学習時間３０分)
２回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。（標準学習時間６０分）
３回	アクティブラーニング１により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
４回	アクティブラーニング２により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
５回	アクティブラーニング３により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
６回	アクティブラーニング４により設定された課題の事前学習しとくこと。（標準学習時間６０分）
７回	アクティブラーニング５により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
８回	アクティブラーニング６のまとめの報告準備をしておくこと。（標準学習時間９０分）

講義目的	未来の常識となる新しい価値観は古い価値観との相克を経て人々に浸透し、社会は進化し続ける。新しい価値観はどう創出されるであろうか。”自ら問題意識を持ち調べ、チームで考え、新しい結論を導く”アクティブラーニングはその方法論たりうる。”新しい結論”は社会に浸透することを本性とするがその運動は課題としない。運動（実践）力の涵養という点で講義は不十分である。科学、技術は社会にプラスににもマイナスにも影響を及ぼす。例えば、核兵器はどうであろうか。２０１７年7月７日に国連において”核兵器禁止条約（核兵器の製造、使用、開発などの全面的禁止）”が国連加盟国１１２ケ国（約６割）の賛成で採択された。核抑止力が日本防衛に必要と考える日本政府は採択に加わらなかった。原子力発電は必要とする考えも根強い。核兵器も原子力発電も科学、技術の粋を集めた発明である。また、神の領域と見られていた生命の選択（産み分け、遺伝性疾患回避、ゲノム編集など）の領域が急速に拡大している。本講義では、人類社会の未来に大きなインパクトを及ぼす科学、技術課題を自らの関心にもとづいてアクティブラーニング・ワークショップ形式で発掘、問題点、対処法、解決法など、新しい結論＝新しい価値観の創出をアクティブラーニングで試みる。新しい結論の普及＝社会進化の想像も試みる。理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与。
達成目標	未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング（自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く）を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付けること。 習慣には、人の話を聞く（多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々）、自分の意見を相手に分かりやすく述べる（順序立てて考え述べる）、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング、
成績評価（合格基準60	第８回の報告が６０％、各回のアクティブラーニングでの積極性４０％とする。
関連科目	
教科書	なし
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/２０００：アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシ

	ャル物理学/草思社/２０１５
連絡先	Ｄ２号館３Ｆ　財部研究室
注意・備考	この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、50名以上の場合は受講制限する可能性がある。受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	身近な物理学Ⅰ（FB21D080）
英文科目名	Physics closely related to our daily lives Ⅰ
担当教員名	中川益生＊（なかがわますお＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	天体の運動について説明する。どのような考えにより天動説が主張されたのか、またどのような観測結果に基づいて地動説が正しいとされたのかを説明する。
２回	地上の物体の運動について説明する。ガリレオが実証と論証に基づいて慣性の法則や落体・放物体の運動を明らかにした経緯を述べ、演示実験で確認する。
３回	ニュートンの運動の第１・第２・第３法則について説明する。演示実験により慣性の法則を確認し、また実験的にニュートンの第２・第３法則を検証する。
４回	円運動と万有引力の法則について説明する。円運動に関わる演示実験を行う。天体の運動に基づいて万有引力の法則が導出された過程を詳述する。
５回	仕事とエネルギーについて説明する。仕事とエネルギーの定義の妥当性、位置・運動エネルギーについて述べ、エネルギー保存則の演示実験を行う。
６回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。　その後、温度と熱について説明する。温度と熱の相違や熱の正体に関する演示実験を行う。
７回	気体分子の運動と比熱について説明する。ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式が確立される過程について述べ、関連する演示実験を行う。
８回	これまでのまとめと最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	教科書p.1～7を読んでノートにまとめ、天体の運動について予習すること。（標準学習時間60分）
２回	教科書p.8～17を読んでノートにまとめ、慣性の法則、速度・加速度の概念、落体・放物体の運動について予習すること。（標準学習時間60分）
３回	教科書p.18～23を読んでノートにまとめ、慣性や力の概念、力と加速度の関係、作用反作用と運動量について予習すること。（標準学習時間60分）
４回	教科書p.24～30を読んでノートにまとめ、万有引力の法則、慣性質量と重力質量、円運動と角運動量保存則について予習すること。（標準学習時間60分）
５回	教科書p.31～38を読んでノートにまとめ、仕事とエネルギーの概念、位置・運動エネルギー保存則の予習と、（標準学習時間60分）
６回	1～5回までの復習をすること。　教科書p.39～47を読んでノートにまとめ、熱容量と熱の概念、熱の正体について予習すること。（標準学習時間120分）
７回	教科書p.48～62を読んでノートにまとめ、気体分子運動論や比熱、熱力学の法則について予習すること。（標準学習時間60分）
８回	教科書p.1～62までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。（標準学習時間180分）

講義目的	物理学とは、物の理（ことわり）即ち自然現象の原因を実験的・理論的に解明する学問である。この授業では，授業中に行う多くの演示実験の観察を通して、我々の身のまわりで起こる「力学」と「熱」に関わる自然現象を物理的に説明する能力を身につけることを目的とする．高校での物理公式の知識を必要とせず、できるだけ数式の計算を行わずに、実験の観察と論理的な思考により物理的方法論を修得せしめることに努める。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	① 演示実験や実験ビデオの観察を通して、身近な自然現象を一般化して物理法則を見出す過程を学ぶ。 ② 物理学の諸法則が確立してきた歴史的過程を知ることにより、先人たちの物理的な思考方法を学ぶ。 ③ 自然現象を簡潔に説明するために、種々の物理量を定義することの必要性とその意味を理解する。 ④ 身近な物理現象に関する物理パズルの解答・質疑応答を通して、生きた物理学の知識を身に着ける。
キーワード	速度、加速度、力、運動量、質量、仕事、エネルギー、温度、熱

	ニュートンの運動の第１第・２第・３法則、万有引力の法則、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則、ボイル・シャルルの法則、熱力学の第１・第２法則
成績評価（合格基準60	授業中に行う小テストを50点満点としてその評価点をx点とし、最終評価試験を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門／中川益生／内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、学内の丸善㈱教科書販売所で販売する。
参考書	古典物理学を創った人々／エミリオ・セグレ　久保亮五・矢崎裕二訳／4-622-04088-3／みすず書房
連絡先	masuo12345nakagawa@gmail.com
注意・備考	高校における物理学の知識の有無は問いませんが、講義中に毎回行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学びますので、必ず毎回出席してノートに記録してください。物理学は特に論理的思考を重視する学問ですから、試験においても自筆ノートは持ち込み可とします。　以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある：　基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プジェクトコース、応用物理学科。　「物理学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 ・テストについては、次回の講義日に解答・評価などのフィードバックを行う。 ・講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・必要に応じて、講義開始時に講義資料等を配布する。
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教Ａ（FB21E010）
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	藤丸智雄＊（ふじまるともお＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことがらであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死
２回	善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪
３回	ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義①“幸福と善の関係”
４回	善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類
５回	古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷
６回	善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義
７回	善と理性との関係について、カントの思想を通して学びます。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考えます。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義②“義務としての善”
８回	基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。

回数	準備学習
１回	教科書の１－９ページを読む。（標準学習時間３０分）
２回	教科書２７－２８ページを読む。（標準学習時間３０分）
３回	前回の講義内容を復習する。２７－２８ページを読む。（標準学習時間３０分）
４回	これまでの講義内容の復習（標準学習時間３０分）
５回	教科書の２８ページを読む。（標準学習時間３０分）
６回	前回の講義内容を復習する。（標準学習時間３０分）
７回	教科書の33-38ページを読む。（標準学習時間３０分）
８回	ノートを中心にして復習を行い、講義全体の理解を深めておく。（標準学習時間３０分）

講義目的	現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。（教養教育センター　単位認定の方針Ｂにもっとも強く関与。）
達成目標	①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。
キーワード	倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由
成績評価（合格基準60	提出物１５％講義関与度３５％テスト（最終評価試験）５０％
関連科目	哲学
教科書	プレップ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490
参考書	
連絡先	fujimarutomoo@gmail.com
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学A(科学概論)（FB21E020）
英文科目名	Science Literacy A
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
２回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
３回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
４回	静電気力を使った技術（コピー機など）を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
５回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
６回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
７回	前回に引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供（疑似科学など）、受講生間で意見交換する。
８回	この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスを行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
２回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
３回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
４回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
５回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
６回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間60分）
７回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。（標準学習時間180分）
８回	この授業全体について復習をしておくこと。Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	現代の科学技術文明社会を生きる市民は、よりよい判断を行うために一定の科学リテラシー（教養）をもつことが望ましい。同時に、科学の楽しさを知ることは、人生を豊かにしてくれる。本講義では、身の回りの材料を使った演示実験（主に物理・化学分野）とその解説などを通じて、自然科学を学び続けるために役立つ科学リテラシーの基礎を伝えるとともに、受講生の自然科学への興味・関心を高めることを目指す。また、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方について話題提供し、受講生間で意見交換もしながら、自分なりの意見を持てるようにする。科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。また、可能な限り双方向的な授業手法（クリッカー等のICT活用も含む）を取り入れて、学生の能動的な学修を促す。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	1．科学・技術全般に関心をもち、学び続けようとする意欲をもつ。 2．原子論、物質循環、DNAなどの現代科学の重要概念について一定のイメージをもち、それを他者に説明できる。 3．科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見をもち、それを他者に説明で

	きる。
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方
成績評価（合格基準60	課題提出状況（65%）および最終評価試験の点数（35%）によって評価する。
関連科目	他の科学技術教育科目
教科書	特になし
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e－mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学Ｉ」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学Ｉ」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学Ｉ」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・Momo-campusで出題した確認テストは自動採点され結果がフィードバックされる。Momo-campus経由で出された意見・質問については、Momo-campus上で回答するとともに、主なものは次の講義で紹介するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎Ａ（FB21F010）
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	寺田盛紀（てらだもりき）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部,バイオ・応用化学科,工学プロジェクトコース,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	授業テーマ・計画の説明と技術者の歴史と定義について説明する。 ・技師・技術者・技手・技能者（工）の違い ・「社会的基礎」の解釈と取り上げるべきサブトピックス
２回	英国の産業革命と技術者の形成過程とその特徴について講述する。 とくに、徒弟制度やグラスゴー大学の役割について焦点を当てる 大学南校、エコールポリテクニックスなどでの内容（知識と実践）
３回	フランス産業革命と技術者層の形成について講述する。 とくに、百科全書の編集、エコルポリィテクニクに焦点を当てる。
４回	ドイツの産業革命と技術者の形成について講述する。 とくに、上からの「技術革命：」とGewerbeschuleの役割について説明する。
５回	技術者に必要な資質：その１（知識と技能） ・文部科学省「技術士」目録 ・JAVADA（厚労省関連）の職業能力評価基準 ・JABEEの要件 ・日本機械学会の場合
６回	技術者に必要な資質：その２（技術者倫理） ・技術者団体の倫理綱領とその内容 ・各大学での授業内容
７回	技術者に必要な資質：その３ ・近年の「基礎力」（コンピテンシー）論で求められていること
８回	以上の総括的講義及び最終評価試験

回数	準備学習
１回	「技術者」の定義に関する論文、書籍を取り寄せ、目を通しておく。(120分)
２回	英国産業革命についての文献に当たっておく。(60分)
３回	標題に完成する文献等に目を通しておく。(60分)
４回	標題に関する文献等に当たっておく。（60分)
５回	上記文献、資料に目を通しておく。(120分)
６回	JABEEの倫理綱領をダウンロードし、目を通しておく（講義に持参する）。（60分）
７回	経済産業省の「社会人基礎力」に目を通し、講義に持参する。(60分)
８回	以上の講義内容の再整理、資料の整理、文献収集を行う。テストに持参可。(120分)

講義目的	技術者というあいまいな用語の使用法を確定した上で、技師もしくはテクニシャンとしての技術者の生成、養成、求められる資質、中でも学習・研究の方法、技能習得の方法、基礎力で重要な資質について講義し、理解することが目的である。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	技術者論に必要な知識の習得はもちろん、それを得るための資料収集等を通じて、研究調査過程やプレゼンの初歩的スキルを得ることを目指す。
キーワード	技術者、基礎力、技術者の成立、技術者倫理
成績評価（合格基準60	合格基準は60%である。100%の内訳は、最終評価試験80%、提出課題20%とする。
関連科目	工学概論科目
教科書	指定せず
参考書	三枝博音『技術の哲学』（岩波全書）、杉本・高橋著『技術者の倫理』（丸善出版）

連絡先	キャリア支援センター
注意・備考	受講者数の上限は７０名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編Ａ（FB21F020）
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
２回	文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。
３回	小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。
４回	小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。
５回	ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。
６回	ストーリーを書く②：ストーリーを書く。
７回	文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。（標準学習時間45分）
３回	予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
４回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。（標準学習時間60分）
５回	予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。（標準学習時間90分）
６回	予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。（標準学習時間90分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。（標準学習時間90分）
８回	予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかり書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編Ｂ、文章表現法基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	フレッシュマンセミナー（FB21G010）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	化学科,応用物理学科,生物化学科,臨床生命科学科,動物学科
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。① 大学４年間の「ゴール」を設定する（宣言する）② 社会貢献活動等を通じて「感動体験」を学ぶ（感動は「生きる力」の源）。③「学んだことを役立てようと思えば武器になる。思わなければ何の役にも立たない」。また、社会人として必要になる資質についても考え、大学における「教養」学習とは何かを講義する。
２回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。
３回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。
４回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生に課す。
５回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義を行う。最低限知っておくべき事務手続き、アパート暮らしでの注意点、最近の身近な犯罪・発生状況、学生を取り巻く環境等の具体的な説明も行う。
６回	自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。
７回	岡山理科大学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。
８回	「フレシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。①アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。②スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授によって考案されたキャリア理論「計画された偶発性理論（ Planned Happenstance Theory）」を紹介する。

回数	準備学習
１回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えてくること（標準学習時間60分）
２回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
４回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
５回	学生も自己責任を問われる社会人であるとの視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと。「学生便覧」「キャンパスライフ」「履修ガイド」を読んでおくこと。４月４日に配布の「レジュメ（学生課）」(カラーＡ４裏表版１枚)をよく読んで実践しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	自分が責任ある社会人として生きていくためにはどのような危機管理が必要かを考えておくこと（標準学習時間120分）
７回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
８回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけでなく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任

	を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間をどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。（教養教育センターの単位認定の方針のＦに最も強く関与する）
達成目標	（1）自己のライフデザインの中で、岡山理科大学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。 （2）その際に、大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。 （3）自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
成績評価（合格基準60	毎回の講義後出される課題において60%以上の評価により合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	教学支援センター長、教養教育センター長　（いずれも教学支援室へ問い合わせてください）
注意・備考	初回のガイダンスで説明するが，ポートフォリオを活用した課題提出（出席管理）を実施するので，そのためのスキルを習得すること。 フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。 特に４回目は研究倫理教育（全員必修）を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため，理大ホールで行う。席を詰めて座る，私語を慎む，遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。
試験実施	実施しない

科目名	日本国憲法【火2金2】（FB21G020）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限 ／ 金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	日本国憲法の特質についての講義を行う。 ［内容］憲法の特質、憲法の基本原理と個人の尊重
２回	人権総論についての講義を行う。 ［内容］人権の種類、人権の享有主体、基本的人権の限界
３回	精神的自由（その１）についての講義を行う。 ［内容］思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由
４回	精神的自由（その２）についての講義を行う。 ［内容］表現の自由（意味・内容・限界）
５回	経済的自由についての講義を行う。 ［内容］職業選択の自由、転居・移転の自由、財産権の保障
６回	人身の自由（刑事手続上の諸権利）の講義を行う。 ［内容］適正手続の原則・無罪推定の原則、被疑者・被告人の諸権利
７回	受益権、社会権、参政権についての講義を行う。 ［内容］受益権、社会権、参政権
８回	法の下の平等（平等権）と包括的基本権についての講義を行う。 ［内容］法の下の平等、生命・自由・幸福追求権
９回	統治機構総論についての講義を行う。 ［内容］三権分立の意味と構造
１０回	国会についての講義を行う。 ［内容］国会の地位、組織と活動、国会議員の特権、国会の権能、議院の権能
１１回	内閣についての講義を行う。 ［内容］行政権と内閣、内閣の組織、内閣の権能と責任
１２回	裁判所についての講義を行う。 ［内容］司法権、裁判所の組織と権能、司法権の独立、違憲審査制
１３回	財政および地方自治についての講義を行う。 ［内容］財政の基本原則、財政監督の方式、地方自治の意義、地方公共団体の権能
１４回	天皇および平和主義についての講義を行う。 ［内容］天皇の地位と性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
１５回	憲法改正についての講義を行う。 ［内容］改正の手続、改正の限界
１６回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
１回	このシラバスを熟読し、授業内容全般を確認しておくこと。 初回授業で講義の進め方と履修上の注意をするので必ず参加すること（やむを得ず初回の授業に来られなかった場合には、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）
２回	前回の授業内容の日本国憲法の特質について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	前回の授業内容の人権の種類、享有主体、基本的人権の限界（特に公共の福祉の概念）について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
４回	前回の授業内容の思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
５回	前回の授業内容の表現の自由について、その意味・内容・限界について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	前回の授業内容の経済的自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
７回	前回の授業内容の人身の自由について、憲法31条から導き出される基本原則と、33条以下に規定されている被疑者・被告人の諸権利について、その内容と重要性を正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
８回	前回の授業内容の受益権、社会権、参政権について、それぞれの内容を正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
９回	前回の授業内容の法の下の平等について、判例の審査基準と実際に平等原則違反とされた事案を正確に理解し、復習しておくこと。また、新しい人権・権利として判例で認められたものとしてどの

	ようなものがあるか正確に理解しておくこと。ブログの配布資料で次回授業の予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
１０回	前回の授業内容の三権分立の意義について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１１回	前回の授業内容の国会の地位、組織と活動、権能について正確に理解し、復習しておくこと。特に両議院の差異や衆議院の優越についてきちんと整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概略を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１２回	前回の授業内容の内閣について、特に内閣総理大臣の権限と内閣の権限の違いをきちんと整理しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１３回	前回の授業内容の裁判所について正確に理解し、復習しておくこと。特に司法権の限界、違憲審査制についてきちんと整理しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１４回	前回の授業内容の財政および地方自治について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１５回	第14回授業で扱った集団的自衛権の憲法上の問題について、その内容を正確に理解し、自身の考えをまとめておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１６回	第１回～第15回の授業内容をよく理解し、整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	大学で憲法を学ぶというと、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持たれるかもしれない。しかし考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国・社会の中で生活しているわけである。ということは、その憲法について知ったり考えたりすることはある意味、この日本という国で生活する者にとっての責務であるともいえるのである。この授業では、日本国憲法についての基本的な知識や考え方について具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一緒に考えてもらいたいと思っている。（教養教育センター単位認定方針のＣにもっとも強く関与する）
達成目標	①日本国憲法に関する基本的な知識や考え方を習得すること。 ②具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できるようになること。
キーワード	日本国憲法、最高法規、（基本的）人権、個人の尊重、三権分立
成績評価（合格基準60	授業内小テスト・レポート（計４回、各10%）＋条文プリント（10%）＋最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	法学
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表）/ 有斐閣 /ISBN 978-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	Ｂ３号館（旧２４号館）４階研究室
注意・備考	①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。 ②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。 ③憲法条文プリント（これについては初回授業で説明する）は、第５回授業までに提出すること。 ④テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。 ⑤小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。 ⑥新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション基礎編Ａ（FB21G030）
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	松尾美香（まつおみか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について説明する。 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
２回	プレゼンテーションの準備について説明する。 プレゼンテーションを行うため、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
３回	プレゼンテーションの進め方について説明する。 話し方やコミュニケーション（非言語も含む）について説明する。
４回	効果的なプレゼンテーションの技法を説明する。 PowerPoint実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について学ぶ。
５回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。①趣味の概要、②趣味の楽しさ、③趣味の奥深さ、④自分の趣味への誘いの４枚のスライドを作成する。
６回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
７回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。
８回	1回目から7回目までの総括を説明する。

回数	準備学習
１回	予習として講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。また、これまで学んだことで、関連する内容を復習しておくこと（標準学習時間120分）
２回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションについて説明できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
３回	プレゼンテーションの基本的構造を理解できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
４回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解できるように予習しておくこと（標準学習時間120分）
５回	PowerPointの操作について不明な点が内容に操作方法について復習しておくこと（標準学習時間120分）
６回	PowerPointを使ってプレゼンスライドを完成させ、発表の準備を整えておくこと（標準学習時間120分）
７回	復習として、目的を明確にした内容になるように、まとめておくこと。 予習として、相手を引き付ける工夫を考えておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの学んだ内容を整理し、復習しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。 （教養養育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる（E） ②図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる（E） ③自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる（E） ④自分の考えや主張を相手に伝えることができる（E）
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価（合格基準60	・趣味の紹介パワーポイントの作成（25%） ・実際のプレゼンを評価する（50%） 　発表評価の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。 ・ワークシート（25%） より、成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。

	※3回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は、2回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。 ※プレゼン作成およびプレゼン発表（リハーサルも含む）等の欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	プレゼンテーション基礎編B、文章表現法基礎編A・B、学びの基礎論A・B
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	B3号館3F（松尾研究室） E‐Mail：matsuo@are.ous.ac.jp
注意・備考	・本講義はプレゼンテーション基礎編Bを受講することが望ましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。ただし、私語については、グループワークを行うときはこの限りではない。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。 ・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。 ・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施しない

科目名	ボランティア論Ａ（FB21G040）
英文科目名	Introduction to Volunteer A
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義の進め方とテキスト、テーマの背景について解説する。受講シートの記入に取り組む。
２回	ボランティアのイメージについて考察する。
３回	ボランティアの動機と事例を検証する①。
４回	ボランティアの動機と事例を検証する②。
５回	ボランティアの発生と歴史について解説する。
６回	近代社会の成立とボランティアの関係を考察する。
７回	ボランティアの動機と事例を検証する③。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスに目を通しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：ボランティアの体験やイメージをまとめておくこと。 復習：ボランティアについての多様な視点を確認すること。（標準学習時間45分）
３回	予習：ボランティアのきっかけについて考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。（標準学習時間45分）
４回	予習：ボランティアの問題点について考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。（標準学習時間45分）
５回	予習：ボランティアの発生・歴史について考えておくこと。 復習：ボランティアの歴史をまとめること。（標準学習時間60分）
６回	予習：近代社会の特徴について考えておくこと。 復習：近代社会とボランティアの関係をまとめること。（標準学習時間60分）
７回	予習：ボランティアの意義について考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。（標準学習時間60分）
８回	予習：ここまでの講義内容を整理しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	ボランティアを多角的な視点から分析し、その動機・背景・歴史・意義について考える。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	ボランティア活動について、動機・背景・歴史・意義について理解した上で、自身の考えを述べることができる。
キーワード	ボランティア　NPO　社会貢献
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習に参加し課題をすべて提出することが最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	ボランティア論Ｂ、比較文化論
教科書	世良利和／「ボランティアへの視線－映画を手がかりにして考える」／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.受講者は必ずテキストを購入すること。 3.ボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 7.１００名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編Ａ（FB21G050）
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
２回	文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。
３回	小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。
４回	小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。
５回	ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。
６回	ストーリーを書く②：ストーリーを書く。
７回	文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。（標準学習時間45分）
３回	予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
４回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。（標準学習時間60分）
５回	予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。（標準学習時間90分）
６回	予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。（標準学習時間90分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。（標準学習時間90分）
８回	予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかり書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編Ｂ、文章表現法基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論Ａ（FB21H010）
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）,松尾美香（まつおみか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション、アイスブレイクと仲間づくり本講義の概要と進め方について、シラバスを確認しながら行う。また、評価方法についても説明する。本講義は、アクティブラーニング型の授業であるため、グループ活動を円滑にするための仲間づくりを行う。 （全教員）
２回	生涯にわたる学びと大学での学び生涯にわたる学びと大学で学ぶことの意義や学び方について説明する。特に、主体的な学びについて説明する。 （全教員）
３回	生涯にわたる学びと自己実現充実した人生を送るために、学びが生涯における幸福追求とどのようにかかわるのか説明する。 （全教員）
４回	ノートティキングノートの取り方について解説し、ノートを取る意味について考え、情報を能動的に受け取る姿勢について説明する。 （全教員）
５回	目標設定とタイムマネジメント、4年間の計画を立てる学びの目的を考えながら、大学での目標を設定する。目標を達成するためのタイムマネジメントや4年間の学びの計画、課外での学びについて計画を作成する。 （全教員）
６回	リーディングスキル①著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識を関連付ける練習も行う。 （全教員）
７回	リーディングスキル②著者の意図は何か、何を伝えたいのかを考えながら、文章を読む練習をする。また、文章から学んだことを他の知識を関連付ける練習も行う。 （全教員）
８回	振り返りの仕方3回目で設定した目標がどこまで達成できるいるかを点検するために、振り返りの仕方について説明する。 （全教員）

回数	準備学習
１回	予習として、シラバスを確認して講義の目的を理解すること。また、大学で学ぶ意義について、自分の夢や目標を踏まえつつ、考えておくこと。（標準学習時間60分）
２回	生徒と学生の違いについて、まとめておくこと。（標準学習時間60分）
３回	大学生活での目標を踏まえつつ、目標を達成するために、どのように時間を使うべきか考えておくこと。（標準学習時間60分）
４回	復習としてこれまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返っておくこと。（標準学習時間⑥0分）
５回	4年間でどのようなことを学びたいのか、どんな資格が取りたいのかをまとめておくこと。（標準学習時間60分）
６回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
７回	配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
８回	3回目で設定した目標を確認しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機づけを行う

	とともに、基礎的な学習技術を修得させることである。 （教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる（E)②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる（E)③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる（E)④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる（E)
キーワード	学び、キャリア設計、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価（合格基準60	・ワークシート（50%）・レポート（50%）より、成績を評価し、総計で得点率60%を合格とする。＊早退・遅刻は3回で1回の欠席とする。遅刻は30分まで、それ以降の入室は認めない。＊グループワークの欠席の場合は、その時点で評価対象としない。
関連科目	学びの基礎論B、地域フィールドスタディ、文章表現法基礎編A・B、プレゼンテーションA・B
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	西村（次）研究室:jiro@ee.ous.ac.jp松尾研究室：matsuo@are.ous.ac.jp オフィスアワーについては、mylogを参照のこと。
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Bを履修することがのぞましい。・授業中の飲食・私語は禁止する。・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。・授業で配布する資料の予備は保管しないため、後日の配布には応じない。・授業中の録音、録画、撮影は認めない。当別の理由がある場合、事前に相談すること。・本授業はアクティブラーニング型であるため、ペアワークやグループワーク等を行う。・授業中に課した課題のフィードバックは課題提出後、解説を行う。・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け付ける。・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。・提出課題については講義においてフィードバックする。・講義での録画/録音/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	プレゼンテーション基礎編Ａ（FB21H020）
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	「①プレゼンテーションの大切さ　②テキストと講義の進め方　③受講シートの記入と提出」について説明する。
２回	プレゼンテーションとは何か、について解説する。
３回	スクリプトの組み立て方について解説する。
４回	プレゼンテーション演習①を行い、演習を講評する。
５回	人前で話すためのポイントについて解説する。
６回	プレゼンテーションの技法①：印象で損をしないためのポイントについて解説する。
７回	グループ・ミーティング①：進め方の注意点を確認し、ミーティングを行う。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)
２回	予習：プレゼンテーションとは何か、について考えておくこと。 復習：プレゼンテーションの基本についてまとめること。(標準学習時間30分)
３回	予習：スクリプトの大切さを理解しておくこと。 復習：スクリプトの組み立てを確認すること。(標準学習時間45分)
４回	予習：指示されたテーマで短いプレゼンテーションを準備しておくこと。 復習：講評で指摘された点を確認すること。(標準学習時間60分)
５回	予習：演習①についてレポートを書き、人前で話す際の心構えをまとめておくこと。 復習：人前で話すためのポイントを確認すること。(標準学習時間90分)
６回	予習：印象の大切さについて考えてくること。 復習：印象で損をしないための技法を確認すること。(標準学習時間60分)
７回	予習：指示されたテーマについてミーティングの準備をしておくこと。 復習：ミーティングの内容をまとめておくこと。(標準学習時間90分)
８回	予習：プレゼンテーションのポイントをまとめ、最終評価試験の準備をしておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)

講義目的	自分の考えをわかりやすく伝えるための基本を身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	与えられたテーマで短いプレゼンを行うことができる。
キーワード	プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不可とする。
関連科目	プレゼンテーション基礎編B、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ、文章表現法基礎編Ａ・Ｂ、文章表現法応用編Ａ・Ｂ
教科書	世良利和・藤野薫／「プレゼンテーションⅠ　基礎編（改定新版）」（黄色版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。　4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　8.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　9.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。　10.本講義ではアクティブラーニングを実施し、グループワーク、グループディスカッションを行う。
試験実施	実施する

科目名	教養演習Ａ（FB21H030）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	高池久隆（たかいけひさたか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
１回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
２回	受講生に、自己紹介などをまじえた５分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。（１）
３回	受講生に、自己紹介などをまじえた５分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。（２）
４回	受講生に、自己紹介などをまじえた５分程度の発表を順番に行なうことを求め、発表・質疑応答の際心がけるべきことについての説明をする。（３）
５回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（１）
６回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（２）
７回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（３）
８回	教員側が選んだ新聞記事を題材として、文章を正確に読み、それをもとに議論するための訓練をする。（４） 最終評価試験を実施する。 試験終了後解説をする。

回数	準備学習
１回	シラバスを読んで、質問事項を整理しておくこと。　（標準学習時間60分）
２回	自分自身の特徴について整理しておくこと。　（標準学習時間120分）
３回	故郷の言語的特徴について調べておくこと。　（標準学習時間120分）
４回	岡山の文化的特徴について調べておくこと。　（標準学習時間120分）
５回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。　（標準学習時間120分）
６回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。　（標準学習時間120分）
７回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。　（標準学習時間120分）
８回	前回配布した資料を読み、質問事項を整理しておくこと。　（標準学習時間120分）

講義目的	この演習は次の２つを柱とする。 １）教員側が選んだ新聞記事を読みながら議論をする。 ２）各受講者が関心を持つ問題（分野を問わない）についての簡単な個人発表を行なう。 上記のような作業を行なうことにより、思考能力、表現能力の向上を目指す。 「教養演習Ａ」では教員側が提供する資料を主に扱う。 （教養教育センター　単位認定の方針Ｅにもっとも強く関与。）
達成目標	様々なテーマに対して自らの考えを整理し、説得力のある発言が行なえること。
キーワード	比較文化、異文化理解、討論
成績評価（合格基準60	最終評価試験（１００％）により成績を評価し、６０％以上を合格とする。
関連科目	教養演習Ｂ、比較文化論Ａ、比較文化論Ｂ
教科書	使用しない。（プリントを配布する。）
参考書	適宜指示する。
連絡先	B1号館2階　高池研究室
注意・備考	・受講者数の上限を５０名とする。 ・最終評価試験終了後解説を行なう。 ・プリントの配布は授業中に行なう。 ・授業中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間Ａ（FB21H040）
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	榎原宥＊（えばらゆたか＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義オリエンテーション（１）－　私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何か、というテーマで講義内容を説明する。
２回	第１回講義の続き　－　「市民性の授業」の解説と憲法改正への大きな流れについて説明する。
３回	立法への市民参加（１）－　私たちの周りにある究極のルール＝憲法と、憲法改定論議について解説する。
４回	立法への市民参加（２）－　憲法の前文と第九条について議論する。
５回	立法への市民参加（３）－　民主主義と立憲主義とは何か、について解説する。
６回	立法への市民参加（４）－　ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説を題材に、日本やドイツの戦後処理方法について共に考える。
７回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこに向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を経験するのか想像する。
８回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
２回	憲法改正について自分の意見を持って授業に参加すること。（標準学習時間：講義期間の前半は常にその意識を再確認すること。）
３回	日本国憲法の前文を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
４回	自衛隊は何故存在するのかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
５回	第3回より第4回までの講義の復習をしておくこと。（標準学習時間60分）
６回	靖国問題の予備知識を持って講義に臨むこと。（標準学習時間60分）
７回	現在、社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何か考えておくこと。
８回	第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のﾄﾗﾝﾌﾟ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題（問題）には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性＝社会参画の権利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」の内「立法」との関わりを論じます。皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議します。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定の方針Ｃにもっとも強く関与）
達成目標	憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義
成績評価（合格基準60	最終評価試験100％で評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	社会と人間Ｂ
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	関連科目の「社会と人間Ｂ」の履修を要望する。
試験実施	実施する

科目名	考古学Ａ（FB21H050）
英文科目名	Archaeology A
担当教員名	白石純（しらいしじゅん）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	考古学がなぜ必要かについて実例を挙げながら説明する。
２回	考古学はどんな学問か。考古学の定義について実例を挙げながら説明する。
３回	考古学の研究対象・時間的範囲・地域的範囲ついて実例を挙げながら説明する。
４回	いろいろな考古学(時代・地域・宗教・その他)について実例を挙げながら説明する。
５回	考古学はどのように発達したか、について実例を挙げながら説明する。
６回	考古学資料の種類(遺跡･遺構・遺物)について実例を挙げながら説明する。
７回	考古学の研究方法(型式学・一括遺物と共存関係)について実例を挙げながら説明する。
８回	考古学で用いられる年代測定法(放射性炭素法・考古地磁気法・年輪年代法)について実例を挙げながら説明する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを確認し学習の過程を調べておくこと。（120分）
２回	考古学の目的・定義について、図書館等で調べておくこと。（120分）
３回	考古学が対象とするものや年代の範囲について、図書館等で調べておくこと。（120分）
４回	考古学は時代・地域・その他で区分されている。この区分について、図書館等で調べておくこと。（120分）
５回	考古学が古代からどのように発達してきたか、図書館等で調べておくこと。（120分）
６回	考古学が取り扱う資料について,どのような物があるか。図書館等で調べておくこと。（120分）
７回	考古学の研究方法について、図書館等で調べておくこと。（120分）
８回	考古学で用いられる年代測定について、どのような測定法があるか、図書館等で調べておくこと。（120分）

講義目的	考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのか。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように解説する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について解説し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解させる。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解させることで、考古学が人文学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを学習することを目的とする。　（教養教育センター　単位認定の方針Ｂにもっとも強く関与。）
達成目標	理系。文系を問わず、さまざまな知識、学問に応用できるように発想や資料分析法の仕方の基礎知識を獲得することを目標とする。
キーワード	考古理化学、文化財、文化財科学
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100点%)により成績を評価する。
関連科目	なし
教科書	使用しない。
参考書	考古学ゼミナール／江上波夫／山川出版社：考古学の基礎知識／広瀬和雄／角川選書
連絡先	21号館6F　白石研究室　086-256-9655 shiraish@big.ous.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	文学Ａ（FB21H060）
英文科目名	Literature A
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス。講義の進め方を説明する。
２回	ヨーロッパとドイツについて概説する。
３回	「ニーベルンゲンの歌」　英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。
４回	「エミーリア・ガロッティー」　近代市民悲劇の誕生について説明する。
５回	「若きヴェルテルの悩み」　若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。
６回	「ファウスト」　人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。
７回	「青い花」　真理を求める果てしなき憧れについて説明する。
８回	「金髪のエックベルト」　夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
２回	ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。 （標準学習時間１２０分）
３回	テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間１２０分）
４回	テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間１２０分）
６回	テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。（標準学習時間１２０分）
７回	テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。（標準学習時間１２０分）
８回	テキストの第六章までに目を通して、重要事項を把握しておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）
達成目標	作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。
キーワード	文学、社会
成績評価（合格基準60	毎回のミニレポート４０％、最終評価試験６０％により成績を評価し、６０％以上を合格とする。
関連科目	ドイツ語Ⅰ、Ⅱ（ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。）
教科書	「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫
参考書	適宜指示します。
連絡先	
注意・備考	・作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。 ・ミニレポートについては次の時間に印象的なものを紹介する形でフィードバックをすることがある。 ・講義の撮影・録音・録画は一切認めない。 ・教科書以外に参考する資料については授業中に配布する。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間Ａ（FB21H070）
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
２回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
３回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
４回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
５回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
６回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、ＴＰＯに応じて使いわけることを学ぶ。
７回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
８回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
２回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
３回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
４回	発表するエピソードを考えておくこと。（標準学習時間　１２０分）
５回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
６回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
７回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
８回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。（標準学習時間　１２０分）

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニュケーション力の向上も図る。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価（合格基準60	小テスト１０％、最終評価試験９０％により成績を判断し、総計で６０％を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を７０名とする。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【火4金4】（FB21I010）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限 ／ 金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	日本国憲法の特質についての講義を行う。 ［内容］憲法の特質、憲法の基本原理と個人の尊重
２回	人権総論についての講義を行う。 ［内容］人権の種類、人権の享有主体、基本的人権の限界
３回	精神的自由（その１）についての講義を行う。 ［内容］思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由
４回	精神的自由（その２）についての講義を行う。 ［内容］表現の自由（意味・内容・限界）
５回	経済的自由についての講義を行う。 ［内容］職業選択の自由、転居・移転の自由、財産権の保障
６回	人身の自由（刑事手続上の諸権利）の講義を行う。 ［内容］適正手続の原則・無罪推定の原則、被疑者・被告人の諸権利
７回	受益権、社会権、参政権についての講義を行う。 ［内容］受益権、社会権、参政権
８回	法の下の平等（平等権）と包括的基本権についての講義を行う。 ［内容］法の下の平等、生命・自由・幸福追求権
９回	統治機構総論についての講義を行う。 ［内容］三権分立の意味と構造
１０回	国会についての講義を行う。 ［内容］国会の地位、組織と活動、国会議員の特権、国会の権能、議院の権能
１１回	内閣についての講義を行う。 ［内容］行政権と内閣、内閣の組織、内閣の権能と責任
１２回	裁判所についての講義を行う。 ［内容］司法権、裁判所の組織と権能、司法権の独立、違憲審査制
１３回	財政および地方自治についての講義を行う。 ［内容］財政の基本原則、財政監督の方式、地方自治の意義、地方公共団体の権能
１４回	天皇および平和主義についての講義を行う。 ［内容］天皇の地位と性格、天皇の権能、皇室経費、戦争放棄、平和的生存権
１５回	憲法改正についての講義を行う。 ［内容］改正の手続、改正の限界
１６回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
１回	このシラバスを熟読し、授業内容全般を確認しておくこと。 初回授業で講義の進め方と履修上の注意をするので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に来られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）
２回	前回の授業内容の日本国憲法の特質について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	前回の授業内容の人権の種類、享有主体、基本的人権の限界（特に公共の福祉の概念）について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
４回	前回の授業内容の思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
５回	前回の授業内容の表現の自由について、その意味・内容・限界について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	前回の授業内容の経済的自由について正確に理解し、きちんと復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
７回	前回の授業内容の人身の自由について、憲法31条から導き出される基本原則と、33条以下に規定されている被疑者・被告人の諸権利について、その内容と重要性を正確に理解し、きちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
８回	前回の授業内容の受益権、社会権、参政権について、それぞれの内容を正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
９回	前回の授業内容の法の下の平等について、判例の審査基準と実際に平等原則違反とされた事案を正確に理解し、復習しておくこと。また、新しい人権・権利として判例で認められたものとしてどの

	ようなものがあるか正確に理解しておくこと。ブログの配布資料で次回授業の予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
１０回	前回の授業内容の三権分立の意義について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１１回	前回の授業内容の国会の地位、組織と活動、権能について正確に理解し、復習しておくこと。特に両議院の差異や衆議院の優越についてきちんと整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概略を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１２回	前回の授業内容の内閣について、特に内閣総理大臣の権限と内閣の権限の違いをきちんと整理しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１３回	前回の授業内容の裁判所について正確に理解し、復習しておくこと。特に司法権の限界、違憲審査制についてきちんと整理しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１４回	前回の授業内容の財政および地方自治について正確に理解し、復習しておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１５回	第14回授業で扱った集団的自衛権の憲法上の問題について、その内容を正確に理解し、自身の考えをまとめておくこと。 ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
１６回	第１回～第15回の授業内容をよく理解し、整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	大学で憲法を学ぶというと、何だか難しいことを勉強するようなイメージを持たれるかもしれない。しかし考えてみれば、私たちは既にその憲法に基づく日本という国・社会の中で生活しているわけである。ということは、その憲法について知ったり考えたりすることはある意味、この日本という国で生活する者にとっての責務であるともいえるのである。この授業では、日本国憲法についての基本的な知識や考え方について具体的な事案や裁判例なども交えて分かりやすく解説し、憲法に関する問題点などについて一緒に考えてもらいたいと思っている。（教養教育センター単位認定方針のＣにもっとも強く関与する）
達成目標	①日本国憲法に関する基本的な知識や考え方を習得すること。 ②具体的な事案や憲法にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表現できるようになること。
キーワード	日本国憲法、最高法規、（基本的）人権、個人の尊重、三権分立
成績評価（合格基準60	授業内小テスト・レポート（計４回、各10%）＋条文プリント（10%）＋最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	法学
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表）/ 有斐閣 /ISBN 978-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	Ｂ３号館（旧２４号館）４階研究室
注意・備考	①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。 ②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。 ③憲法条文プリント（これについては初回授業で説明する）は、第５回授業までに提出すること。 ④テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。 ⑤小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。 ⑥新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間Ａ（FB21I020）
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
２回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行う。
３回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。①
４回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。②
５回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。③
６回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。④
７回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑤
８回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
３回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
４回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
５回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
６回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
７回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
８回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業の中で個人はどのように存在しているのか。本講義では具体的な職業および事例を取り上げながら、企業と人間をめぐる関係について考察する。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業組織の概略と職業の具体例を理解し、自身のキャリアデザインに向けた視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	企業と人間Ｂ、ボランティア論Ａ・Ｂ
教科書	プリントを配布する。
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。　2.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　5.70名程度を目安に受講制限を行うことがある。　6.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　7.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座Ａ（FB21I030）
英文科目名	Career Design A
担当教員名	寺田盛紀（てらだもりき）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	【オリエンテーション】　教科書第2章に従い、キャリア形成学とはどういう学問なのかについて、キャリア教育やキャリア開発の取り組みの発展と関連させて説明する。合わせて、8回の講義内容の概要を説明する。
２回	【第1章前半　日本におけるキャリア形成の仕組み】　このことに関して、従来の「移行モデル」について、日本的な雇用制度との関連で把握する。
３回	【第1章後半　若者の「移行」における揺らぎ】　1990年代以降の移行における伝統的モデルの変化の様相を理解する。
４回	【第3章　アメリカやドイツなどのキャリア教育】　学校・大学における生徒・学生のキャリア形成の計画的働きかけとしてのキャリア教育について、「母国」アメリカでのキャリア教育、ドイツのキャリア教育について写真データなどを交えて理解する。日本におけるキャリア教育の受容について比較し、共通性と差違について理解する。
５回	【第4章】　高校を中心にして日本におけるキャリア教育の展開、教育課程上の位置づけについて、職業指導－進路指導（キャリアガイダンス）－キャリア教育という流れで把握し、教育課程上の実践形態を知る。
６回	【第5章　高校におけるキャリア教育と進路指導の実際】　進学普通校、進路多様型普通校、専門(職業)高校の別にキャリア教育・進路指導の取り組みの特徴を理解する。
７回	【ワークショップ1　自己理解】　学校現場でのキャリア支援の具体例として、また受講生自身の自己理解の演習的授業として、職業興味検査を体験する。教員が評価方を説明する。
８回	【職業興味検査の自己評価法と最終評価試験】　第7回の興味検査の自己評価を行い、これまでのまとめのテストを行う。

回数	準備学習
１回	「キャリア形成」という概念について、ネット検索、図書館での書物に触れてみる。90分
２回	「フリーター」について、入門書か論文を読んでみる。120分
３回	「新時代の日本的経営」について予備知識を得ておく。90分
４回	アメリカのハイスクールについて知識を持っておく。90分
５回	自分が高校生の時の進路指導かキャリア教育の体験を纏めておく（発表を求める）。90分
６回	友人・きょうだいがいれば、専門高校での進路指導について、取材をしておく（発表を求められる）。90分
７回	自分の仕事・職業興味を振り返り、個人情報に触れない範囲で、発表できるようにしておく。60分
８回	全体について再学習し、試験に備える。　120分

講義目的	この講義は「キャリア形成」ということについての心理学、社会学、経済学、教育学などの知識を伝え、それを自分の体験や取材・事前学習との関連で理解することを目指す。合わせて、高校や大学での仕事や職業についての自己理解を体験し、探索的経験を促すことを目的とする。（教養教育センター　単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	各回の講義概要に期した理解目標、事前学習で指示している学習・取材・予備調査、その記録の週間、スキルを身につけること。
キーワード	キャリア形成、キャリア開発、キャリア教育、キャリアデザイン、進路、職業選択、職業観、高校生、大学生、成人職業人
成績評価（合格基準60	合格最低基準60%、最終評価試験（80%）、提出課題（レポートか質問・発問への回答(20%)
関連科目	「企業と人間」、「生徒・進路指導論」（教育学部）
教科書	キャリア教育論－若者のキャリアと職業観の形成/寺田盛紀/学文社、2016年第2刷/ISBN978-4-7620-2475-7
参考書	その都度指示する。
連絡先	キャリア形成センター
注意・備考	受講者数の上限は５０名とする。

試験実施	実施する

科目名	教養演習Ａ（FB21I040）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
１回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
２回	印象的な旅について手短に語る。（１）
３回	印象的な旅について手短に語る（２）
４回	印象的な旅について手短に語る。（３）
５回	岡山について語る。（１）
６回	岡山について語る。（２）
７回	岡山について語る。（３）
８回	最終評価試験と話し方の基本的な手順についての説明を行う。

回数	準備学習
１回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
２回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
４回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
６回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
７回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
８回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	まずは「旅」という誰しも体験可能なテーマについて語ることからスタートしますが、自分の興味がある分野を中心にさまざまなことを調べ、発表や討論によって「自分を表現する」力を養うことをねらいとしています。また資料やレジュメの作成方法を学ぶことによって、卒論や就職活動の基礎学力を身につけることも目指しています。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	学習テーマについて調べた内容を「まとめる」ことによって豊かな表現力を育み、グループ作業を通じて協調性を身につけることを目標としています。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
成績評価（合格基準60	演習（講義内でのプレゼンテーション等）８０％、最終評価試験２０％により成績を評価し、６０％以上を合格とする。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、Ⅱ
教科書	プリント配布
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館８階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は１５～２０名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は５０名とする。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間Ａ（FB21I050）
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	榎原宥＊（えばらゆたか＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義オリエンテーション（１）－　私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何か、というテーマで講義内容を説明する。
２回	第１回講義の続き　－　「市民性の授業」の解説と憲法改正への大きな流れについて説明する。
３回	立法への市民参加（１）－　私たちの周りにある究極のルール＝憲法と、憲法改定論議について解説する。
４回	立法への市民参加（２）－　憲法の前文と第九条について議論する。
５回	立法への市民参加（３）－　民主主義と立憲主義とは何か、について解説する。
６回	立法への市民参加（４）－　ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説を題材に、日本やドイツの戦後処理方法について共に考える。
７回	日本社会の現状を考え、この先日本はどこに向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を経験するのか想像する。
８回	講義の総括と最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
２回	憲法改正について自分の意見を持って授業に参加すること。（標準学習時間：講義期間の前半は常にその意識を再確認すること。）
３回	日本国憲法の前文を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
４回	自衛隊は何故存在するのかを考えておくこと。（標準学習時間60分）
５回	第3回より第4回までの講義の復習をしておくこと。（標準学習時間60分）
６回	靖国問題の予備知識を持って講義に臨むこと。（標準学習時間60分）
７回	現在、社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何か考えておくこと。
８回	第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のﾄﾗﾝﾌﾟ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題（問題）には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性＝社会参画の権利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」の内「立法」との関わりを論じます。皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議します。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定方針Ｃにもっとも強く関与））
達成目標	憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。
キーワード	市民性、ルールと秩序、民主主義
成績評価（合格基準60	最終評価試験100％で評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	社会と人間Ｂ
教科書	使用しない。講義中にレジメを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	関連科目の「社会と人間Ｂ」の履修を要望する。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学Ｅ(原子力発電を考える)（FB21I070）
英文科目名	Science Literacy E
担当教員名	兵藤博信（ひようどうひろのぶ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義の進め方を説明する。原子力とは何かを解説する
２回	原子力の発見と利用の歴史を解説する
３回	原子力と放射能を解説する
４回	原子炉の構造を解説する
５回	原子炉の運転と事故を解説する
６回	原子炉と放射性廃棄物処理を解説する
７回	地球温暖化とエネルギー問題を解説する
８回	エネルギー利用と社会のあり方を解説する

回数	準備学習
１回	核分裂、ウラン、質量エネルギーについて調べておくこと（標準学習時間60分）
２回	核分裂、ウラン、質量エネルギーについて復習し、オットー・ハーン、リーゼ・マイトナーとその業績について調べておくこと（標準学習時間60分）
３回	原子力の発見と利用の歴史について復習し、放射性壊変、自発核分裂、連鎖反応について調べておくこと（標準学習時間60分）
４回	放射能の性質、影響について復習し、軽水炉、重水炉について調べておくこと（標準学習時間60分）
５回	タイプの異なる原子炉の構造について復習し、スリーマイル島事故、チェルノブィリ事故、東日本大震災事故について調べておくこと（標準学習時間60分）
６回	原子炉三大事故について復習し、放射性廃棄物の処理方法、処理施設、核燃料サイクルについて調べておくこと（標準学習時間60分）
７回	放射性廃棄物の処理について復習し、地球温暖化と氷河期について調べておくこと（標準学習時間60分）
８回	地球温暖化とその対策について復習し、ソーラーパネル、風力発電などの発電効率について調べておくこと（標準学習時間60分）

講義目的	電気は現代社会において必要不可欠なエネルギーだが少資源国である日本は原子炉発電をこのまま継続していくのか、脱原発の道をとるのかの岐路に立っている。原子力によって発電する原理を理解し、エネルギー利用のあり方について考える。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	①放射線とその影響に対する基本知識を習得する ②原子力発電とエネルギー政策について自分で考える能力を養う ③原子炉事故、放射性廃棄物処理からリスクについて考える力を身につける
キーワード	核分裂、質量エネルギー、原子炉事故、安全性、放射性廃棄物処理、核燃料サイクル、地球温暖化、再生可能エネルギー
成績評価（合格基準60	毎回講義の終わりに提出するレポートを評価し、総合評価で60%以上を合格とする
関連科目	
教科書	なし
参考書	原子力神話からの解放/高木仁三郎/講談社＋α文庫/978-4-06-281436-2 終わりなき危機/ヘレン・カルディコット監修/ブックマン社/978-4-89308-839 -0
連絡先	アイソトープ実験施設2階　兵藤研究室　086-256-9724　hhyodo@rins. ous.ac.jp
注意・備考	レポートの回答例を次の講義の前半で示すという形でフィードバックを行う。知識を問う設問以外は正解が存在しないので考え方の指針を示すにとどめる。
試験実施	実施しない

科目名	科学技術と人間Ａ（FB21I080）
英文科目名	Science-Technology and Human Beings A
担当教員名	若村国夫＊（わかむらくにお＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	はじめに：①自己紹介、②テキストの使用、写真や図を中心とするプロジェクター利用の講義、③関心を持って講義を聴く重要性を述べる。続いて、「日本とヨーロッパでこんなに違う風土と生活」として身近な例を紹介し、風土の役割と、日欧の違いがなぜ生じたのかを考えるきっかけを提供する。
２回	「江戸時代までの技術と生活」江戸時代は日本の伝統技術の礎になっている。現代技術とどのように違うのかを紹介し、それらが作られた歴史と社会背景、特に大量生産を求めなかった江戸時代の封建制と鎖国政策との関係、それらが生活や技術・技能にどのように影響したのかを併せて紹介する
３回	「幕末から始まった日本の技術の近代化」開国が産業革命最終期に行われた重要性、徳川幕府が大金をはたいて雇った外国人技術者による技術教育、その成果とその後の発展、明治以降の産業技術の果たした役割、特に社会と戦争への影響、戦後の民衆的技術の発展による社会の近代化などを具体的に紹介する
４回	「中国の技術、考え方とその歴史」 　中世まで中国の技術は世界の先頭を走っていた。これがヨーロッパへ伝わり、大航海時代を生み、産業革命や科学の萌芽が生じ、西洋の近代化へとつながる。どのような技術が伝わったのか。技術発祥の基になった中国の伝統的世界観と歴史、中国の技術発展の低さの理由等を紹介する。
５回	「風土から見るヨーロッパ古代から中世の技術と社会」ヨーロッパは地理的に地中海周辺と北西ヨーロッパとに分けられる。地中海を代表するギリシャ、ローマの技術の特徴、船の技術の進歩が呼んだ地中海貿易や十字軍遠征でイタリアは豊かになり、ルネッサンスを生んだ。これら中世までの西洋の歴史を技術の視点から紹介する
６回	「科学技術の発祥と発展」１５，１６世紀の大航海時代をきっかけに北西ヨーロッパで花開いた科学。その原因を発明、発見の例から推測する。修道院を通じて広まった水車技術の機工的考え方の発展や１９世紀の技術から科学への経路を具体例で紹介する。ワットやフルトンは蒸気機関や蒸気船の発明者でない事や、ファラデーの電磁誘導の法則から発電機が生まれた訳でない事等、茶飲み話的ではあっても意味深い隠れた技術史も紹介する。ヨーロッパの人々の考える姿勢がヨーロッパの豊かさを導いたことも示す。
７回	「キリスト教の科学技術への貢献と科学が与えた自由平等の意識」キリスト教は西アジアで生まれたがその教えにはギリシャ人の考えが多く見られる。キリスト教の広まりと共に北西ヨーロッパの人々に自然現象のギリシャ的理解が浸透した。生物学では１９世紀においても尚２０００年前のギリシャ人の予言が信じられていた。キリスト教の歴史から自然科学、技術、芸術、自由平等社会構築へのキリスト教の貢献を紹介する。
８回	講義及び最終評価試験 講義は「アメリカの技術の特徴」 アメリカは１７世紀から本格化した移民の国である。当初、技術は無かったが、移住してきた各国からの人々の助け合い、自由平等の意識、技術への関心とレベルアップを目指す姿勢が１９世紀末ついに生産量や新技術で世界のトップに躍り出た。これらの内容と発展の歴史を辿り、技術の発展に何が重要かを理解する。

回数	準備学習
１回	特に無し
２回	身の周りの自然や風俗に関心を持つこと
３回	知識度にもよるが30分ほど第2回講義内容を復習すること。
４回	知識度にもよるが30分ほど第3回講義内容を復習すること
５回	知識度にもよるが30分ほど第4回講義内容を復習すること
６回	知識度にもよるが30分ほど第5回講義内容を復習すること
７回	知識度にもよるが30分ほど第6回講義内容を復習すること

８回	試験に対して第7回迄の講義内容を知識度にもよるが一時間以上は復習すること

講義目的	経験技術が科学技術となり、これが人間社会に与えてきた正と負の影響、文化との密接な関係、多様な技術アイデア創出の原因などを、技術の歴史や日中欧米の社会体制や風土などを通して認識する。最近の環境問題や台頭するかっての技術王国・中国、遅れから一気に先頭に躍り出たアメリカの技術政策などを視野に入れ、科学と技術が及ぼした自然や社会への影響と変遷の様子を見る。写真と図を中心とした映像で話を印象深く進める。
達成目標	科学や技術の視点から日本、欧米、中国の歴史を知り、客観的に社会現象を観る眼を養う。地球温暖化軽減の技術の方向や技術社会、人権と技術、技術のグローバル化の未来などを日本の伝統技術思考や産業革命前後の社会の構造変化や西洋の論理などから考察し、技術を幅広く捉えられる知識と思考を養い、２１世紀の技術の進むべき方向を自ら考えられる素地を作る。科学や技術の歴史を社会、経済、政治史などと結びつけて見ることで２１世紀の技術社会の方向が見えてくる。
キーワード	日欧中各国技術比較、伝統技術、封建制、民主主義、資本主義、産業革命、大英帝国、戦争、人権、技術アイデア、風土、グローバル化、発明
成績評価（合格基準60	授業ごとの小問試験(成績の12%)と最終評価試験(成績の88%)の得点による。
関連科目	特になし
教科書	科学技術と人間（科学技術の社会史）/若村国夫/書店販売しません
参考書	高校の教科書「日本史」、「世界史」、世界地図の常識的内容
連絡先	非常勤講師控室
注意・備考	・履修希望者が１５０名程度を越えた場合は受講生数制限をかけることがある。 ・地球温暖化、自然破壊、日本の伝統技術の消滅、近隣諸国との資源争奪競争など、技術立国日本の足元を揺るがす変化が多い中、本講義では科学や技術の視点から歴史や社会を客観的に見る眼を養い、日本はどうあるべきかを考える。このことは科学技術を学ぶ者にとって大いに必要となっている。学科の専門にとらわれず科学者、技術者、理科教員の品格を得る一助として受講を薦める。本講義は筆者の３０年に渡る日欧の伝統技術の研究と最も西洋科学的な物理的視点とを融合させ、技術と生活の結び付き、歴史や経済、人権などとの関係を加えた構成としている。身近な生活用具や風俗にも技術につながる要素が含まれていることを知ることが必要だ。 ・科学技術と人間A」と「科学技術と人間B」は順序的に関係しているので、ⅠとⅡの連続受講を勧めます。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21K010）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（講義の進め方、評価法などの説明）
２回	「枕草子」の読み方1
３回	「枕草子」の読み方2
４回	「枕草子」の読み方3
５回	「枕草子」の読み方4
６回	「降霊会の夜」の読み方1
７回	「降霊会の夜」の読み方2
８回	感想文（評価試験に代わるもの）執筆

回数	準備学習
１回	テキストを熟読しておくこと。（標準学習時間90分）
２回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
３回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
４回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
５回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
６回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
７回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
８回	感想文を書けるように考えをまとめておく。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすどころではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始めたい。（教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する）
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げることを目標とする。
キーワード	文章力の低下は読解力の低下から。
成績評価（合格基準60	発表点100点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」（プリント対応）、「降霊会の夜」浅田次郎（朝日文庫）
参考書	国語辞書、古語辞典
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	社会と人間Ａ（FB21K020）
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	市場恵子＊（いちばけいこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	【自尊感情とジェンダー】性に関するキーワード「sex,gender,sexuarity」を理解し、エンパワメントの理念を学ぶ。
２回	【性の多様性と可変性】性同一性障害（性別違和）・性分化疾患・性的指向（同性愛・両性愛・無性愛）など、性的少数者への理解を深める。
３回	【リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ】妊娠・出産・中絶・不妊など、生殖に関する基本的知識や、「性的自己決定権」を尊重し合う関係を学ぶ。性暴力や売買春についても検証する。
４回	【障がいとともに生きる】「障がい」とは？　自らの差別感や社会のバリアを検証する。
５回	【ＤＶと虐待】アニメ『パパ、ママをぶたないで』を観て、ＤＶや虐待について考える。ＤＶのサイクル、子どもへの影響、被害者の救済と加害者の更生などを学ぶ。
６回	【デートＤＶ】暴力や支配のない、お互いに尊重し合える対等なパートナーシップを学ぶ。
７回	【キャンパス・ハラスメント】キャンパスハラスメントとは？ハラスメントの防止対策を考える。
８回	【憲法とは何か？】（前半45分間講義）日本国憲法を守る義務を負うのは誰？ 憲法にはどんな役割があるのか。わかりやすい口語訳で解説する。 【試験】（後半45分間試験）

回数	準備学習
１回	【自尊感情とジェンダー】シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。教科書『愛する・愛される』Lesson５（63～76ページ）を読んでおくこと。（標準学習時間１２０分）
２回	【性の多様性と可変性】テレビ番組や雑誌などで、性的少数者を差別・侮蔑・嘲笑したりする場面はないか、チェックしておくこと。同性婚が認められている国、日本の現状を調べておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	【リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ】男性性器・女性性器の科学的名称、避妊の方法、性感染症など、復習しておくこと。（標準学習時間１２０分）
４回	【障がいとともに生きる】大学や駅、公共施設などに設置されたトイレ・エレベーター・自販機など、障がいをもつ人にとって住みよい環境が整備されているかチェックしておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	【ＤＶと虐待】ＤＶ（夫婦間暴力）や虐待はなぜ起きるのか。暴力の種類や影響について調べておくこと。（標準学習時間１２０分）
６回	【デートＤＶ】教科書『愛する・愛される』を読んでおくこと。（標準学習時間１２０分）
７回	【キャンパス・ハラスメント】本学ではセクハラ・アカハラ・パワハラを防止するために、どんな対策が行われているか、ガイドラインや相談窓口を調べておくこと。（標準学習時間１２０分）
８回	【憲法とは何か？】日本国憲法の前文と9条・12条・13条・14条・24条を読んでおくこと。 【試験】1～7回の資料や『愛する・愛される』にもう一度目を通しておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮す多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センター単位認定方針のＣにもっとも強く関与する）
達成目標	社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。
キーワード	自尊感情、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、性的少数者、性同一性障害、性的指向、インターセックス、リプロダクティブ・ヘルス＆ライツ、避妊、性感染症、性暴力、売買春、障がい、発達障害、虐待、いじめ、ＤＶ、デートＤＶ、セクハラ、アカハラ、パワハラ、日本国憲法、震

	災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、傾聴、Ｉメッセージ・ＹＯＵメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革
成績評価（合格基準60	毎回講義後に提出するミニレポート５０％、中間試験２５％、最終評価試験２５％により成績を評価し、総計で６０％以上を合格とする。
関連科目	
教科書	愛する・愛される～デートＤＶをなくす若者のレッスン７／山口のり子／梨の木舎
参考書	砂川秀樹『カミングアウトレターズ』（太郎次郎社）、安積遊歩『いのちに贈る超自立論～すべてのからだは百点満点～』（太郎次郎社エディプス）、熊谷晋一郎・綾屋紗月『発達障害当事者研究』（医学書院）、夾竹桃ジン『コミックちいさいひと（1～6巻）』（小学館）、井上ひさし『けんぽうのおはなし』（講談社）、谷口真由美『日本国憲法～大阪おばちゃん語訳～』（文芸春秋）
連絡先	ＰＣメール：kei3@po1.oninet.ne.jp Ｔ＆Ｆ：086-277-7522
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	哲学Ａ（FB21K030）
英文科目名	Philosophy A
担当教員名	堀田和義（ほったかずよし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法）、および哲学とは何かを説明する。
２回	西洋哲学（1）ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。
３回	西洋哲学（2）ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。
４回	西洋哲学（3）ー中世の哲学（スコラ哲学、普遍論争等）を説明する。
５回	西洋哲学（4）ーデカルトの生涯と思想を説明する。
６回	西洋哲学（5）ーカントの生涯と思想を説明する。
７回	西洋哲学（6）ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。
８回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
２回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
３回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
４回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
５回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
６回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
７回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義では、代表的な哲学者の思想を通して、西洋哲学の歴史をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）
達成目標	①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各時代の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 ③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。

キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学
成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学B、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	経営工学Ａ（FB21K040）
英文科目名	Industrial Engineering A
担当教員名	西敏明＊（にしとしあき＊）,天野貴仁＊（あまのたかひと＊）,生本覚＊（いくもとかく＊）,後藤誠＊（ごとうまこと＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,情報工学科,知能機械工学科,工学プロジェクトコース,生命医療工学科,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	人材育成事業（人材紹介、キャリアコンサルティング、メンタルヘルス、学習塾）に携わってきた経験をもとに、①「キャリアコンサルタント」という職種紹介と、②「キャリアコンサルタントを活かした起業経緯」について、の2点を中心に、受講生の自己理解と仕事理解への気づきを支援する。 （天野　貴仁＊）
２回	2004年にコタツの上でノートパソコンを片手に創業し2016年に自社ビルを建設した自身の起業、ビジネス体験談を踏まえながら、ホームページ、ブログ、SNSなどについてインターネットツールの昨今の移り変わりと、活用方法、最近のトレンドや、SNSモラルなどについて解説する。 （後藤　誠＊）
３回	日本の社会保障制度の成り立ちや変遷に基づいて、今後の社会がどうなっていくかなどを説明する。また、介護事業を通じて、知っておきたい制度ビジネスの起業に関するポイントを紹介する。 （生本　覚＊）
４回	経営と工学：工学からアプローチする際の経営の考え方、および経営工学の概略を説明する。 （西　敏明＊）
５回	ものづくりの取り巻く環境（生産、しくみ、経済状況、地球環境）について説明する。 （西　敏明＊）
６回	オペレーションリサーチ、納期管理と工程管理について説明する。 （西　敏明＊）
７回	トヨタ生産方式について説明する。 （西　敏明＊）
８回	1-7回までの総括を解説し、説明する。また、ここまでの講義内容について振り返ると同時にここまでの講義内容について最終評価試験を実施する。 （西　敏明＊）

回数	準備学習
１回	「ハローワークインターネットサービス - 厚生労働省編職業分類 https://www.hellowork.go.jp」を検索し、その中から自分が目指したいと思う職業（細分類）を3つ以内で選び出し、それぞれについて「就き方」を調べてくること。 （標準学習時間60分）
２回	社会人や趣味、ビジネス用途などでよく使われるSNSの代表格であるFacebook (https://www.facebook.com/)とは、どういうものなのか、どんな特徴があるのかについて予習しておくこと。また、イケサイ(https://www.ikesai.com/)で、最近のホームページデザインの傾向について軽く下調べしておくこと。 （標準学習時間60分）
３回	公的介護保険サービスの種類と名称について調べておくこと。 （標準学習時間60分）
４回	テキストの内容を目次と索引からどういう用語が使われているかを予習しておくこと。 講義終了後，講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理

	解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 （標準学習時間120分）
５回	前回の講義の復習と、テキストの「生産と生産現場を取り巻く環境」について予習しておくこと。講義終了後，講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 （標準学習時間120分）
６回	前回の講義の復習と、テキストの納期管理と工程管理について予習しておくこと。 講義終了後，講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 （標準学習時間120分）
７回	前回の講義の復習と、テキストのトヨタ生産方式について予習しておくこと。講義終了後，講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、次回の講義までに理解しておくこと。またわからない箇所が出てきた場合は、積極的に質問し、わからない箇所をなくしておくこと。 （標準学習時間120分）
８回	今まで講義中に配布したテキスト、プリントを事前に予習しておくこと。 講義終了後，講義で使用したテキストの箇所と配布プリントの内容を復習し、理解しておくこと。 （標準学習時間120分）

講義目的	経営工学は、工学の広範な範囲をカバーしている。工学の様々な技術・考え方を学ぶ上で、経営と工学、および工学を基礎とした経営最適化（例として、生産管理）の考え方、品質経営、オペレーションリサーチなどの基礎的知識・基本的事項を学ぶ。これらを学ぶことにより、広範な工学的専門知識の基礎となる考え方を理解・習得することを目的とする。 （教育支援機構　教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）Eに強く関与）
達成目標	・生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析などの基本的事項を理解できる（C） ・学生諸君の所属学科の専門知識に理解・応用できる能力を考え方を身につける(E) ・工学を学んでいく上で、様々な管理技術の考え方を身につけ、互いにコミュニケーションを取りつつ自らの考えをまとめ、人に伝え、説明できることが出来る（E） ＊（ ）は教育支援機構　教養教育センターの単位認定の方針（ディプロマポリシーに相当）の対応する項目（教育支援機構　教養教育センターのホームページ参照）
キーワード	生産システム、IE、品質経営、品質管理、工程管理・解析、オペレーションリサーチ
成績評価（合格基準60	最終評価試験（80%）とレポート（20%）を合計し、その合計点で総合的に評価する。 但し、合計点において、基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の者は不合格とする。
関連科目	工学系基礎科目
教科書	図解入門ビジネス　生産現場の管理手法がよーくわかる本[第2版] ／菅間正二／秀和システム／4798037303
参考書	適宜、講義中に示す。
連絡先	岡山理科大学Ｃ３号館４階「松浦研究室」
注意・備考	・講義関連資料は講義開始時に配布する。なお、特別な事情がない限り後日の配布には応じない。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・提出課題がある場合は、提出後、後日講義中に解答例を示しフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	技術マネジメントＡ（FB21K050）
英文科目名	Management of Technology A
担当教員名	西村寿夫＊（にしむらひさお＊）
対象学年	３年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションで、なぜ技術マネジメントが必要かを、ものづくり専門家及び企業経営の視点から説明し、技術を活用して企業価値を最大化することの必要性を理解する。第１章：MOT（技術経営） 西村　寿夫＊
２回	技能、技術、科学の違いを説明し、経営資源としての技術を理解し、技術開発や製品開発のロードマップの必要性を理解する。第２章：テクノロジー 西村　寿夫＊
３回	製品の三要素（QCD)を説明し、それらを確保するための小集団活動やフロントローディング、コンカレントエンジニアリング、DR（デザインレビュー）の役割を理解させる。第８章：プロダクツ 西村　寿夫＊
４回	品質管理、TQC,TQM,ISO等の歴史的背景や、最近の自動車メーカーや素材メーカーの不 祥事ついて説明し、ユーザーの信頼を勝ち取るための大きな要が品質であることを理解する。第９章：クオリティマネジメント 西村　寿夫＊
５回	日常業務の推進とプロジェクトマネジメントの違いを理解させ、プロジェクトマネージャーの役割を通して、プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。第１２章：プロジェクトマネジメント 西村　寿夫＊
６回	企業の規模が拡大すると、部門間の風通しが悪くなる。業務全体を俯瞰的視野でみたビジネスをマネジメントする経営手法を取り上げ、その業務推進の有効性を 理解する。第１３章：ビジネスプロセスマネジメント 西村　寿夫＊
７回	感と度胸と経験で判断するのではなく、論理的な考え方の重要性を理解する。一方、企業のグローバル化に伴い様々リスクが発生する。それらに対し、どのように考え、どう具体的なアクションに繋げるかを説明する。第１０章：ロジカルシンキング、第１１章：リスクマネジメント 西村　寿夫＊
８回	最終評価試験を行い、試験終了後に出題内容について解説を行う。 西村　寿夫＊

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義目的、講義内容、達成目標を把握しておくこと。（標準学習時間６０分）
２回	技術とは何かを理解し、経営資源としての技術の価値とは何か、また技術のロードマップについても理解しておくこと。（標準学習時間６０分）
３回	製品三要素やコンカレントエンジニアリングの重要性を予習しておくこと。（標準学習時間６０分）
４回	品質管理とは何をすることか、なぜ品質管理が必要かを予習しておくこと。（標準学習時間６０分）
５回	日常業務の推進とプロジェクトマネジメントの役割（C：コストリスク、S:スケジュールリスク、T:性能リスク）とリスクの低減を理解しておくこと。（標準学習時間６０分）
６回	ビジネスプロセスエンジニアリング、アウトソーシング、OEMとは何かを理解しておくこと。（標準学習時間６０分）
７回	演繹法と帰納法について予習しておくこと。リスクマネジメントとは何か、海外でのビジネスにはどのようなリスクがあるかを事前に考えておくこと。（標準学習時間６０分）
８回	１～７回までに説明した技術マネジメントAの基礎について復習しておくこと。（標準学習時間６０分）

講義目的	企業では、会社の体制、組織や末端までの部課に至る役割・分担が明確に定められて

	いる。それを実務経験の浅い若手が十分理解することは容易ではない。「技術マネジメント（経営）」は通産相でも定義されているように「技術を事業の核とする企業・組織が次世代の事業を継続的に創出し、継続的発展を行うための創造的、かつ戦略的なイノベーションのマネジメント」である。これを理解することで、技術者や研究者を目指す学生が、企業における技術者や研究者の立ち位置を俯瞰的に把握でき、将来のリーダーとしての能力を涵養できる。技術マネジメントAでは学生がより理解を得やすいように、ものづくりの現場に近い項目を中心に講義を行う。
達成目標	１．技能、技術、科学の違いを明確にできる。 ２．製作（含む設計）、品質管理のあるべき姿を求める能力を身につける。 ３．プロジェクトマネジメントの意図を理解する。 ４．業務の効率化を絶えず考える能力を身に漬ける。 ５．グローバル化に対する適正化とリスクを考える力を養成する。
キーワード	技術、品質管理、製造（設計）、プロジェクトマネジメント、ビジネスプロセス、ロジカルシンキング、リスクアセスメント
成績評価（合格基準60	毎講義のレポート（２０％）、最終評価試験（８回目、出題対象：１回から７回、８０％）の総合評価により、６０点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	技術経営論入門（わかりやすいMOTの考え方）/阿部隆夫/森北出版発行
参考書	１．延岡健太郎著/MOT（技術経営）/日本経済新聞社発行 ２．グローバルタスクフォース（株）編/通勤大学MBA11MOTテクノロジーマネジメント/総合法令出版発行 ３．久保田豊子著/図解でわかる原価計算いちばん最初に読む本/アニモ出版発行
連絡先	
注意・備考	1.各講義ごとに、与えられた課題に対するレポートを提出する。 講義中にレポートの内容に対しての説明や意見を学生が発表し、講師がコメントを行う。 ２．レポートは翌週（原則）にはコメントをつけて返却する。
試験実施	実施する

科目名	フレッシュマンセミナー（FB21L010）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	基礎理学科,バイオ・応用化学科,機械システム工学科,経営学科
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。① 大学４年間の「ゴール」を設定する（宣言する）② 社会貢献活動等を通じて「感動体験」を学ぶ（感動は「生きる力」の源）。③「学んだことを役立てようと思えば武器になる。思わなければ何の役にも立たない」。また、社会人として必要になる資質についても考え、大学における「教養」学習とは何かを講義する。
２回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。
３回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。
４回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生に課す。
５回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義を行う。最低限知っておくべき事務手続き、アパート暮らしでの注意点、最近の身近な犯罪・発生状況、学生を取り巻く環境等の具体的な説明も行う。
６回	自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。
７回	岡山理科大学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。
８回	「フレシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。①アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。②スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授によって考案されたキャリア理論「計画された偶発性理論（ Planned Happenstance Theory）」を紹介する。

回数	準備学習
１回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えてくること（標準学習時間60分）
２回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
４回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
５回	学生も自己責任を問われる社会人であるとの視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと。「学生便覧」「キャンパスライフ」「履修ガイド」を読んでおくこと。４月４日に配布の「レジュメ（学生課）」(カラーＡ４裏表版１枚)をよく読んで実践しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	自分が責任ある社会人として生きていくためにはどのような危機管理が必要かを考えておくこと（標準学習時間120分）
７回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
８回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけでなく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任

	を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間をどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。（教養教育センターの単位認定の方針のＦに最も強く関与する）
達成目標	（1）自己のライフデザインの中で、岡山理科大学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。 （2）その際に、大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。 （3）自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
成績評価（合格基準60	毎回の講義後出される課題において60%以上の評価により合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	教学支援センター長、教養教育センター長　（いずれも教学支援室へ問い合わせてください）
注意・備考	初回のガイダンスで説明するが，ポートフォリオを活用した課題提出（出席管理）を実施するので，そのためのスキルを習得すること。 フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。 特に４回目は研究倫理教育（全員必修）を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため，理大ホールで行う。席を詰めて座る，私語を慎む，遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間Ａ（FB21L020）
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
２回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
３回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
４回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
５回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
６回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、ＴＰＯに応じて使いわけることを学ぶ。
７回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
８回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
２回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
３回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
４回	発表するエピソードを考えておくこと。（標準学習時間　１２０分）
５回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
６回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
７回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
８回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。（標準学習時間　１２０分）

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニュケーション力の向上も図る。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価（合格基準60	小テスト１０％、最終評価試験９０％により成績を判断し、総計で６０％を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を７０名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21L030）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（講義の進め方、評価法などの説明）
２回	「枕草子」の読み方1
３回	「枕草子」の読み方2
４回	「枕草子」の読み方3
５回	「枕草子」の読み方4
６回	「降霊会の夜」の読み方1
７回	「降霊会の夜」の読み方2
８回	感想文（評価試験に代わるもの）執筆

回数	準備学習
１回	テキストを熟読しておくこと。（標準学習時間90分）
２回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
３回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
４回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
５回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
６回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
７回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
８回	感想文を書けるように考えをまとめておく。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすどころではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始めたい。（教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する）
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げることを目標とする。
キーワード	文章力の低下は読解力の低下から。
成績評価（合格基準60	発表点100点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」（プリント対応）、「降霊会の夜」浅田次郎（朝日文庫）
参考書	国語辞書、古語辞典
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	論理学Ａ（FB21L040）
英文科目名	Logic A
担当教員名	中島聰（なかしまさとし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション。序論として、論理学の定義・その学問的な特徴・論理的な推論の形態について説明する。
２回	西洋の古代・中世の論理学の歴史を概説する。
３回	西洋の近現代の論理学の歴史を概説する。
４回	伝統的論理学(1)　名辞(概念)の意味と種類、外延と内包、定義について説明する。
５回	伝統的論理学(2)　命題(判断)の性質・種類・標準形式、周延不周延について説明する。
６回	伝統的論理学(3)　直接推理の性質、種類として対当推理・変形推理について説明する。
７回	伝統的論理学(4)　間接推理のうち、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本型について学習する。
８回	古代論理学の歴史と基礎的な事項についての学習内容を復習する。 また最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	講義全体の学習内容を、シラバスで確認し、把握しておくこと。(標準学習時間60分)
２回	教科書第一部「西洋論理学の思想史的背景」を読み、西洋論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
３回	教科書第一部「西洋論理学の思想史的背景」を読み、西洋論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
４回	教科書第二部「名辞」を読み、名辞(概念)の意味、外延と内包、種類、定義について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
５回	教科書第二部「命題」を読み、命題(判断)の性質、種類と標準形式、周延不周延について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
６回	教科書第二部「直接推理」を読み、推理の性質、その種類として対当推理・変形推理について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
７回	教科書第二部「間接推理」を読み、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
８回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	西洋の代表的な論理学である伝統的論理学を中心にして、論理学の基礎を学習する。論理学は「人間の正しい思考の規則・法則を明らかにする」基本的・形式的な学問である。論理学の基礎的な事項や思考方法を学び、さらに初級的な推論の形態やその技法を習得することで、社会生活上での言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力の上達を目的とする。（教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する）
達成目標	①各論理学の基礎的な事項について正確な理解ができる。 ②初級的な推論の問題演習を通して、その技法を身につけることができる。 ③社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開できる。
キーワード	西洋の古代中世論理学の歴史　　アリストテレス　　概念・命題・推理　　論理的推論の形態と技法
成績評価（合格基準60	最終評価試験により成績を評価する。 最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	なし。
教科書	論理学研究／中島　聰／ふくろう出版／978-4-861865466
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照すること。
連絡先	
注意・備考	論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須です。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理

	解できるようになります。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論Ａ（FB21L050）
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と講義の概略を示す。
２回	日本映画とアメリカ映画における放射能の表象を比較する。①
３回	日本映画とアメリカ映画における放射能の表象を比較する。②
４回	物語の舞台としての「学校」について考察する。①
５回	物語の舞台としての「学校」について考察する。②
６回	アクション映画における日本と香港の相関性を分析する。①
７回	アクション映画における日本と香港の相関性を分析する。②
８回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでくること。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：テキスト第1章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。（標準学習時間45分）
３回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。（標準学習時間45分）
４回	予習：テキスト第3章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。（標準学習時間45分）
５回	予習：テキスト第14章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。（標準学習時間45分）
６回	予習：テキスト第4章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。（標準学習時間60分）
７回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。（標準学習時間60分）
８回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	岡山を起点として、映画における文化の地域性と表象を提示し、その比較・分析を通じて文化の多様性と相関性を明らかにする。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）
達成目標	岡山の地域性を知った上で、様々な文化表象の背景にある歴史、風土、社会を理解する。
キーワード	岡山、映画、比較文化論、表象文化論
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	比較文化論Ｂ、ボランティア論
教科書	世良利和／「まぁ映画な、岡山じゃ県！」／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.受講者は必ずテキストを購入すること。 3.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 4.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 5. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 6.１００名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 9.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	倫理と宗教Ａ（FB21L060）
英文科目名	Ethics and Religion A
担当教員名	堀田和義（ほったかずよし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法）、および倫理とは何かを説明する。
２回	一神教の倫理（1）―ユダヤ教・キリスト教の倫理を説明する。
３回	一神教の倫理（2）―イスラームの倫理を説明する。
４回	哲学者と倫理（1）―徳倫理学を説明する。
５回	哲学者と倫理（2）―カントの倫理学を説明する。
６回	哲学者と倫理（3）―功利主義を説明する。
７回	現代の倫理―動物の生命についての様々な考え方を説明する。
８回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、「倫理とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
２回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
３回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
４回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
５回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
６回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
７回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義では、代表的な宗教や哲学者の思想を通じて、主として西洋の倫理思想を学ぶ。倫理的な思考方法をしっかりと身につけることにより、日常生活でもそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）
達成目標	①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 ③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を追体験し、日常生活に役立てることができる。
キーワード	倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学

成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	倫理と宗教B、哲学
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間Ａ（FB21M010）
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義の進め方とテキスト、受講マナーについてガイダンスを行い、講義の概要を解説する。
２回	企業とは何か。会社組織について基本的な説明を行う。
３回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。①
４回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。②
５回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。③
６回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。④
７回	企業と人間の関係について考え、職業の事例を紹介する。⑤
８回	講義のまとめを行い、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
３回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
４回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
５回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
６回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
７回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義内容をまとめること。（標準学習時間45分）
８回	予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	企業の本質とは何か。そして企業の中で個人はどのように存在しているのか。本講義では具体的な職業および事例を取り上げながら、企業と人間をめぐる関係について考察する。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業組織の概略と職業の具体例を理解し、自身のキャリアデザインに向けた視点を獲得する。
キーワード	企業、会社、組織、キャリアデザイン、就職
成績評価（合格基準60	ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、最終評価試験60%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	企業と人間Ｂ、ボランティア論Ａ・Ｂ
教科書	プリントを配布する。
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。　2.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 3.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 4. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　5.70名程度を目安に受講制限を行うことがある。　6.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　7.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　8.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	法学Ａ（FB21M020）
英文科目名	Law A
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	法とは何かについての講義を行う。 ［内容］社会規範としての法、法と道徳の違い
２回	六法の使い方についての説明を行う。 ［内容］六法とは？、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方
３回	法の体系についての講義を行う。 ［内容］法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系
４回	法の分類についての講義を行う。 ［内容］法の内容による分類（公法と私法、一般法と特別法など）
５回	法の効力についての講義を行う。 ［内容］法の効力とは？、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消し
６回	法の適用についての講義を行う。 ［内容］法の適用とは？、事実認定の必要性と重要性
７回	法の解釈についての講義を行う。 ［内容］文理解釈、論理（目的）解釈
８回	最終評価試験および全体の総括を行う。

回数	準備学習
１回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。 初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に来られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）
２回	第１回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。 購入した自分の六法の中身を見ておくこと。（例えば、どんな法令が幾つ収録されているか？ 国語や英語の辞書と違う点は何か？など）ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	第２回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
４回	第３回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと（授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
５回	第４回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	第５回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと（特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
７回	第６回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと（法の適用の手順、事実認定の重要性など）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）
８回	第７回の授業内容の法の解釈について正確に理解しておくこと（解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと）。 第１回から第７回までの内容を復習しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学生の皆さんにとって法とか法律というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし考えてみれば、私たちは既に法や法律がとりまく社会の中で生活しているわけである。そうであるなら、一般市民として必要な法や法律に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や法律に関する基本的な知識や考え方について、具体的な事案や裁判例などを交えて分かりやすく解説したいと考えている。また初めて法学を勉強する者のためのコツなども適宜教えたいと思っている。（教養教育センター単位認定方針のＣにもっとも強く関与する）
達成目標	①法に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得すること。 ②六法を使って必要な条文が検索できるようになること。
キーワード	法、社会規範、成文法、法律、判例
成績評価（合格基準60	授業内小テスト（計２回、各20%）＋最終評価試験（60%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。

関連科目	法学B、日本国憲法
教科書	ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表）/ 有斐閣 /ISBN 97 8-4-641-00918-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	Ｂ３号館（旧２４号館）４階研究室
注意・備考	①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。 ②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。 ③テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。 ④小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。 ⑥新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。
試験実施	実施する

科目名	福祉環境論Ａ（FB21M030）
英文科目名	Welfare Environmental Science A
担当教員名	西村次郎（にしむらじろう）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	本講義のガイダンス（福祉の目的、意義、講義概要）をする。 「自己実現」について説明する。
２回	現代社会における福祉環境の課題について説明する。 人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人間の「幸せ」について説明する。
３回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について説明する。「障害」について説明する。
４回	「人にやさしい街づくり」について説明する（DVD等）。
５回	「バリアフリー」や「誰もが使いやすい道具」「ユニバーサルデザイン」　について説明する。
６回	「人にやさしい家づくり」について説明する（DVD等）。
７回	「人にやさしい道づくり」について説明する（DVD等）。
８回	これまでのまとめと最終評価試験

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。 受講者調整の可能性があるので必ず出席のこと。（標準学習時間60分）
２回	福祉の目的、意義について復習すること。人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人生の「幸せとは何か」について考え、まとめて おくこと。（標準学習時間120分）
３回	幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
４回	福祉に関する条約や法規について復習すること。「人にやさしい街づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
５回	「人にやさしい街づくり」の内容について復習すること。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
６回	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について復習すること。「人にやさし家づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間120分）
７回	「人にやさしい道づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間100分）
８回	これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	人間尊重の視点に立ち、障がい者や高齢者の幸福追求の権利（自己実現）や 生きがい感獲得の方策について考察するとともに、一人ひとりの人間の 幸福追求について新たに見つめ直す。 「人生の一回性」の認識を深め、生と死について考察し自己存在感の 認識実現につなげる。(教養教育センター単位認定方針のＤにもっとも強く関与する）
達成目標	①障がい者や高齢者の課題について、それらは限定された特別なものではなく、社会全体や一人ひとりの人間の共通課題として捉え、説明できること。ＤＭＤ症児について説明できること。（Ｃ） ②福祉機器やユニバーサルデザインについて理解を深め、説明できること。（Ｄ） ③世界人権宣言、障がい者の権利宣言、幸福追求の権利等について説明できること。（Ｃ） ④現代社会の福祉環境の課題について要約できること。（Ｄ）
キーワード	世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、 ユニバーサルデザイン、
成績評価（合格基準60	課題提出２回（３０％）、最終評価試験（７０％）
関連科目	健康の科学。生涯スポーツⅡ（ヨット）およびスポーツと フィールド科学（ヨット）では、障がいのある学生も受講できるように ユニバーサルデザインのヨットを使っています。
教科書	適宜配布する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	Ｂ３号館　３階　西村（次）研究室
注意・備考	受講者の積極性を期待しています。 知識だけでなく実際に見て、触れて、考えましょう。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に相談すること。 ・提出課題については講義においてフィードバックを行う。 ・本講義ではアクティブラーニングを行うため、受講者が多数の場合は受講者制限を行う場合があ

	る。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間Ａ（FB21M040）
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 ＊国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
２回	＊古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
３回	＊古典とする環境問題/人口論について説明する。
４回	＊人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 ＊基本的な国際時事用語を学ぶ。
５回	＊世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 ＊基本的な国際時事用語を学ぶ。
６回	＊日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 ＊基本的な国際時事用語を学ぶ。
７回	＊水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
８回	＊「人口」と「食糧」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 ＊最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。日本の置かれている立場について最低限の知識をつけておくこと。（標準学習時間１２０分）
２回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間１２０分）
４回	配布資料に目を通しておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	配布資料に目を通しておくこと。（標準学習時間１２０分）
６回	配布資料に目を通しておくこと。（標準学習時間１２０分）
７回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 （標準学習時間１２０分）
８回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	①新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 ②メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 ③国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 ④経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。

キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
教科書	必要に応じ、指示する。
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	
注意・備考	受講者数が１００名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	マスメディア論Ａ（FB21M050）
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice A
担当教員名	髙下義彦＊（こうげよしひこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	マスメディア論のいわば入門編。イントロダクション「現代人とマスメディア」講義の進め方、試験の方法や評価方法、マスメディアの概略について説明する。
２回	「メディアと日本人」幕末に創刊された新聞から現在のインターネットまで、日本人がどのようにメディアを受け入れてきたかを学習する。
３回	「新聞①」日本や世界の新聞の誕生から変遷や現状を学習する。
４回	「新聞②」日本の新聞社の組織、新聞の作り方を、山陽新聞を例に見ていく。取材、編集から制作までを学習し、ニュースの価値判断について考察する。
５回	「新聞③」新聞はどのように読まれているか、どのように評価されているか。日本新聞協会が行った「全国メディア接触・評価調査」の結果から、日本人の新聞との付き合い方を学習する。
６回	「放送」日本の放送の歴史と現状をテレビを中心に学習する。
７回	「出版」日本の出版産業の歴史と現状を学習する。
８回	1～7回を総括し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
２回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
３回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
４回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
５回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
６回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
７回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)
８回	新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)

講義目的	現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。（教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与）
達成目標	①マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。 ②マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。 ③正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。
キーワード	マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー
成績評価（合格基準60	合格基準60点。最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート（時事ニュースなどについて）10%
関連科目	情報社会論、ジャーナリズム論
教科書	適宜、資料などを配布する。
参考書	図説　日本のメディア/藤竹暁編著/ＮＨＫ出版：メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書：鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書：ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社：メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書
連絡先	山陽新聞社編集局製作管理センター

	岡山市柳町2-1-1 電話086-803-8168(工程管理部) メール　koge.yoshihiko@sanyonews.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	身近な化学Ⅰ（FB21M060）
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives Ⅰ
担当教員名	森義裕＊（もりよしひろ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質は粒子からできていることを説明する。
２回	身の回りの物質は、いろいろと分類できることを説明する。
３回	物質の性質の調べ方、混合物を純物質に分ける方法について説明する。
４回	元素・周期表と原子・電子について説明する。
５回	物質中で原子はどう結びついているか、説明する。
６回	分子は原子の結合によってできていることを説明する。
７回	化学者は分子の形をどうやって調べるのか、説明する。
８回	1回～7回までの総括を説明する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	物質は粒子からできていることについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身の回りの物質を考える」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
２回	身の回りの物質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「物質を特徴づけるものは何か」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
３回	物質を特徴づけるものについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「すべての物質は原子からできている」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
４回	すべての物質は原子からできていることについて復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「物質中で原子はどう結びついているか」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
５回	物質中で原子はどう結びついているかについて復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「分子は原子の結合によってできる」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
６回	分子は原子の結合によってできていることについて復習を行うこと。第7回目授業までに分子の形はどうやって分かるのか、調べておくこと（標準学習時間90分）
７回	分子の形はどうやって分かるのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと（標準学習時間120分）
８回	ここまでに授業内容についての復習を行うこと（標準学習時間120分）

講義目的	私たちが認識する物質は、すべて原子という粒子でできている。しかしその粒子は小さすぎて、私たちが直接実感することは難しい。原子には種類があり、その種類のことを元素という。元素で種類分けされた複数の原子が結合して、様々な形の分子になる。身近な物質がどのような原子・分子からできているかを知り、小さすぎて見えない原子・分子の世界を想像し、実感できるようにする。身近な物質を化学の視点で認識できるようにする。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	(1)身近な物質がどのような原子・分子からできているか説明できる (2)原子・分子・電子の世界が私たちの世界に比べてどれぐらい小さい世界であるか説明できる (3)身近な物質をいろいろな視点から分類できる (4)物質中で原子はどう結びついているか説明できる
キーワード	物質、元素、原子、分子、電子、周期表、化学結合、金属、イオン、物質量
成績評価（合格基準60	小テストの結果40 %、最終評価試験60 %により成績を評価し、総計で60 %以上を合格とする。
関連科目	本科目に引き続き「身近な化学II」を履修することが望ましい。
教科書	「化学」入門編　身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ／日本化学会　化学教育協議会「グループ・化学の本21」編／化学同人／978-4759810912
参考書	指定しない
連絡先	e-mail: ymori.ous@gmail.com
注意・備考	・講義中の録音／録画は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影（静止画）は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・講義の最後に、適時小テストを行う。 ・小テストについては、翌講義時に解答と解説をし、フィードバックを行う。

	・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な化学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編Ａ（FB21M070）
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	藤野薫＊（ふじのかおる＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
２回	文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。
３回	小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。
４回	小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。
５回	ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。
６回	ストーリーを書く②：ストーリーを書く。
７回	文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。（標準学習時間45分）
３回	予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
４回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。（標準学習時間60分）
５回	予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。（標準学習時間90分）
６回	予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。（標準学習時間90分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。（標準学習時間90分）
８回	予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかり書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編Ｂ、文章表現法基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21N010）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫＊（ふじのかおる＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
２回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
３回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
４回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
５回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
６回	文章を要約する③：参考文を要約する。
７回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 （標準学習時間30分）
２回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 （標準学習時間30分）
３回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 （標準学習時間45分）
４回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 （標準学習時間45分）
５回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 （標準学習時間45分）
６回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 （標準学習時間45分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 （標準学習時間45分）
８回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検を行うこと。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	与えられた文章の構成を理解し、的確に要約することができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60	演習（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編Ｂ、文章表現法応用編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	藤野薫・三木恒治・世良利和／文章表現法Ｉ基礎編（パステルブルー版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6．講義には必ず国語辞典（通信

	機能のない電子辞書も可）を持参すること。　7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	社会と人間Ａ（FB21N020）
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。 ＊国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。
２回	＊古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。
３回	＊古典とする環境問題/人口論について説明する。
４回	＊人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。 ＊基本的な国際時事用語を学ぶ。
５回	＊世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。 ＊基本的な国際時事用語を学ぶ。
６回	＊日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。 ＊基本的な国際時事用語を学ぶ。
７回	＊水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。
８回	＊「人口」と「食糧」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。 ＊最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。日本の置かれている立場について最低限の知識をつけておくこと。（標準学習時間１２０分）
２回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	前回の講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間１２０分）
４回	配布資料に目を通しておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	配布資料に目を通しておくこと。（標準学習時間１２０分）
６回	配布資料に目を通しておくこと。（標準学習時間１２０分）
７回	前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。 （標準学習時間１２０分）
８回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食糧」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。 これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）
達成目標	①新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。 ②メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。 ③国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。 ④経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。

キーワード	人口問題、出生率、食糧自給率
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	企業と人間、技術者の社会人基礎
教科書	必要に応じ、指示する。
参考書	必要に応じ、資料を配布する。
連絡先	
注意・備考	受講者数が１００名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	マスメディア論Ａ（FB21N030）
英文科目名	Mass Media-Theory and Practice A
担当教員名	八木一郎（やぎいちろう）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。メディアについて学ぶ意義を説明する。
２回	メディアの意味や既存のマスメディアの歴史と現況について概略を説明する。
３回	マーシャル・マクルーハンのメディア論について説明する。
４回	新聞の歴史と特性について説明する。
５回	ラジオの歴史と特性について説明する。
６回	映画の歴史と特性について説明する。
７回	テレビの歴史と特性について説明する。
８回	１回～７回の講義内容について振り返り、最終的な評価をするための試験を実施する。

回数	準備学習
１回	授業内容の確認と復習。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。（標準学習時間６０分）
２回	メディアの意味を説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	マクルーハンの提起した２つの概念について説明できるよう復習する。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。（標準学習時間１２０分）
４回	新聞の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	ラジオの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。（標準学習時間１２０分）
６回	映画の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。（標準学習時間１２０分）
７回	テレビの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。（標準学習時間１２０分）
８回	最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間１２０分）

講義目的	生活に欠かせないメディアの存在。そのメディアの特性を知り、社会のあり方や情報の活用方法について学ぶことで、社会人としての資質を養う。（教養教育センター単位認定の方針Ｃにもっとも強く関与。）
達成目標	様々な情報の中からどう取捨選択するか、メディアに対するリテラシー能力を高め、社会人としての判断力を身につける。
キーワード	情報社会、マクルーハン
成績評価（合格基準60	最終評価試験を実施し、１００点満点とする。
関連科目	情報メディア、ジャーナリズム論、コミュニケーション、
教科書	なし
参考書	図説　日本のメディア/藤竹暁/ＮＨＫ出版:たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまプリマー新書
連絡先	Ａ１号館６Ｆ　八木研究室　086-256-9758
注意・備考	受講者数が１００名を超える場合、受講制限をする可能性がある。
試験実施	実施する

科目名	身近な物理学Ⅰ（FB21N040）
英文科目名	Physics closely related to our daily lives Ⅰ
担当教員名	中川益生＊（なかがわますお＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	天体の運動について説明する。どのような考えにより天動説が主張されたのか、またどのような観測結果に基づいて地動説が正しいとされたのかを説明する。
２回	地上の物体の運動について説明する。ガリレオが実証と論証に基づいて慣性の法則や落体・放物体の運動を明らかにした経緯を述べ、演示実験で確認する。
３回	ニュートンの運動の第１・第２・第３法則について説明する。演示実験により慣性の法則を確認し、また実験的にニュートンの第２・第３法則を検証する。
４回	円運動と万有引力の法則について説明する。円運動に関わる演示実験を行う。天体の運動に基づいて万有引力の法則が導出された過程を詳述する。
５回	仕事とエネルギーについて説明する。仕事とエネルギーの定義の妥当性、位置・運動エネルギーについて述べ、エネルギー保存則の演示実験を行う。
６回	これまでの講義内容について、30分間の小テストを行う。　その後、温度と熱について説明する。温度と熱の相違や熱の正体に関する演示実験を行う。
７回	気体分子の運動と比熱について説明する。ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式が確立される過程について述べ、関連する演示実験を行う。
８回	これまでのまとめと最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	教科書p.1～7を読んでノートにまとめ、天体の運動について予習すること。（標準学習時間60分）
２回	教科書p.8～17を読んでノートにまとめ、慣性の法則、速度・加速度の概念、落体・放物体の運動について予習すること。（標準学習時間60分）
３回	教科書p.18～23を読んでノートにまとめ、慣性や力の概念、力と加速度の関係、作用反作用と運動量について予習すること。（標準学習時間60分）
４回	教科書p.24～30を読んでノートにまとめ、万有引力の法則、慣性質量と重力質量、円運動と角運動量保存則について予習すること。（標準学習時間60分）
５回	教科書p.31～38を読んでノートにまとめ、仕事とエネルギーの概念、位置・運動エネルギー保存則の予習と、（標準学習時間60分）
６回	1～5回までの復習をすること。　教科書p.39～47を読んでノートにまとめ、熱容量と熱の概念、熱の正体について予習すること。（標準学習時間120分）
７回	教科書p.48～62を読んでノートにまとめ、気体分子運動論や比熱、熱力学の法則について予習すること。（標準学習時間60分）
８回	教科書p.1～62までの内容とこれまでの講義内容をノートに整理し、復習して理解を深めること。（標準学習時間180分）

講義目的	物理学とは、物の理（ことわり）即ち自然現象の原因を実験的・理論的に解明する学問である。この授業では，授業中に行う多くの演示実験の観察を通して、我々の身のまわりで起こる「力学」と「熱」に関わる自然現象を物理的に説明する能力を身につけることを目的とする．高校での物理公式の知識を必要とせず、できるだけ数式の計算を行わずに、実験の観察と論理的な思考により物理的方法論を修得せしめることに努める。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	① 演示実験や実験ビデオの観察を通して、身近な自然現象を一般化して物理法則を見出す過程を学ぶ。 ② 物理学の諸法則が確立してきた歴史的過程を知ることにより、先人たちの物理的な思考方法を学ぶ。 ③ 自然現象を簡潔に説明するために、種々の物理量を定義することの必要性とその意味を理解する。 ④ 身近な物理現象に関する物理パズルの解答・質疑応答を通して、生きた物理学の知識を身に着ける。
キーワード	速度、加速度、力、運動量、質量、仕事、エネルギー、温度、熱

	ニュートンの運動の第１第・２第・３法則、万有引力の法則、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則、ボイル・シャルルの法則、熱力学の第１・第２法則
成績評価（合格基準60	授業中に行う小テストを50点満点としてその評価点をx点とし、最終評価試験を(100-x)点満点としてその評価点をy点とし、xとyの合計を得点として成績を評価する。得点が60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	演示実験と科学史で学ぶ物理学入門／中川益生／内田老鶴圃 プリント版書籍のため一般書店では販売せず、学内の丸善㈱教科書販売所で販売する。
参考書	古典物理学を創った人々／エミリオ・セグレ　久保亮五・矢崎裕二訳／4-622-04088-3／みすず書房
連絡先	masuo12345nakagawa@gmail.com
注意・備考	高校における物理学の知識の有無は問いませんが、講義中に毎回行なう演示実験や実験ビデオを通して物理学を学びますので、必ず毎回出席してノートに記録してください。物理学は特に論理的思考を重視する学問ですから、試験においても自筆ノートは持ち込み可とします。　以下の学科は、本科目の内容の一部が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある：　基礎理学科、電気電子システム学科、機械システム学科、知能機械工学科、生命医療工学科、建築学科、工学プジェクトコース、応用物理学科。　「物理学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「物理学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な物理学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 ・テストについては、次回の講義日に解答・評価などのフィードバックを行う。 ・講義中の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・必要に応じて、講義開始時に講義資料等を配布する。
試験実施	実施する

科目名	身近な生物学Ⅰ（FB21N050）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives Ⅰ
担当教員名	波田善夫（はだよしお）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	原始地球における生命の誕生について考える。どのような条件が生命の発生に必要であるかを中心に議論する。
２回	発生した生命は、原始地球の環境を大きく変化させた。鉄鉱石や石灰岩の多くはその変化の中で形成されたものである。どのように原始生命が地球環境を変えてきたかについて考える。
３回	大きく変化した大気環境によって、生命は陸上で生活することが可能となった。その仕組みとともに、これにともなう動物の進化について学ぶ。
４回	細胞の基本構造と機能について学ぶ。現在の細胞は複数の生命体が共生することから出発し、統一された一つの生命体となることによって飛躍的に深化してきた。このようなプロセスと細胞内構造体について理解する。
５回	タンパク質は生命体を構成する物質の中で、非常に重要なものである。タンパク質の構造と機能について学ぶ。
６回	タンパク質の代謝と含窒素排出物について学ぶ。前回学んだようにタンパク質は多様な機能を持っているが、永遠の寿命を持っているわけではない。常に新しく作られ、そして分解されて排出される宿命を持っている。この過程について学ぶ。
７回	神経は多細胞の動物らしさにとって、非常に重要である。神経伝達のしくみと進化、そして我々の行動に影響を与える物質、薬物との関係にも言及する。
８回	これまでの講義内容についてまとめを行い、その後に最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	原始地球の状態を調べ、どのような条件が生命誕生に必要であったかを考えておくこと。（標準学習時間30分）
２回	光合成の過程を予習してくること。（標準学習時間60分）
３回	動物の循環系、呼吸系の進化について予習してくること。（標準学習時間60分）
４回	細胞の基本構造について予習してくること。（標準学習時間60分）
５回	DNAの遺伝情報がアミノ酸の配列となってタンパク質が形成される過程を予習してくること。（標準学習時間60分）
６回	窒素を含む化合物は栄養分となったり、有毒物質になったりする。尿毒症、大気汚染における窒素酸化物を理解してくること。（標準学習時間60分）
７回	神経伝達の仕組みについて予習してくること。（標準学習時間分）
８回	最終評価試験に向け、講義の内容を復習・理解しておくこと。最終試験は論述形式であるので、系統立てた理解と記述が求められる。

講義目的	生物である人間を理解するために、生物の基礎的な内容を、進化という時間軸からの観点を加味して学ぶ。学びの姿勢は、物質や構造などの細部を記憶するのでは無く、大局的な流れを理解し、複雑系である生命現象の多面性を見つけることにある。複雑系である生命を理解することを目的とする。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	生物、特にヒトを理解することによって自分の行動を律することができる。 生理的理解を深め、健康を維持することの要点を理解できる。
キーワード	生命の誕生、原始地球、陸上進出、細胞、タンパク質、神経伝達
成績評価（合格基準60	第３回終了時点で、それまでの講義内容に関するレポートの提出を求める(40%)。最終評価試験60%とし、総合60%以上を合格とする。
関連科目	身近な生物学Ⅱ
教科書	なし 逐次、ホームページによって講義内容を情報提供する。
参考書	逐次、ホームページ等によって情報提供する。
連絡先	研究室：２１号館６F 電話　086-256-9646
注意・備考	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので，全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科

	「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 「身近な生物学Ⅰ」と「身近な生物学Ⅱ」はある程度の順序性があるので、連続受講を推奨する。 課題レポート、最終評価試験については模範解答と採点基準をホームページの講義ノートに掲載する。 講義中、ホームページの講義ノートを閲覧することはかまわないが、最終評価試験中においては閲覧を禁止する。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編Ａ（FB21N060）
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	世良利和＊（せらとしかず＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
２回	文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。
３回	小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。
４回	小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。
５回	ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。
６回	ストーリーを書く②：ストーリーを書く。
７回	文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。（標準学習時間45分）
３回	予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
４回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。（標準学習時間60分）
５回	予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。（標準学習時間90分）
６回	予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。（標準学習時間90分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。（標準学習時間90分）
８回	予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかり書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編Ｂ、文章表現法基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学Ｆ(怪しげな科学情報について考える)（FB210010）
英文科目名	Science Literacy F
担当教員名	滝澤昇（たきざわのぼる）,櫃本泰雄（ひつもとやすお）,猪口雅彦（いのぐちまさひこ）,高原周一（たかはらしゅういち）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	◯オリエンテーション 　本授業を受けるに当たっての手続きや、授業の概要と進め方について説明します。初回は大切ですので、必ず出席してください。 （全教員）
２回	◯外部講師による特別授業（予定） 著名な外部講師を招聘して、特別授業を行います。テーマは何か、お楽しみに。 （全教員）
３回	◯グループ作りとアイスブレイク グループ分けの後，アイスブレイクを行います。またクリッカーの使い方を説明します。 ◯テーマ１：不可思議なイオン「マイナスイオン」（問題提起） ;高等学校の理科で学ぶイオンとは、原子から電子が失われた陽イオン、原子が電子を受け取った陰イオンがあります。ところが世の中には「マイナスイオン」という言葉をよく耳にします。「マイナスイオン」は体をリフレッシュするなど「マイナスイオン」を売り文句とする商品がたくさんあります。「マイナス」だから陰イオンのことなのでしょうか？「マイナスイオン」とはなにか、その正体について考えます。 （全教員）
４回	◯テーマ１：マイナスイオン（討論とまとめの報告） テーマ１について、担当教員からの情報提供の後、グループに分かれて受講者相互に意見を交換し、授業時間の終わりに、代表者が討論のまとめを報告します。ここでは受講者からの積極的な発言が求められます。 （以後のテーマについても、同様に授業を進めます） ◯テーマ２：血液型と性格（問題提起と意見分布） ;日本においては血液型と性格の関係が、しばしば話題となります。人の性格は血液型と関連つける事ができるのか／できないのかについて問題提起をし、その後、受講生の意見発言を求め、分布を調査します。 （全教員）
５回	◯テーマ２：血液型と性格（討論とまとめの報告） ◯テーマ３：遺伝子組換え作物は安全それとも危険か？（問題提起） 　スーパーで見かける食品の原材料欄に「遺伝子組換えでない」と表記されているものを見かけます。遺伝子組換え作物は危険？それとも安全？　科学的に考察しましょう。 （全教員）
６回	◯テーマ３：遺伝子組換え作物は安全それとも危険か？（討論とまとめの報告） ◯自由課題（１）：テーマ決定 　一見科学的だが怪しげな情報の真偽についてグループで討論します。（１）では、テーマを決めます。各自が少なくとも１項目提案できるように準備しておいてください。 （全教員）
７回	◯自由課題（２）：討論と発表の準備 各グループでそれぞれのテーマについて科学的見地から調査した情報を持ち寄り、グループで討論します。また発表の方法しや提示資料の作成などについて打ち合わせる。最後にグループの代表者

	が、グループで出た意見の要約や結論など、活動をまとめて３分程度で発表します。 （全教員）
８回	○自由課題（３）：発表会 ポスターを作成して発表します。 （全教員）

回数	準備学習
１回	このシラバスを読んで、授業の進め方と授業概要を承知しておくこと。（標準学習時間：20分）
２回	似非科学とは何か、調べておくこと。また外部講師はどのような方か、調べておくこと。（標準学習時間：60分）
３回	テーマ１について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：90分）
４回	テーマ１について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
５回	テーマ２について書籍やインターネットを通じてさらに情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。（標準学習時間：60分）
６回	テーマ３について書籍やインターネットを通じて情報を収集して、各自の考えをまとめておくこと。 自由課題のテーマ探し 　これまでの授業を参考に、一見科学的だが本当だろうか？と思う情報を見つけておくこと。各自が少なくとも１項目提案できるように準備しておいてください。（標準学習時間：60分）
７回	それぞれのテーマについて前回の打ち合わせに応じて調査してくること。 （標準学習時間：90分）
８回	発表の準備・資料作成 　要旨（またはポスターの縮刷版）をA４用紙１ページ程度で作成し、前週土曜日までに滝澤に提出する。 発表会後、最終レポートとして、この授業での学びを振り返ってラーニングポートフォリオを書く。提出方法・期日は、授業中にお知らせします。 （標準学習時間：90分）

講義目的	「現代人の科学」へようこそ。「現代人の科学」では岡山理科大学生が、リテラシー（常識）として身につけておくのが望ましい科学に関するテーマを取り上げ、素養を高めていこうという科目です。皆さんの中には、自分の専門だけを深めることに注力し、そのすぐ周辺の事柄にすら興味や理解を持たないこともよくあります。「現代人の科学」を履修することで、幅広い「科学教養人」として活躍する基礎を築きましょう。 「現代人の科学」ではいくつかのテーマを取り上げ、テーマ毎にクラスが構成されています。このクラスでは、世の中でに広まっている一見科学的で正しいと思われるけれど、よく考えてみると本当かな？と感じられる情報を取り上げ、その情報の真偽について考えます。社会において、科学を学んだ人は科学に関する情報について少し立ち止まり、その情報が本当に正しいのか、常に冷静に判断し、周囲の人たちに情報を提供する必要があります。批判的に物事を見、判断するという態度を身につけていただきたいと考えています。さあ、討論を楽しみましょう。 なお、この授業ではグループ内での討論とその結果の発表などによりアクティブ・ラーニングを行います。（理科教育センター開講科目の単位認定方針C「自らが専門としない分野も含む科学技術全般に関わる情報を正しく理解できる基礎的な知識を持っている」に強く関与）
達成目標	この授業での達成目標は、次の通りです。 ・科学的かつ批判的思考力を養う。すなわち、普段の生活において耳にする一見科学的で正しいと思われているような情報について調査し、科学的根拠に基づいてその信憑性について考察し、判断し、考えをまとめて人に伝える能力を養成する。 ・自らの考えをまとめて人に伝え、討論して考え、まとめることができる能力を養成する。 ・チームとして調査し、考え、討論し、発表する能力を養成する。 　（コミュニケーション力、プレゼンテーション力）
キーワード	批判的思考力、似非科学、自分の考えをまとめて他人に伝える力（コミュニケーション力、プレゼンテーション力）
成績評価（合格基準60	・授業時間中での活動状況（グループ内相互評価を含む）と、毎回の授業時間の終わりに提出するリフレクションシート（２０％） ・自由課題の発表（５０％） ・ラーニングポートフォリオ（３０％）
関連科目	現代人の科学の他のクラス

	、パソコン入門などの情報リテラシー科目
教科書	特にありません。授業に関する資料は、授業時間中に配布します。
参考書	・気になる科学／元村有希子／毎日新聞社／1500円（税別） ・季刊「理科の探究（RikaTan）」2014春号／文理／1400円（雑誌） ・もうダマされないための「科学」講義／菊池 他出版社／光文社／4334036449 その他、各テーマに関する参考書や資料、その他の情報は、図書館やインターネット上において各自で検索すること。科学ボランティアセンターにも多くの参考となる図書を置いています。
連絡先	滝澤　昇：12号館５階、takizawan[アトマーク]dac.ous.ac.jp 櫃本泰雄：24号館３階、hitsumot[アトマーク]dls.ous.ac.jp 猪口雅彦：A１号館７階、ino[アトマーク]dbc.ous.ac.jp 高原周一：A1号館３階、takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp
注意・備考	○この授業は８回１単位です。具体的な講義日程は、オリエンテーション時にお知らせします。 ○外部講師の都合により特別授業（講演会）を土曜日午後に開催する場合があります。（日時・タイトル未定、　都合により通常の授業に変更される場合があります） ○授業の進め方 　一つのテーマについて、次のように進行します。 　第１日：問題提起。意見分布調査後、グループに分かれての討論 　第２日：教員からの情報提供。グループでの討論の後、要約の発表 ;以上を繰り返します。 　グループでの討論に際しては、情報収集のためノートPCやタブレットPC、 　スマートフォン等を持参し、活用してください。 ○取り上げるテーマは、変更されることがあります。 ○第８週では、グループごとで日常生活において耳にする科学に関する情報を取り上げ、その信憑性について調査討論し、得られた結論や討論の要約を発表していただきます。 ;○その他変更する場合がありますので、詳細は初回の講義時に配付する授業計画を参照してください。 ○受講生が50名以上の場合は受講制限することがあります。
試験実施	実施しない

科目名	生命の化学概論（FB210020）
英文科目名	
担当教員名	金子明裕（かねこあきひろ）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	講義内容の説明と進め方を説明する。醸造・生命に関わる化学について説明する。
２回	アミノ酸の基本について説明する。
３回	タンパク質、糖質、脂質について説明する。
４回	酵素、消化と吸収について説明する。
５回	核酸、遺伝子、バイオテクノロジーについて説明する。
６回	アミノ酸、タンパク質の機能性について説明する。
７回	お酒と機能性について説明する。
８回	最終評価試験を説明する。

回数	準備学習
１回	授業内容の確認。シラバスをよく読んでおくこと。（標準学習時間30分）
２回	教科書（はじめの一歩の　イラスト生化学・分子生物学）の第1部2章2-B アミノ酸、タンパク質の項をよく読んでおくこと。（標準学習時間45分）
３回	教科書（はじめの一歩の　イラスト生化学・分子生物学）の第1部2章タンパク質、糖質、脂質、第3部9章 糖質の代謝、脂質の代謝、タンパク質の代謝の項をよく読んでおくこと。（標準学習時間60分）
４回	教科書（はじめの一歩の　イラスト生化学・分子生物学）の第2部3章酵素、ホルモン、第3部8章臓器の働きの項をよく読んでおくこと。（標準学習時間60分）
５回	教科書（はじめの一歩の　イラスト生化学・分子生物学）の第2部4章～7章遺伝子に関わる箇所をよく読んでおくこと。（標準学習時間60分）
６回	バイオテクノロジーの教科書　上　基礎・食品・環境　の第２章をよく読んでおくこと。（標準学習時間60分）
７回	配布資料をよく読んでおくこと。（標準学習時間60分）
８回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間180分）

講義目的	生命の化学に関与するアミノ酸、タンパクの基礎を知ることができます。 アミノ酸・タンパクに関する機能性についても学習します。 〔大学の学位授与方針項目(C)に強く関与し、(A)及び（B)に関与する〕
達成目標	①アミノ酸とタンパク質を理解すること。(B),(C) ②発酵食品、アミノ酸、タンパク質に関わる機能性食品を理解できること。(B),(C) ※()内は大学の「学位授与の方針」の対応する項目。
キーワード	アミノ酸、タンパク質、機能性食品、
成績評価（合格基準60	最終評価試験（80%）及び授業時間の確認テスト（20%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする
関連科目	（１年次開講科目）ワインの科学、生命の基礎化学、ブドウ栽培学、ワインプロジェクト実習Ⅰ （２年次開講科目）生命の化学概論、発酵と微生物、ワイン醸造法、ワインプロジェクト実習Ⅱ３年次開講科目）ワインプロジェクト実習Ⅲ
教科書	・はじめの一歩の　イラスト生化学・分子生物学／前の正夫・磯川桂太郎　著／羊土社 ・バイオテクノロジーの教科書　上　基礎・食品・環境／ラインハート・レンネバーグ著／講談社 ・配布資料
参考書	・図解でよくわかる発酵のきほん／舘博　監修／誠文堂新光社 ・発酵・醸造食品の技術と機能性／北本勝ひこ／シーエムシー出版
連絡先	金子明裕　B1号館２階・ワイン発酵科学センター
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	教養演習Ａ（FB21P010）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
１回	ガイダンス。講義の進め方について説明する。
２回	印象的な旅について手短に語る。（１）
３回	印象的な旅について手短に語る（２）
４回	印象的な旅について手短に語る。（３）
５回	岡山について語る。（１）
６回	岡山について語る。（２）
７回	岡山について語る。（３）
８回	最終評価試験と話し方の基本的な手順についての説明を行う。

回数	準備学習
１回	シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。
２回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
３回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
４回	自分の経験した旅について、話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
５回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
６回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
７回	自分の体験の範囲内で、「岡山」について話ができるように準備しておくこと。（標準学習時間１２０分）
８回	これまでの話の進め方について、問題点を確認しておくこと。 最終評価試験の準備をしておくこと。（標準学習時間１２０分）

講義目的	まずは「旅」という誰しも体験可能なテーマについて語ることからスタートしますが、自分の興味がある分野を中心にさまざまなことを調べ、発表や討論によって「自分を表現する」力を養うことをねらいとしています。また資料やレジュメの作成方法を学ぶことによって、卒論や就職活動の基礎学力を身につけることも目指しています。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	学習テーマについて調べた内容を「まとめる」ことによって豊かな表現力を育み、グループ作業を通じて協調性を身につけることを目標としています。
キーワード	「文化に触れる」「社会を知る」「自己を表現する」
成績評価（合格基準60	演習（講義内でのプレゼンテーション等）８０％、最終評価試験２０％により成績を評価し、６０％以上を合格とする。
関連科目	プレゼンテーションⅠ、Ⅱ
教科書	プリント配布
参考書	適宜指示します。
連絡先	A-2号館８階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	時事、文化に関する情報、知識を、書物等を通じて日頃から収集するよう心がけてください。 この講義は１５～２０名を前提としていますが、そうでない場合は講義内容が変更となる場合がありますので、ご留意ください。 また、初回は必ず出席してください。 受講者数の上限は５０名とする。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21P020）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（講義の進め方、評価法などの説明）
２回	「枕草子」の読み方1
３回	「枕草子」の読み方2
４回	「枕草子」の読み方3
５回	「枕草子」の読み方4
６回	「降霊会の夜」の読み方1
７回	「降霊会の夜」の読み方2
８回	感想文（評価試験に代わるもの）執筆

回数	準備学習
１回	テキストを熟読しておくこと。（標準学習時間90分）
２回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
３回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
４回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
５回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
６回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
７回	自分なりに講義範囲を読解しておく。（標準学習時間90分）
８回	感想文を書けるように考えをまとめておく。

講義目的	文章を書くということは社会人になるためには必要不可欠な事である。にもかかわらず、報告書にさえ意味不明の日本語を書き散らすどころではなく、句読点の打ち方さえわかっていない人が山ほどいる。この講義では文章力の低下は紙媒体とあまり接しなくなったからではないかと分析し、基礎文章力を上げるために古典や現代の名文を読むことにより、読解力を付けてもらう事から始めたい。（教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する）
達成目標	少なくとも文学作品の行間を読める程度には読解力を上げることを目標とする。
キーワード	文章力の低下は読解力の低下から。
成績評価（合格基準60	発表点100点で60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「枕草子」（プリント対応）、「降霊会の夜」浅田次郎（朝日文庫）
参考書	国語辞書、古語辞典
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・講義の性格上、受講生は最大50名までとする。 ・この講義は全員参加型なので、講義にきちんと出席し、自分の意見を言える人はもちろんの事、いい文章を書きたいと望んでいる学生だけに参加してもらいたい。
試験実施	実施しない

科目名	科学技術倫理Ａ（FB21P030）
英文科目名	Science and Engineering Ethics A
担当教員名	佐藤元治（さとうもとはる）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	倫理とは何かについての講義を行う。 ［内容］倫理とモラル、法と倫理
２回	技術者と倫理についての講義を行う。 ［内容］なぜ技術者の倫理か、職務上の義務、積極的倫理
３回	組織の中の個人の役割についての講義を行う。 ［内容］スペースシャトル・チャレンジャー号事故、安全文化
４回	組織上の人間関係についての講義を行う。 ［内容］組織について、組織とコミュニティ、組織のコミュニケーション、積極的倫理の行動のイメージ、利益相反
５回	倫理実行の手法についての講義を行う。 ［内容］倫理のケース・スタディの手法、倫理的行動ガイドライン、倫理的判断の方法、全体像の把握
６回	技術者のアイデンティティについての講義を行う。 ［内容］科学技術とは何か、技術者のアイデンティティ、ＪＣＯ臨界事故
７回	技術者の資格についての講義を行う。 ［内容］技術者資格の仕組み、プロフェッショナル・エンジニア制度
８回	これまでの授業の総括と最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認しておくこと。 初回の授業で授業の進め方や履修上の注意をするので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。教科書の第１章を読み、倫理とは何かについて考えておくこと。（標準学習時間60分）
２回	教科書の第２章を読み、技術者と倫理について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	教科書の第３章を読み、ＮＡＳＡのスペースシャトルの２つの事故（チャレンジャー号事件とコロンビア号事件）の概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
４回	教科書の第４章を読み、組織上の人間関係の概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
５回	教科書の第５章を読み、倫理実行の手法の概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	教科書の第６章を読み、ＪＣＯ臨界事故の概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
７回	教科書の第７章を読み、各国のさまざまな技術者の資格について予習し、整理しておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの授業内容をきちんと整理し、理解しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	科学技術の進歩と産業の発展は私たちの生活をより豊かなものにしてくれている。しかしその一方で、企業の不祥事や技術者の不正行為などによって、私たちの生活の安全が脅かされることもしばしば生じている。そのため技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性が以前にも増して求められているのである。この授業では、科学技術の分野で今後の日本の社会を担う技術者や企業に求められる社会的責任や倫理について、過去に起きた事案や実例を素材として一緒に考えてもらうことを目的とする。（理科教育センター単位認定方針のＤに最も強く関与する）
達成目標	①技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性を認識する。 ②具体的な事案・実例について、問題点を正確に把握し、その解決方法を主体的に探究し、外部に表明できる能力を身につける。 ③上記①②を通じて、科学技術の分野で今後の社会を担う技術者・企業人としての倫理観・責任感を養う。
キーワード	（技術者）倫理、利益相反、技術者のアイデンティティ
成績評価（合格基準60	授業内小テスト・レポート（60%）＋最終評価試験（40%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	科学技術倫理Ｂ、法学
教科書	［第5版］大学講義　技術者の倫理入門/ 杉本泰治・高城重厚/ 丸善出版/ ISBN978-4-621-30016-9
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	B3号館（旧24号館）4階研究室

注意・備考	①授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。 ②教員が授業で使用したスライドや小テストの解答は後にPDFファイルでポータルサイトにあげておくので、復習に活用すること。 ③受講生が多い場合には座席指定をする場合がある。 ④新聞・ニュースなどで実際の社会で起こっている出来事や事件を毎日欠かさずチェックすること。
試験実施	実施する

科目名	フレッシュマンセミナー（FB21Q010）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	知能機械工学科,情報科学科,生物地球学科
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。① 大学４年間の「ゴール」を設定する（宣言する）② 社会貢献活動等を通じて「感動体験」を学ぶ（感動は「生きる力」の源）。③「学んだことを役立てようと思えば武器になる。思わなければ何の役にも立たない」。また、社会人として必要になる資質についても考え、大学における「教養」学習とは何かを講義する。
２回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。
３回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。
４回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生に課す。
５回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義を行う。最低限知っておくべき事務手続き、アパート暮らしでの注意点、最近の身近な犯罪・発生状況、学生を取り巻く環境等の具体的な説明も行う。
６回	自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。
７回	岡山理科大学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。
８回	「フレシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。①アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。②スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授によって考案されたキャリア理論「計画された偶発性理論（ Planned Happenstance Theory）」を紹介する。

回数	準備学習
１回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えてくること（標準学習時間60分）
２回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
４回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
５回	学生も自己責任を問われる社会人であるとの視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと。「学生便覧」「キャンパスライフ」「履修ガイド」を読んでおくこと。４月４日に配布の「レジュメ（学生課）」(カラーＡ４裏表版１枚)をよく読んで実践しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	自分が責任ある社会人として生きていくためにはどのような危機管理が必要かを考えておくこと（標準学習時間120分）
７回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
８回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけでなく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任

	を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間をどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。（教養教育センターの単位認定の方針のＦに最も強く関与する）
達成目標	（1）自己のライフデザインの中で、岡山理科大学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。 （2）その際に、大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。 （3）自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
成績評価（合格基準60	毎回の講義後出される課題において60%以上の評価により合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	教学支援センター長、教養教育センター長　（いずれも教学支援室へ問い合わせてください）
注意・備考	初回のガイダンスで説明するが，ポートフォリオを活用した課題提出（出席管理）を実施するので，そのためのスキルを習得すること。 フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。 特に４回目は研究倫理教育（全員必修）を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため，理大ホールで行う。席を詰めて座る，私語を慎む，遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。
試験実施	実施しない

科目名	技術者の社会人基礎Ａ（FB21Q020）
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,機械システム工学科,工学プロジェクトコース,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 ＊文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
２回	＊ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
３回	＊テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
４回	＊手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 ＊封書（宛名・差出人）の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
５回	＊テーマに基づいた手紙を作成する。（標準学習時間　１２０分）
６回	＊手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
７回	＊テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
８回	まとめ

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 （標準学習時間　１２０分）
２回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
３回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
４回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
５回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
６回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
７回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
８回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 （標準学習時間　１２０分）

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションの重要さを理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	①社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ②ビジネスマナーにのっとた電話応対ができる。 ③コミュニケーションの重要さを理解し良好な人間関係の構築ができる。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
成績評価（合格基準60	提出課題50％・講義ごとの小テストの結果50％により成績を評価し、総計で60％を合格とする。
関連科目	社会と人間、企業と人間
教科書	特定の教科書は指定しない。

参考書	適宜、指示する。
連絡先	
注意・備考	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を７０名とする。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21Q030）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
２回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
３回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
４回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
５回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
６回	文章を要約する③：参考文を要約する。
７回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 （標準学習時間30分）
２回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 （標準学習時間30分）
３回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 （標準学習時間45分）
４回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 （標準学習時間45分）
５回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 （標準学習時間45分）
６回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 （標準学習時間45分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 （標準学習時間45分）
８回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検を行うこと。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	与えられた文章の構成を理解し、的確に要約することができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60	演習（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編Ｂ、文章表現法応用編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法Ｉ基礎編（群青色版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	A2号館8階、オフィスアワー別途参照
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6．講義には必ず国語辞典（通信

	機能のない電子辞書も可）を持参すること。　7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文学Ａ（FB21Q040）
英文科目名	Literature A
担当教員名	淺野純一（あさのじゅんいち）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション：この講義についてと中国文学の特徴について説明する。
２回	詩経と楚辞について説明する。
３回	陶淵明について説明する
４回	唐詩1李白について説明する
５回	唐詩2杜甫について説明する
６回	唐詩3杜甫・李白以外の詩人（李賀、李商隠など）について説明する
７回	宋詩　蘇軾（蘇東坡）について説明する
８回	宋詞　李煜（李後主）について説明する 最終試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。（標準学習時間60分）
２回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。（標準学習時間90分）
３回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。詩経と楚辞について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。（標準学習時間120分）
４回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。陶淵明について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。（標準学習時間120分）
５回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。杜甫ついて好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。（標準学習時間120分）
６回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。李白について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。（標準学習時間120分）
７回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。授業で紹介された詩人について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。（標準学習時間120分）
８回	前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。蘇軾について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。全7回分の講義をまとめて試験に備えること。（標準学習時間150分）

講義目的	中国の文学作品の主な作者や作品について知識を持ち、内容を理解して味わうことが出来るようになる。文学が人間にとってどのような意味をもつか、考えることが出来るようになる。（教養教育センター　単位認定の方針Bにもっとも強く関与する）
達成目標	中国の歴代の詩詞のうち、自分の好きな詩人、作品について基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明し，自分なりの評価をすることが出来る。 中国文学について、おおむねの流れを説明することが出来る。
キーワード	中国文学、漢詩、唐詩、詞
成績評価（合格基準60	最終試験１００％により成績を評価し、６０％以上を合格とする。
関連科目	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、文学（日本文学や欧米文学）
教科書	なし（資料配付）
参考書	授業中に紹介する
連絡先	asanoj@big.ous.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	法学Ａ（FB21Q050）
英文科目名	Law A
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションを兼ねて、法とは何かについて説明する。項目としては、法の内容、法と道徳との関係、法の理念、法の分類、法の適用(三段論法)、法の解釈について触れ、判例は「ガソリンカー転覆事件」「電気窃盗事件」等を取り上げることとする。
２回	今回から４回は、基本三法の内日本国憲法を講義する。プライバシー権等のいわゆる新しい人権の根拠規定としての憲法１３条の幸福追求権の内容としていかなる権利が保障されるかを受講生とともに考察する。「『エホバの証人』輸血拒否事件」等の判例を取り上げることとする。
３回	「法の下の平等」を定める憲法１４条の意義と合理的な差別と非合理的差別さらに絶対的平等・相対的平等について考察する。判例は、「堀木訴訟」「嫡出性の有無による法定相続分差別事件」および法定相続分差別違憲判決等を取り上げ説明する。
４回	憲法１９条の思想・良心の自由、２０条の信教の自由、２３条の学問の自由を取り上げ、それらの人権保障の意義を判例を引用しながら考察する。判例としては、「三菱樹脂事件」「津地鎮祭事件」「劇団ポポロ事件」等を取り上げ説明する。
５回	憲法２１条の表現の自由について講義する。精神的自由の経済的自由に対する優越的地位と憲法２１条の民主主義的意義について、報道の自由、取材の自由、検閲を取り上げて考察する。具体的には、「博多駅事件」「札幌税関事件」等を取り上げ解説する。
６回	今回から５回は、民法について講義する。日本民法の成立を踏まえて、民法とは何かについて考察する。民法における「私的自治の原則」等の基本原理とその修正について説明する。また、「宇奈月温泉事件」および「信玄公旗掛松事件」の判例を引用しつつ、民法１条の信義誠実の原則と権利濫用の禁止について考察する。
７回	物権と債権の特徴と債務不履行について講義する。物権的請求権、動産と不動産、不動産の二十譲渡および債務不履行の類型、効果、損害賠償の範囲について事例に基づいて説明する。
８回	債権発生原因としての契約ならびに債権の対外的効力としての債権者代位権(民423条）および詐害行為取消権(民424条)について講義する。契約について、有償契約・無償契約、要物契約・諾成契約等の意義と区別ができるように説明する。また、債務者の責任財産の保全を目的とする債権者代位権と詐害行為取消権の適用事例を取り上げて２つの権利の効果について考察する。最終評価試験を行う。
１０回	。

回数	準備学習
１回	テキストの「法学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。３０分。
２回	教科書をよく読み、新しい人権について予習しておくこと。５０分。
３回	教科書をよく読み、「法の下の平等」について予習しておくこと。６０分。
４回	教科書をよく読み、思想・良心の自由および信教の自由について予習しておくこと。６０分。
５回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。６０分。
６回	教科書をよく読み、民法の沿革について予習しておくこと。６０分。
７回	教科書をよく読み、物権と債権の相違について予習しておくこと。５０分。
８回	教科書をよく読み、債権の発生原因と債権の対外的効力について予習しておくこと。さらに、最終評価試験の準備を十分に時間をかけて行っておくこと。１２０分。
１１回	教科書をよく読み、刑法の概略について予習しておくこと。６０分。

講義目的	基本三法と言われる憲法・民法・刑法について、基礎的知識を身につけ、日々生起する事件等について法的思考力(リーガルマインド)に基づき自主的解決が導き出せるようにする。（教養教育センター単位認定方針のＣにもっとも強く関与する）
達成目標	公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成する。
キーワード	法の解釈、二重の基準、信義誠実の原則
成績評価（合格基準60	小テスト(２０点)/最終評価試験(８０点)
関連科目	日本国憲法
教科書	テキスト法学(第３版)/中西俊二著/大学教育出版/9784864293730;法学六法18/石川明・池田真朗編/信山社

参考書	現代社会における法学入門第２版/斎藤信幸/成文堂
連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題を小テストとして、ミシン線に沿って切り取り提出してもらうので、受講に当たっては教科書を必ず持参すること。
試験実施	実施する

科目名	比較文化論Ａ（FB21Q060）
英文科目名	Comparative Cultures A
担当教員名	辻維周（つじまさちか）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	・ガイダンス　　・文化について述べる。
２回	テキストの解説と考え方について述べる。
３回	文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。
４回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編1）について述べる。
５回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編2）について述べる。
６回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編3）について述べる。
７回	太平洋圏の文化（日本・沖縄編4）について述べる。
８回	総括をする。最終評価試験をする。

回数	準備学習
１回	自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておくこと。（標準学習時間30分）
２回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
３回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
４回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
５回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
６回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
７回	講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。（標準学習時間60分）
８回	講義の復習をしておくこと。

講義目的	文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与）
達成目標	少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「　　国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。
キーワード	視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。
成績評価（合格基準60	最終評価試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。
関連科目	
教科書	「異文化理解」岩波新書　青木保著
参考書	「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会
連絡先	ous.tsuji@gmail.com
注意・備考	・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。
試験実施	実施する

科目名	外国史Ａ（FB21Q070）
英文科目名	World History A
担当教員名	奥山広規＊（おくやまひろき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション。講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。
２回	オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。
３回	中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。
４回	東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。
５回	古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。
６回	ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。
７回	東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。
８回	東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスにおいて講義内容の確認を行うこと。 外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。
２回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
３回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
４回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
５回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
６回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
７回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
８回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 (教養教育センター　単位認定の方針Bにもっとも強く関与)
達成目標	①世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得する ②毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につける
キーワード	
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100%）によって、成績を評価する。
関連科目	
教科書	講義中、適宜、指示する。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（７号館４階）
注意・備考	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、講義時、参考資料を配布することがあるが、欠席者への事後配布は行わないので注意すること。
試験実施	実施する

科目名	哲学Ａ（FB21Q080）
英文科目名	Philosophy A
担当教員名	堀田和義（ほったかずよし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法）、および哲学とは何かを説明する。
２回	西洋哲学（1）ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。
３回	西洋哲学（2）ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。
４回	西洋哲学（3）ー中世の哲学（スコラ哲学、普遍論争等）を説明する。
５回	西洋哲学（4）ーデカルトの生涯と思想を説明する。
６回	西洋哲学（5）ーカントの生涯と思想を説明する。
７回	西洋哲学（6）ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。
８回	前半：最終評価試験 後半：試験の解答と解説

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
２回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
３回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
４回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
５回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
６回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
７回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義では、代表的な哲学者の思想を通して、西洋哲学の歴史をひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）
達成目標	①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。 ②各時代の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。 ③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。

キーワード	哲学、思想、宗教、西洋哲学
成績評価（合格基準60	・授業での提出課題（60%） ・最終試験（40%） ※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。
関連科目	哲学B、倫理と宗教
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施する

科目名	日本国憲法【木3木4】（FB21R010）
英文科目名	The Constitution of Japan
担当教員名	中西俊二＊（なかにししゅんじ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 3時限 ／ 木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションをかねて憲法とは何かを考え、広義と狭義の意味を解説する。日本国憲法がいかなる経緯から制定されるに至ったか、明治憲法の改正手続きに言及する。
２回	国家と憲法の関係および立憲主義の意義と内容について講義する。特に三権分立がどのような機能をはたしているかを解説する。さらに、明治憲法の特徴にも言及する。
３回	国民主権と憲法の最高法規性について考える。憲法は国法秩序の最高法規と解されているが、それは何故なのか、個人の尊厳および国民主権との関係について理解を深めるように解説する。憲法96条は、憲法改正を定めるが、改正に限界はないのか問題提起をする。憲法81条の違憲審査制に関わって司法消極主義についても説明する。
４回	自由主義的民主制と平和主義を取り上げ、自由の確保と憲法９条の戦争の放棄について解説する。「恵庭事件」「長沼事件」等の判例を取り上げると同時に、憲法９条の解釈と集団的自衛権について説明する。
５回	憲法の私人間効力について解説する。憲法は基本的に国家と国民の関係を規律するものであるが、憲法規定は私人間に及ぶかという重要な問題を、「三菱樹脂事件」および「昭和女子大事件」の判例を取り上げ、基本的人権の保障の法的効果として、私人による権利侵害を防ぐために憲法規定はどのように私人間に適用されるべきかを考えることにする。
６回	憲法１３条の幸福追求権という包括的人権規定を根拠とするいわゆる「新しい人権」の内容と判例について講義する。「宴の後事件」「京都府学連事件」「北方ジャーナル事件」等を取り上げて、「新しい人権」について考察する。
７回	憲法１４条の「法の下の平等」の趣旨と合理的な差別ならびに関連判例について解説する。憲法違反とならない合理的な差別か否かを判断するため、「二重の基準」について言及する。「堀木訴訟」等関連判例も取り上げ解説する。
８回	憲法１９条の思想・良心の自由と判例について講義する。保障の内容と他の精神的自由権との関係を理解させるように解説する。判例としては、「良心の自由と謝罪広告の強制」「麹町中学内申書事件」等を取り上げ解説する。
９回	憲法２０条の信教の自由の内容と限界について講義する。その理解を深めるため、制度的保障である「政教分離の原則」を憲法２０条３項および８９条との関係で解説する。判例としては、「津地鎮祭事件」「愛媛県玉串料訴訟」等を取り上げることにする。
１０回	憲法２３条が保障する学問の自由の内容と大学の自治について講義する。制度的保障としての大学の自治における学生の地位についても言及する。判例としては、「旭川学テ事件」「劇団ポポロ事件」を取り上げることにする。
１１回	見ん主義国家において最も重要な人権の一つである憲法２１条１項の表現の自由について講義する。表現の自由の内容として「知る権利」「報道の自由」「取材の自由」について説明し、取材源秘匿の自由が最高裁で認められたことの意義を解説する。また、「特定秘密保護法」についてもその法的影響等について言及する。検閲の問題も取り上げることにする。「猿払事件」「博多駅事件」等の判例も取り上げ解説する。
１２回	憲法２２条１項の定める経済的自由について講義する。同条の保障する職業選択の自由および２９条１項の財産権の保障規定に由来する営業の自由とその制限について解説する。消極的目的規制と積極的目的規制の違いによる合憲性判定基準のの区別を理解できるように講義をするめることにする。取り上げる判例としては、「薬局解説の距離制限事件」「小売市場距離制限事件」等とする。
１３回	人身の自由に焦点を当てて講義する。具体的には、憲法１８じょうの「奴隷的拘束」からの自由、３１条の「適正手続きの保障」、３３条以下の「令状主義」等を取り上げ解説する。判例としては、「川崎民商事件」「緊急逮捕前の捜索・差押事件」「ポケット所持品検査事件」「高田事件」等を取り上げることにする。
１４回	憲法２５条の保障する生存権について講義する。成立の背景として福祉国家と生存権の関係、法的性質および生存権と環境権について解説する。判例としては「朝日訴訟」「堀木訴訟」「大阪国際空港公害訴訟」「厚木基地公害訴訟事件」と取り上げることにする。
１５回	国務請求権と参政権について講義する。前者については、憲法１７条の国家賠償請求権を、後者については、４０条の刑事補償請求権を取り扱うこととする。いずれも明治憲法下では認められなかった基本的人権である。判例としては、「板まんだら事件」を取り上げることとする。
１６回	まとめとして最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	法学六法にある日本国憲法の前文を読んでおくこと。30分。
２回	教科書をよく読み、立憲主義について予習しておくこと。50分。
３回	教科書をよく読み、憲法の最高法規性と憲法改正について予習しておくこと。60分。
４回	教科書をよく読み民主制と平和主義について予習しておくこと。60分。
５回	教科書をよく読み、憲法規定の適用範囲について予習しておくこと。60分。
６回	教科書をよく読み、「新しい人権」について予習しておくこと。60分。
７回	教科書をよく読み、法の下の平等について予習しておくこと。60分。
８回	教科書をよく読み、思想・良心の自由について予習しておくこと。60分
９回	教科書をよく読み、信教の自由について予習しておくこと。50分。
１０回	教科書をよく読み、学問の自由について予習しておくこと。50分。
１１回	教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。
１２回	教科書をよく読み、経済的自由について予習しておくこと。50分
１３回	教科書をよく読み、令状主義等について予習しておくこと。60分。
１４回	教科書をよく読み、生存権について予習しておくこと。50分。
１５回	国務請求権および参政権について教科書をよく読み、主権者として予習をしておくこと。60分。
１６回	これまでの学習事項を整理・理解しておくこと。120分。

講義目的	教科書に取り上げた判例を通して、具体的に現代の憲法問題に対して、自主的に主権者として責任ある判断がとれる民主主義者を養成すること。（教養教育センター単位認定方針のＣにもっとも強く関与する）
達成目標	受講生が日常生起する憲法問題を主権者として真剣に受け止め、憲法的問題解決の思考力を身につけること。
キーワード	自然法、個人の尊厳、基本的人権の尊重
成績評価（合格基準60	レポート(２０点)、小テスト(２０点)、最終評価試験(６０点)
関連科目	法学
教科書	テキスト『日本国憲法第４版』/中西俊二/大学教育出版/978-4-86429-452-2 ;『法学六法』/ 石川明・池田真朗等編/信山社
参考書	テキスト『法学第３版』(大学教育出版、2015年)等
連絡先	教務課
注意・備考	毎回講義の終わりに、巻末の択一問題(小テスト)をミシン線に従って提出してもらうので、忘れずに教科書を持参すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21R030）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	堀田和義（ほったかずよし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法について）、および文章を書くということ（手書き、ワープロソフトの使用の両方を視野に入れて、文章を書くうえでもっとも重要な点）について説明する。
２回	文章を書く際の注意点（1）ー字数制限、段落分けとインデント、英数字や句読点・括弧の使い方などを説明する。
３回	文章を書く際の注意点（2）ー感想文とレポート・論文との違い、常体と敬体、話し言葉と文章語などを説明する。
４回	文章を書く際の注意点（3）ー文の適切な長さ、文のねじれと呼応表現、避けるべき表現などを説明する。
５回	文章を書く際の注意点（4）ー漢字使用の目安、誤字脱字、てにをは・言葉の誤用などを説明する。
６回	レポートや論文の構成（1）ー序論、本論、結論、参考文献表という基本的な構成法などを説明する。
７回	レポートや論文の構成（2）ー引用と剽窃の違い、正しい引用の仕方などを説明する。
８回	これまでに学習した内容の総括を行い、課題についての注意点を説明する。

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、「文章を書くうえで最も重要な点は何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）
２回	前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）
３回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
４回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）
５回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
６回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
７回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）
８回	これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義の目的は、論文やレポートの執筆といった大学での学びに限らず、社会に出てからも日誌や報告書の作成などといった様々な場面で必要となる「読みやすい文章」「わかりやすい文章」を書

	くスキルを習得することである。大学生が文章を書く際に間違えやすい細かい点を最初に説明し、その後で、具体的な文章の構成方法を学ぶ。（教養教育センター単位認定方針Eにもっとも強く関与する）
達成目標	①文章を書く際に気を付けるべき点に注意し、読みやすい文章を書くことができる。 ②自分の言いたいことを、適切な順序で構成し、根拠を提示しながら、わかりやすい文章を書くことができる。
キーワード	文章表現、レポート、論文
成績評価（合格基準60	
関連科目	文章表現法基礎編B、文章表現法応用編A・B、プレゼンテーション基礎編A・B、プレゼンテーション応用編A・B
教科書	特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。
参考書	参考書は、授業内で適宜、紹介する。
連絡先	
注意・備考	・受講者数の上限は50名とする。 ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。 ・授業には必ず国語辞典を持参すること。 ・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間Ａ（FB21R040）
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
２回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
３回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
４回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
５回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
６回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、ＴＰＯに応じて使いわけることを学ぶ。
７回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
８回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
２回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
３回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
４回	発表するエピソードを考えておくこと。（標準学習時間　１２０分）
５回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
６回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
７回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
８回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。（標準学習時間　１２０分）

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニュケーション力の向上も図る。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価（合格基準60	小テスト１０％、最終評価試験９０％により成績を判断し、総計で６０％を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を７０名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座Ａ（FB21R050）
英文科目名	Career Design A
担当教員名	飯田哲司＊（いいだてつし＊）,桑田朋美＊（くわたともみ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	【キャリア形成と社会人基礎力】　キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （※講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （※演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （※具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
２回	【自分を知る・自己理解】　自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田　朋美＊）
３回	【コミュニケーションの強化①】　現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田　哲司＊）
４回	【コミュニケーションの強化②】　コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田　朋美＊）
５回	【セルフ・コントロール】　ビジネスマインドの軸である「チームワーク力」の発揮と強化を視野に入れたビジネス心理学と自己コントロール法について、体験ワークを通じて理解・習得する。 （桑田　朋美＊）
６回	【社会が求める人材とは】　現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 （飯田　哲司＊）
７回	【キャリア形成新理論】　キャリアプランニングの考え方・方法の時代的変化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田　哲司＊）
８回	【実践的表現力強化演習】　集団の中での自分の活かし方を知る基礎であるブレインストーミングを通じて、自己理解と表現能力のアップを図る演習を実施する。 【第１回からの振り返り・最終評価試験】　ここまでの講義を振り返り、習得度合いの確認とチェックを行う。 （桑田　朋美＊）

回数	準備学習
１回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
２回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。（標準学習時間 60分）
３回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。（標準学習時間 60分）
４回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。（標準学

	習時間 60分）
５回	「集団の中での自分」の在り方・見せ方について、自分なりのイメージを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
６回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。（標準学習時間 60分）
７回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。（標準学習時間 60分）
８回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）　を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力に　ついて学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび　演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・　特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を50名とする。
試験実施	実施する

科目名	外国史Ａ（FB21R060）
英文科目名	World History A
担当教員名	奥山広規＊（おくやまひろき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション。講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。
２回	オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。
３回	中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。
４回	東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。
５回	古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。
６回	ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。
７回	東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。
８回	東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスにおいて講義内容の確認を行うこと。 外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。
２回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
３回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
４回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
５回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
６回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
７回	事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。
８回	ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)

講義目的	外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。 (教養教育センター　単位認定の方針Bにもっとも強く関与)
達成目標	①世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得する ②毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につける
キーワード	
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100%）によって、成績を評価する。
関連科目	
教科書	講義中、適宜、指示する。
参考書	講義中、適宜、指示する。
連絡先	徳澤啓一研究室（７号館４階）
注意・備考	止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、講義時、参考資料を配布することがあるが、欠席者への事後配布は行わないので注意すること。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法応用編Ａ（FB21R070）
英文科目名	Technical Writing (Advanced) A
担当教員名	藤野薫＊（ふじのかおる＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。
２回	文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。
３回	小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。
４回	小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。
５回	ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。
６回	ストーリーを書く②：ストーリーを書く。
７回	文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。（標準学習時間30分）
２回	予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。（標準学習時間45分）
３回	予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。（標準学習時間60分）
４回	予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。（標準学習時間60分）
５回	予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。（標準学習時間90分）
６回	予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。（標準学習時間90分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。（標準学習時間90分）
８回	予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。（標準学習時間120分）

講義目的	文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	多様な筆記課題に対応した文章をしっかり書くことができる。
キーワード	文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試
成績評価（合格基準60	演習・提出課題（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行い、課題をすべて提出することが、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。
関連科目	文章表現法応用編Ｂ、文章表現法基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫
参考書	必要があれば指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6. 講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。 7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21S010）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	藤野薫＊（ふじのかおる＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
２回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
３回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
４回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
５回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
６回	文章を要約する③：参考文を要約する。
７回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 （標準学習時間30分）
２回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 （標準学習時間30分）
３回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 （標準学習時間45分）
４回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 （標準学習時間45分）
５回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 （標準学習時間45分）
６回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 （標準学習時間45分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 （標準学習時間45分）
８回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検を行うこと。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	与えられた文章の構成を理解し、的確に要約することができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60	演習（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編Ｂ、文章表現法応用編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	藤野薫・三木恒治・世良利和／文章表現法Ｉ基礎編（パステルブルー版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6．講義には必ず国語辞典（通信

	機能のない電子辞書も可）を持参すること。　7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	企業と人間Ａ（FB21S020）
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義の概要/進め方/講義中の注意点//評価方法について説明する。 ＊文章力や読解力、コミュニケーション・スキルの自己レベルを把握し、予習復習計画の立案を行う。
２回	＊コミュニケーションにおける伝え方について説明する。
３回	＊「何を伝えるか」によって、文章構成や言葉の選択が異なることを説明する。
４回	＊より正確にわかり易く短い時間で伝える工夫のポイント説明する。
５回	＊コミュニケーションの4つの工夫について説明する。
６回	＊自分の意見や想いを文章化するための工夫を説明する。 ＊社内文書と社外文書/メールのその性質と相違点を理解し、ＴＰＯに応じて使いわけることを学ぶ。
７回	＊テーマに基づき、ビジネス文書とメールでお知らせ/案内状を作成方法を説明する。
８回	まとめと最終評価試験

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義目的を理解しておくこと。 自己のコミュニケーションスキルの不足部分を補う学習をしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
２回	前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。 配布資料に基づき正しい言葉遣いができるようにしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
３回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
４回	発表するエピソードを考えておくこと。（標準学習時間　１２０分）
５回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
６回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
７回	前回までの講義内容を復習しておくこと。 理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
８回	これまでの講義内容をよく理解しておくこと。（標準学習時間　１２０分）

講義目的	社会人になると、資料を読み解く力、データを分析する力、状況を判断し行動を選択する力が求められる。特に仕事をすすめるにあたり、その都度、適切な判断をし、社内での連携や共有、上司への報告、相談が必要な報告を上司に伝えることが必要になってくる。 そこで、本講義では毎回提示する資料を読み解き、状況を判断し、求められていることを口頭や文章で表現する方法を学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を用いて学ぶ。学生や教員のやり取りを通して、コミュニュケーション力の向上も図る。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	①自分の考えや意見を短い時間で正確にわかり易く伝えることができる。 ②ビジネスマナーにのっとり、自分の伝えたい内容をメールで発信することができる。 ③定型的なビジネス文書を作成することができる。
キーワード	コミュニケーション、ビジネス文書、ビジネスマナー
成績評価（合格基準60	小テスト１０％、最終評価試験９０％により成績を判断し、総計で６０％を合格とする。
関連科目	社会と人間、技術者の社会人基礎
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	必要に応じ、指示する。
連絡先	

注意・備考	＊参加型・実践型の講義であるため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を７０名とする。
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座Ａ（FB21S030）
英文科目名	Career Design A
担当教員名	飯田哲司＊（いいだてつし＊）,桑田朋美＊（くわたともみ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	【キャリア形成と社会人基礎力】　キャリア形成とは何か、実社会で求められる社会人基礎力とは何かを確認する。 （※講座の概要：社会人基礎力の習得と応用力の強化を「実践的な課題」に基づく「講義」と「演習・ワーク」を通じて行い、即戦力人材としての基礎を固める） （※演習形態：個人ワーク、ペアワーク、グループワーク、グループ対抗ワーク） （※具体的に取り上げる社会的基礎力：「コミュニケーション力」「課題解決力」「チームワーク力」「自己肯定力」「思考力」「自己表現力」「アサーティブ力」「社会性」など） （全教員）
２回	【自分を知る・自己理解】　自己分析・自己診断チェックと体験型交流ワークを通じて、自己認識を深めるとともに自分の高め方・活かし方について理解する。 （桑田　朋美＊）
３回	【コミュニケーションの強化①】　現代社会におけるコミュニケーションの意味・目的を知り、「話すこと」の基本と「表現力アップ」のための応用技術を体験ワークにより理解・習得する。 （飯田　哲司＊）
４回	【コミュニケーションの強化②】　コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「聴くこと」の基本と「相互理解・共有・協働」のスキルアップのための実践トレーニングを体験型スタイルで実施する。 （桑田　朋美＊）
５回	【セルフ・コントロール】　ビジネスマインドの軸である「チームワーク力」の発揮と強化を視野に入れたビジネス心理学と自己コントロール法について、体験ワークを通じて理解・習得する。 （桑田　朋美＊）
６回	【社会が求める人材とは】　現代社会で求められる能力とは何かを知り、その能力の習得法と実践現場での活かし方について理解を深め、自分の「力」「武器」にする。 （飯田　哲司＊）
７回	【キャリア形成新理論】　キャリアプランニングの考え方・方法の時代的変化を学び、これからのキャリア形成のあり方と自己実現・他者実現のための自分への活かし方を理解する。 （飯田　哲司＊）
８回	【実践的表現力強化演習】　集団の中での自分の活かし方を知る基礎であるブレインストーミングを通じて、自己理解と表現能力のアップを図る演習を実施する。 【第１回からの振り返り・最終評価試験】　ここまでの講義を振り返り、習得度合いの確認とチェックを行う。 （桑田　朋美＊）

回数	準備学習
１回	「実社会が求める能力・要件」について、自分なりのイメージを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
２回	「自分らしさ」「自分の強み・弱み」について、自分なりの整理をして臨むこと。（標準学習時間 60分）
３回	ペアワークによる実践訓練体験を初歩から実施。積極的かつ前向きな姿勢で臨むこと。（標準学習時間 60分）
４回	「相手主体」をベースにした関係性の強化について、自分なりの考えを持って臨むこと。（標準学

	習時間 60分）
５回	「集団の中での自分」の在り方・見せ方について、自分なりのイメージを持って臨むこと。（標準学習時間 60分）
６回	「社会が求める力」「できる人材」のワードについて、その内容・具体的事例を自分なりに整理して臨むこと。（標準学習時間 60分）
７回	自己のキャリア形成のうえで大きな要因となるものについて、自分なりのイメージをして臨むこと。（標準学習時間 60分）
８回	チームワーク力の基礎を学びます。集団の中での自分の位置・役割を知る意味でもより積極的な姿勢で臨むこと。（標準学習時間 60分）

講義目的	・社会で必要とされる力（コミュニケーション力・課題解決力・チーム力・自己表現力）　を実践的な演習を通じて習得する ・実践的ワークを通じて、主張力・傾聴力・展開力を徹底強化する ・就活対策のみならず、社会人となった以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力に　ついて学ぶ（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）
達成目標	・コミュニケーション力、課題解決力、自己表現等のレベルアップを、ペアワークおよび　演習を通じて実現する ・自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむ ・発想～会議～プレゼン～検証の過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・　特徴・強み・弱みを知る
キーワード	社会人基礎力、コミュニケーション力、課題解決力、自己表現力、自己分析・自己理解、偶発的行動論、セルフコントロール、企画発想、アサーティブ、ゆとり世代
成績評価（合格基準60	・毎回のレポート 60%・課題ワークへの取り組み姿勢 20%・最終評価試験（最終課題テスト） 20%
関連科目	
教科書	毎回プリントを配布
参考書	特になし
連絡先	
注意・備考	受講者数の上限を５０名とする。
試験実施	実施する

科目名	経済学Ａ（FB21S040）
英文科目名	Economics A
担当教員名	横尾昌紀＊（よこおまさのり＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	経済学の概要とゲーム理論の関係について
２回	囚人のジレンマ
３回	戦略形ゲームとナッシュ均衡
４回	戦略形ゲームの応用例：価格競争，家事の分担，ＯＳの選択等
５回	混合戦略のナッシュ均衡：ジャンケンの‘必勝法’
６回	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
７回	展開形ゲームの応用例（１）：参入阻止ゲーム，ネズミ講，チェインストアパラドクス
８回	まとめ. 最終評価試験

回数	準備学習
１回	教科書の第１章を授業の前か後に読んでおいてください. （標準学習時間４０分）
２回	教科書の第２章と第５章の最初の節を読んでおいてください. （標準学習時間４０分）
３回	教科書の第３章と４章を読んでおいてください. （標準学習時間４０分）
４回	教科書の第３章と４章を読んでおいてください. （標準学習時間４０分）
５回	教科書の第４章と５章を読んでおいてください. （標準学習時間４０分）
６回	教科書の第６章を読んでおいてください. （標準学習時間４０分）
７回	教科書の第６章を読んでおいてください. （標準学習時間４０分）
８回	全体を総復習してください. （標準学習時間４０分）

講義目的	現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します．人々の意思決定が相互に依存している状況，すなわち，駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます．ゲーム理論はそのような状況をシステマティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です．このゲーム理論の学習を通じて，「戦略的思考」を身につけることを目的とします．　（教養教育センター　単位認定の方針Ｃにもっとも強く関与。）
達成目標	・戦略形表現のゲームの構造を理解する. ・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める. ・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める. ・展開形表現のゲームの構造を理解する. ・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める.
キーワード	経済学，戦略，戦略的状況，戦略的思考，ゲーム理論，ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡.
成績評価（合格基準60	課題提出（２０％），最終評価試験（８０％）
関連科目	社会と人間
教科書	ゲーム理論・入門／岡田章著／有斐閣アルマ／9784641123625
参考書	『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』，梶井厚志・松井彰彦著，日本評論社
連絡先	電子メール：　yokoo@e.okayama-u.ac.jp
注意・備考	参考書として挙げた『ミクロ経済学　戦略的アプローチ』（以前教科書として指定）をすでに入手している場合は，新たに教科書を買う必要はありません．最終評価試験の「過去問」を授業の最初の方で配布しますので，入手漏れがないように気をつけてください.
試験実施	実施する

科目名	身近な生物学Ⅰ（FB21S050）
英文科目名	Biology closely related to our daily lives Ⅰ
担当教員名	波田善夫（はだよしお）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	原始地球における生命の誕生について考える。どのような条件が生命の発生に必要であるかを中心に議論する。
２回	発生した生命は、原始地球の環境を大きく変化させた。鉄鉱石や石灰岩の多くはその変化の中で形成されたものである。どのように原始生命が地球環境を変えてきたかについて考える。
３回	大きく変化した大気環境によって、生命は陸上で生活することが可能となった。その仕組みとともに、これにともなう動物の進化について学ぶ。
４回	細胞の基本構造と機能について学ぶ。現在の細胞は複数の生命体が共生することから出発し、統一された一つの生命体となることによって飛躍的に深化してきた。このようなプロセスと細胞内構造体について理解する。
５回	タンパク質は生命体を構成する物質の中で、非常に重要なものである。タンパク質の構造と機能について学ぶ。
６回	タンパク質の代謝と含窒素排出物について学ぶ。前回学んだようにタンパク質は多様な機能を持っているが、永遠の寿命を持っているわけではない。常に新しく作られ、そして分解されて排出される宿命を持っている。この過程について学ぶ。
７回	神経は多細胞の動物らしさにとって、非常に重要である。神経伝達のしくみと進化、そして我々の行動に影響を与える物質、薬物との関係にも言及する。
８回	これまでの講義内容についてまとめを行い、その後に最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	原始地球の状態を調べ、どのような条件が生命誕生に必要であったかを考えておくこと。（標準学習時間30分）
２回	光合成の過程を予習してくること。（標準学習時間60分）
３回	動物の循環系、呼吸系の進化について予習してくること。（標準学習時間60分）
４回	細胞の基本構造について予習してくること。（標準学習時間60分）
５回	DNAの遺伝情報がアミノ酸の配列となってタンパク質が形成される過程を予習してくること。（標準学習時間60分）
６回	窒素を含む化合物は栄養分となったり、有毒物質になったりする。尿毒症、大気汚染における窒素酸化物を理解してくること。（標準学習時間60分）
７回	神経伝達の仕組みについて予習してくること。（標準学習時間分）
８回	最終評価試験に向け、講義の内容を復習・理解しておくこと。最終試験は論述形式であるので、系統立てた理解と記述が求められる。

講義目的	生物である人間を理解するために、生物の基礎的な内容を、進化という時間軸からの観点を加味して学ぶ。学びの姿勢は、物質や構造などの細部を記憶するのでは無く、大局的な流れを理解し、複雑系である生命現象の多面性を見つけることにある。複雑系である生命を理解することを目的とする。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	生物、特にヒトを理解することによって自分の行動を律することができる。 生理的理解を深め、健康を維持することの要点を理解できる。
キーワード	生命の誕生、原始地球、陸上進出、細胞、タンパク質、神経伝達
成績評価（合格基準60	第３回終了時点で、それまでの講義内容に関するレポートの提出を求める(40%)。最終評価試験60%とし、総合60%以上を合格とする。
関連科目	身近な生物学Ⅱ
教科書	なし 逐次、ホームページによって講義内容を情報提供する。
参考書	逐次、ホームページ等によって情報提供する。
連絡先	研究室：２１号館６F 電話　086-256-9646
注意・備考	以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので，全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，動物学科，バイオ・応用化学科，生命医療工学科，生物地球学科

	「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「生物学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な生物学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。 「身近な生物学Ⅰ」と「身近な生物学Ⅱ」はある程度の順序性があるので、連続受講を推奨する。 課題レポート、最終評価試験については模範解答と採点基準をホームページの講義ノートに掲載する。 講義中、ホームページの講義ノートを閲覧することはかまわないが、最終評価試験中においては閲覧を禁止する。
試験実施	実施する

科目名	身近な地学Ⅰ（FB21S060）
英文科目名	Geoscience closely related to our daily live s Ⅰ
担当教員名	北岡豪一＊（きたおかこういち＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	人類はどのようにして「科学」を手に入れたのか，天動説から地動説への道筋を例にして，先人の苦難の足跡をたどりながら学習する。
２回	地球がどのようにして誕生し，大地，大気，水がどのようにして生まれ，そして地球表層の環境がどのように変遷してきたかを概説する。
３回	地球の重力について学習する。地球のかたちや、地球表層の大陸と海洋，大山脈と海溝の分布のからくり、重力の分布を測定することによって地下の構造が分かることを理解する。
４回	地震波（たて波、よこ波、表面波）の伝播のしかたについて学習し、地球内部の層構造が明らかにされてきた過程を説明する。
５回	地球の磁場が生命に与えている恩恵について学習する。また，大陸移動や海洋底拡大の考え方がどのような証拠に基づいて生まれたのか，その歴史を紹介する。
６回	プレートテクトニクスの視点から，日本列島とその周辺でなぜ火山と地震が多いのか、そのメカニズムを紹介し，最新の地球科学へといざなう。
７回	大地を構成している岩石がどのようにして作られ，それが，風化，移動，堆積、変形，変成しながら，地球規模で循環している姿を学習する。
８回	前半は，地球の歴史と日本列島がどのようにして形成されたのか，概観する。後半の0.5コマ分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	自分なりに不思議に思ういろいろな自然現象について考えておくこと。（標準学習時間：60分）
２回	先週の科学の歴史を復習しながら，科学的なものの考え方とは何かについてよく納得しておくこと。（標準学習時間：60分）
３回	重力は日常生活において極めて重要な概念であるから，書物やネットを通してよく理解しておくこと。（標準学習時間：60分）
４回	波にはいろいろなものがあるが、どのような波があり，その伝わり方について予習しておくこと。（標準学習時間：60分）
５回	電磁石は身の回りでいろいろと利用されているが，どのようなものに利用され、また、磁石はどうしてできるのか，予習しておくこと。（標準学習時間：60分）
６回	書物やネットの図を見ながら，地球上の火山と地震の震源分布をじっくり見比べておくこと。（標準学習時間：60分）
７回	身近にある岩石，砂，土がどのようにして作られ，どうしてここにあるのか，考えてみること。（標準学習時間：60分）
８回	最終評価試験を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。（標準学習時間：180分）

講義目的	科学は，身近な自然現象の中で不思議さを感じ，それを分かろうとする人々によって生み出され，発展してきた．科学が発達した現代でも，自然の中には数知れない不思議さが秘められている．本講義では，地球内部のダイナミズムによって地震や火山が起こり，大気、水、岩石，地層が作られてきたことを紹介しながら，自然界にはなお未解明部分の多いことを教示する． （理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	・プレートテクトニクスの考え方が歴史的にどのようにして作られたのかを知っている． ・火山・地震の起こるメカニズムが地球内部のダイナミックスから理解している． ・岩石や地層の形成過程を理解している． ・地球の重力から地下構造を探ることができることを知っている． ・岩石の地磁気から地表の移動や地層形成の歴史を探ることができることを知っている． ・生き物は地球と太陽の恵みの中で活動しているということが実感できる． ・さまざまな自然現象の中で不思議さを感じとることができる．
キーワード	地球，地球内部，火山，地震，重力，地磁気，プレートテクトニクス，岩石，科学史
成績評価（合格基準60	毎回講義の小レポート（50点）と最終評価試験（50点）により評価する。
関連科目	身近な生物学Ⅰを受講していることが望ましい。

教科書	なし
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
注意・備考	提出課題については、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。 講義資料は講義開始時に配布する。 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので，全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物地球学科 「地学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	インターンシップ概論（FB21S070）
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志＊（さいとうたかし＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションを行い，講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
２回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
３回	自己PRの基礎について説明する.
４回	自己PRの基礎について説明する.
５回	企業研究について説明する.
６回	面接実践演習を通して，具体的な面接の仕方を説明する.
７回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
８回	インターンシップに行くために自己PR，企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
１回	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥを読み，インターンシップの意義などを確認しておくこと.（標準学習時間：60分）
２回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと．（標準学習時間60分）
３回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
４回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
５回	自己PRのレポートを完成させて，提出するために推敲しておくこと．（標準学習時間60分）
６回	インターンシップのマッチングに向けて，自己PRの確認，面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと．（標準学習時間60分）
７回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと．（標準学習時間60分）
８回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること．（標準学習時間60分）

講義目的	インターンシップとは，企業・団体などにおいて，学生が将来の職業，キャリア選択を意識した就業体験をすることによって，社会や企業の実情を知り，学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに，大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です．本講義では，インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と，インターンシップ後の報告などの事後指導を通して，インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構　教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること（学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること（学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後，自らの経験をまとめるとともに，プレゼンテーションができること（学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること（見学の理念）(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ，企業研究，面接対策，企業研修
成績評価（合格基準60	毎回の提出物20%，レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は１冊使います. 「第１版 学生のためのキャリアワークブック　～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」／株式会社理想経営／株式会社理想経営
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥ．必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録：「インターンシップA・B・C，社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと. 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	インターンシップ概論（FB21S080）
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司＊（まつだしゅうじ＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションを行い，講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
２回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
３回	自己PRの基礎について説明する.
４回	自己PRの基礎について説明する.
５回	企業研究について説明する.
６回	面接実践演習を通して，具体的な面接の仕方を説明する.
７回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
８回	インターンシップに行くために自己PR，企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
１回	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥを読み，インターンシップの意義などを確認しておくこと.（標準学習時間：60分）
２回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと．（標準学習時間60分）
３回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
４回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
５回	自己PRのレポートを完成させて，提出するために推敲しておくこと．（標準学習時間60分）
６回	インターンシップのマッチングに向けて，自己PRの確認，面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと．（標準学習時間60分）
７回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと．（標準学習時間60分）
８回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること．（標準学習時間60分）

講義目的	インターンシップとは，企業・団体などにおいて，学生が将来の職業，キャリア選択を意識した就業体験をすることによって，社会や企業の実情を知り，学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに，大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です．本講義では，インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と，インターンシップ後の報告などの事後指導を通して，インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構　教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること（学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること（学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後，自らの経験をまとめるとともに，プレゼンテーションができること（学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること（見学の理念）(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ，企業研究，面接対策，企業研修
成績評価（合格基準60	毎回の提出物20%，レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は使用しない.
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥ．必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録：「インターンシップA・B・C，社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと. 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	企業情報特論Ａ（FB21S090）
英文科目名	Business Leader Lecture Series A
担当教員名	中村修（なかむらおさむ）,伊代野淳（いよのあつし）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。 2回目以降は、毎回、各界で活躍されている委嘱教授による講演を聴講し、それについてレポートを作成し提出する。委嘱教授は、サービス関係企業経営幹部、文化芸術・産業分野有識者、食品関係企業経営幹部、服飾メーカー経営幹部、繊維・衣料メーカー経営幹部、マスコミ関係経営幹部、システム関係企業経営幹部、政治・社会分野有識者、教育界有識者、金融機関経営幹部等である。講義を聴く態度、姿勢、適切な質疑応答などが求められる。講演者についての事前知識の収集を十分に行い、毅然とした態度で受講することが臨まれる。 （全教員）
２回	講演者：山陽放送株式会社　報道制作局報道部主査　山下晴海 タイトル：「ローカルTV局は、こんなに面白い！」 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
３回	講演者：株式会社瀬戸内海放送　代表取締役社長　加藤宏一郎 タイトル：「仕事をする上で大切な二つのこと」（予定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
４回	講演者：岡山県警察本部　警務部県民応接課　犯罪被害者支援室係長　藤原佐千子 タイトル：「警察における犯罪被害者支援、自分達にできる被害者支援とは何なのか」 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
５回	講演者：カバヤ食品株式会社（予定） タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
６回	講演者：中田宏事務所　前衆議院議員　岡山理科大学客員教授　中田 宏 タイトル：「民間企業と行政の経営における違い」（予定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
７回	講演者：不二製油株式会社　代表取締役社長　大森達司 タイトル：「『植物性食』新時代の到来　Plant-Based Foods Solutio ns」 講演後、質疑応答をする。 （全教員）
８回	講演者：株式会社コーセー　常務取締役　内藤昇 タイトル：（講演内容未定） 講演後、質疑応答をする。 （全教員）

準備学習	新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。（標準学習時間60分）
講義目的	経済活動や企業間競争のグローバリゼーションの急速な展開に伴い、本質的な市場ニーズを正確に把握し、それに対応した事業戦略・技術開発戦略を構築することが、企業の重要な課題になっている。本科目では、確固たる経営理念のもとに企業や産業界をリードしている卓越した経営者等に、企業活動のあるべき姿、事業・商品戦略、研究開発戦略、求められる技術者像と人材育成、企業と大学の連携や地域貢献、等について、判りやすくお話いただく。これにより企業や社会に貢献する技術者として持つべき素養を身に付ける。 毎回の講義毎に講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。 教育支援機構　教養教育センターの単位認定の方針項目Ｃに強く関与し，Ｅにある程度関与する。
達成目標	企業や社会に貢献する技術者として、以下の素養を身につけ（C)、理解することができる（E) 。 ・経営理念と企業活動のあるべき姿・戦略的経営および商品戦略・技術経営と研究開発戦略・企業における人材育成・企業にとっての地域社会との関わりと社会貢献・産学官連携と大学への期待. ※（　）内は教育支援機構　教養教育センターの「単位認定の方針」の対応する項目（大学ＨＰ）を参照.
キーワード	経営理念、経営戦略、技術マネジメント（MOT)、産学連携
成績評価（合格基準60	毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、都度毎の講義に関するレポート提出が課せられる。レポート（１００％）により成績を評価し、総計で６０％以上を合格とする。
関連科目	技術マネジメント、企業等体験実習（インターンシップ）、科学技術倫理、プレゼンテーション
教科書	使用しない
参考書	藤末健三著　「技術経営入門」　日経BP社発行
連絡先	キャリア支援センター（25号館7階）
注意・備考	１）教室の収容人数制限により受講者数が制限されることがあります。 ２）企業経営者の講義であるから、入社面接の際の注意事項と同様な態度で受講すること。 ３）本講義は原則的に本年度春２学期の「企業情報特論Ｂ」と併せて受講すること。 ４）講義中の撮影、録音等を行うことは原則禁止する。
試験実施	実施しない

科目名	芸術Ａ（FB21T010）
英文科目名	Arts A
担当教員名	津上崇＊（つがみたかし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	授業の進め方について説明する。楽譜を理解するための音楽の基礎知識（音の高さ）を説明する。
２回	歌声のための呼吸法を実施する。楽譜を理解するための音楽の基礎知識（音の長さ）を説明する。
３回	ヴォイストレーニング（１）を実施する。歌における美しい日本語の発音を学習する。様々な音楽ジャンルを鑑賞を通して学習する。
４回	ヴォイストレーニング（２）を実施する。スピーチなどでよく伝わる声を学習する。世界各国の発声法を鑑賞を通して学習する。
５回	魅力的な声とは何かを学習しミュージカルなどの芸術作品を鑑賞する（１）。
６回	合唱曲をパート別に練習し、ハーモニーの魅力を感じながら演奏する。ミュージカルなどの芸術作品を鑑賞する（２）
７回	合唱、アンサンブルを練習し、より良い声の響き方を学び演奏する。ミュージカルなどの芸術作品を鑑賞する（３）。
８回	まとめ。実技発表で合唱やアンサンブル演奏をする。

回数	準備学習
１回	授業内容の確認。音楽の基礎知識について復習しておくこと。　（標準学習時間６０分）
２回	呼吸練習と音楽の基礎知識について復習しておくこと。　（標準学習時間９０分）
３回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。プリントの歌詞を読んでおくこと。（標準学習時間９０分）
４回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。プリントのテキストを読んで練習しておくこと。　（標準学習時間９０分）
５回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。プリントの歌詞を読んでおくこと。　（標準学習時間９０分）
６回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。プリントの歌詞を読んでおくこと。　（標準学習時間９０分）
７回	呼吸練習、発声練習を行っておくこと。自分のパートの音を確認しておくこと。　（標準学習時間９０分）
８回	第１回から第７回までの総括を行う。声楽について自分の考えをまとめておくこと。　（標準学習時間９０分）

講義目的	人類の文化遺産の一つでもある音楽は、喜びや感動を与え、夢中にさせ、そして悲しみを癒してくれる。唱歌や合唱曲を実際に演奏し、歌唱実技を通じて音楽をより身近なものとし感性を育んでいくことを目的とする。音楽の美を感受するために優れた音楽作品と演奏に触れ、感受力を高める。（教養教育センター　単位認定の方針Ｂにもっとも強く関与。）
達成目標	発声の基礎的技術と身体の機能を学ぶことで自分自身の「こえ」を楽器として使い、また歌うことだけに限らず「声」を発する力をつけることができる。音楽を愛好することで想像力を育み、芸術文化への関心を高めることができる。
キーワード	音楽　声楽　合唱
成績評価（合格基準60	課題への取り組み　６０%、　実技発表　４０%、 総計で６０%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	
連絡先	
注意・備考	音楽室定員４８人より受講者数が超える場合、受講制限をする可能性がある。講義中の録音／録画／撮影は原則認められない。当別の理由がある場合事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	身近な化学Ⅰ（FB21T020）
英文科目名	Chemistry closely related to our daily lives Ⅰ
担当教員名	坂根弦太（さかねげんた）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。物質は粒子からできていることを説明する。
２回	身の回りの物質は、いろいろと分類できることを説明する。
３回	物質の性質の調べ方、混合物を純物質に分ける方法について説明する。
４回	元素・周期表と原子・電子について説明する。
５回	物質中で原子はどう結びついているか、説明する。
６回	分子は原子の結合によってできていることを説明する。
７回	化学者は分子の形をどうやって調べるのか、説明する。
８回	1回～7回までの総括を説明する。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	物質は粒子からできていることについて復習を行うこと。第2回目授業までに教科書の「身の回りの物質を考える」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
２回	身の回りの物質について復習を行うこと。第3回目授業までに教科書の「物質を特徴づけるものは何か」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
３回	物質を特徴づけるものについて復習を行うこと。第4回目授業までに教科書の「すべての物質は原子からできている」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
４回	すべての物質は原子からできていることについて復習を行うこと。第5回目授業までに教科書の「物質中で原子はどう結びついているか」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
５回	物質中で原子はどう結びついているかについて復習を行うこと。第6回目授業までに教科書の「分子は原子の結合によってできる」について予習を行うこと（標準学習時間90分）
６回	分子は原子の結合によってできていることについて復習を行うこと。第7回目授業までに分子の形はどうやって分かるのか、調べておくこと（標準学習時間90分）
７回	分子の形はどうやって分かるのかについて復習を行うこと。第8回目授業までに第1回目～第7回目授業の内容について復習を行うこと（標準学習時間120分）
８回	ここまでに授業内容についての復習を行うこと（標準学習時間120分）

講義目的	私たちが認識する物質は、すべて原子という粒子でできている。しかしその粒子は小さすぎて、私たちが直接実感することは難しい。原子には種類があり、その種類のことを元素という。元素で種類分けされた複数の原子が結合して、様々な形の分子になる。身近な物質がどのような原子・分子からできているかを知り、小さすぎて見えない原子・分子の世界を想像し、実感できるようにする。身近な物質を化学の視点で認識できるようにする。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	(1)身近な物質がどのような原子・分子からできているか説明できる (2)原子・分子・電子の世界が私たちの世界に比べてどれぐらい小さい世界であるか説明できる (3)身近な物質をいろいろな視点から分類できる (4)物質中で原子はどう結びついているか説明できる
キーワード	物質、元素、原子、分子、電子、周期表、化学結合、金属、イオン、物質量
成績評価（合格基準60	課題提出20 %、小テストの結果20 %、最終評価試験60 %により成績を評価し、総計で 60 %以上を合格とする。
関連科目	本科目に引き続き「身近な化学II」を履修することが望ましい。
教科書	「化学」入門編　身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ／日本化学会　化学教育協議会「グループ・化学の本21」編／化学同人／978-4759810912
参考書	指定しない
連絡先	A1号館3階　理学部化学科　無機元素化学（坂根）研究室 e-mail: gsakane@ chem.ous.ac.jp http://www.chem.ous.ac.jp/~gs akane/
注意・備考	・この講義では講義資料を紙に印刷して講義時間内に配布する。 ・講義中の録音／録画は原則認めない。当別の理由がある場合事前に相談すること。 ・講義中の撮影（静止画）は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は

	禁止する。 ・課題提出については、講義中に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・小テストについては、小テスト回収後に模範解答を配布しフィードバックを行う。 ・以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので、全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 化学科，基礎理学科，生物化学科，臨床生命科学科，バイオ・応用化学科 ・「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部の内容が重複する可能性があるので、「化学基礎論Ⅰ・Ⅱ」の履修生および履修予定学生は「身近な化学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学Ｂ(実験で理解する電磁波の世界)（FB21T030）
英文科目名	Science Literacy B
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）,森田明義＊（もりたあきよし＊）,武田芳紀＊（たけだよしのり＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス：　授業の進め方について説明する。 電波を発生させてみよう：　電波の発生と受信について、実験を交えて説明する。 （高原　周一,森田　明義＊）
２回	電波とアンテナ：　アンテナの原理を、実験や電波のモデルを使って説明する。 （高原　周一,森田　明義＊）
３回	電磁波と光・偏光：　偏光の発生原理と性質について、偏光板を使った実験を交えて説明する。 （高原　周一,森田　明義＊）
４回	偏光をキャッチしよう：　自然界や身近にある偏光について、偏光の発見の歴史や実験と実例を交えて説明するとともに、電磁波の世界についてのイメージを作る。 （高原　周一,森田　明義＊）
５回	電子レンジと電磁波（１）：　様々な物質が電子レンジで加熱されるかどうかを実験で調べ、電磁波と物質との相互作用について説明する。 （高原　周一,武田　芳紀＊）
６回	電子レンジと電磁波（２）：　金属を電子レンジに入れた場合に何が起こるか実験で調べ、電磁波と自由電子との相互作用について説明する。 （高原　周一,武田　芳紀＊）
７回	電子レンジと電磁波（３）：　光とマイクロ波の共通点・相違点、マイクロ波と磁性体の相互作用を実験で確かめ、電磁波についての理解を深める。 （高原　周一,武田　芳紀＊）
８回	本講義のまとめを行う。 最終評価試験を実施する。 （高原　周一,武田　芳紀＊）

回数	準備学習
１回	シラバスを読んでおくこと。（標準学習時間30分）
２回	前回配布された資料を読んで、電波の発生と受信について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
３回	前回配布された資料を読んで、アンテナの原理について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
４回	前回配布された資料を読んで、偏光の発生原理と性質について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
５回	前回配布された資料を読んで、自然界や身近にある偏光および電磁波全般について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
６回	前回配布された資料を読んで、電磁波と物質との相互作用について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
７回	前回配布された資料を読んで、電磁波と自由電子との相互作用について復習しておくこと。（標準学習時間60分）
８回	前回までに配布された資料を読んで、この授業全体の復習しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	現代の科学技術になくてはならない電磁波を題材に取り上げ、予測→討論→実験による検証という流れで双方的に授業を進行させることにより、電磁波の基本を楽しく修得するとともに科学的なも

	のの見方を育成する。電磁波は、天文学、化学、物理、生物など自然科学の多くの分野に深く関係し、その知識・技術は人間の生活の多方面で応用されている。このような電磁波の世界の分野横断的な広がりを実感してもらう。科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	1．電磁波とは何かということについて概要を理解する。 2．電磁波の発生と反射・吸収の仕組みについて概要を理解し、定性的な問題に答えることができる。 3．偏光とは何かということについて概要を理解し、定性的な問題に答えることができる。 4．電磁波が様々な現象や技術に関わっていることを理解する。 5．科学における予想・討論・実験の楽しさと重要性を理解する。
キーワード	電磁波、電子レンジ、アンテナ、偏光
成績評価（合格基準60	毎回の授業の最後に提出してもらうレポート（授業中の発言も評価に加味，65%）および最終評価試験の結果（35%）により評価する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門，科学ボランティア実践指導Ⅰ・Ⅱ，科学ボランティア活動
教科書	なし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	なし。
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは 高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e－mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	・用意している装置の数および実験指導の都合により40名以上の場合は受講制限する可能性がある。その際には、ガイダンス参加者から受講生を選抜するので、必ずガイダンスに出席すること。 ・この講義では実験結果についての予想を聞き、その予想の理由を討論するという形でアクティブラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・毎回の授業の最後に提出してもらうレポートに書かれた意見・質問については、次の講義で紹介し、質問については回答するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	インターンシップ概論（FB21T040）
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	齊藤尚志＊（さいとうたかし＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションを行い，講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
２回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
３回	自己PRの基礎について説明する.
４回	自己PRの基礎について説明する.
５回	企業研究について説明する.
６回	面接実践演習を通して，具体的な面接の仕方を説明する.
７回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
８回	インターンシップに行くために自己PR，企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
１回	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥを読み，インターンシップの意義などを確認しておくこと.（標準学習時間：60分）
２回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと．（標準学習時間60分）
３回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
４回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
５回	自己PRのレポートを完成させて，提出するために推敲しておくこと．（標準学習時間60分）
６回	インターンシップのマッチングに向けて，自己PRの確認，面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと．（標準学習時間60分）
７回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと．（標準学習時間60分）
８回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること．（標準学習時間60分）

講義目的	インターンシップとは，企業・団体などにおいて，学生が将来の職業，キャリア選択を意識した就業体験をすることによって，社会や企業の実情を知り，学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに，大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です．本講義では，インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と，インターンシップ後の報告などの事後指導を通して，インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構　教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること（学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること（学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後，自らの経験をまとめるとともに，プレゼンテーションができること（学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること（見学の理念）(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ，企業研究，面接対策，企業研修
成績評価（合格基準60	毎回の提出物20%，レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は１冊使います. 「第１版 学生のためのキャリアワークブック　～キャリア・コミュニケーション・就職活動の知識と実践～」／株式会社理想経営／株式会社理想経営
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥ．必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録：「インターンシップA・B・C、社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと. 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	インターンシップ概論（FB21T050）
英文科目名	Introduction to Internship
担当教員名	松田周司＊（まつだしゅうじ＊）
対象学年	２年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 5時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションを行い，講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する.
２回	インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する.
３回	自己PRの基礎について説明する.
４回	自己PRの基礎について説明する.
５回	企業研究について説明する.
６回	面接実践演習を通して，具体的な面接の仕方を説明する.
７回	インターンシップに行くための心構えについて説明する.
８回	インターンシップに行くために自己PR，企業研究についてのまとめをする.

回数	準備学習
１回	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥを読み，インターンシップの意義などを確認しておくこと.（標準学習時間：60分）
２回	キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと．（標準学習時間60分）
３回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
４回	ME１などを利用して自己分析を行い，自己PRを考えておくこと．（標準学習時間60分）
５回	自己PRのレポートを完成させて，提出するために推敲しておくこと．（標準学習時間60分）
６回	インターンシップのマッチングに向けて，自己PRの確認，面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと．（標準学習時間60分）
７回	インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと．（標準学習時間60分）
８回	自己PRレポートをよく推敲し提出の準備をすること．（標準学習時間60分）

講義目的	インターンシップとは，企業・団体などにおいて，学生が将来の職業，キャリア選択を意識した就業体験をすることによって，社会や企業の実情を知り，学生が自らの職業適性や将来設計を考えるとともに，大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です．本講義では，インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と，インターンシップ後の報告などの事後指導を通して，インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする. (教育支援機構　教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する)
達成目標	・インターンシップ参加の心構えを身に着けること（学位授与方針項目C) ・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること（学位授与方針項目C) ・インターンシップ終了後，自らの経験をまとめるとともに，プレゼンテーションができること（学位授与方針項目C) ・社会に貢献できる人材となること（見学の理念）(学位授与方針項目E)
キーワード	インターンシップ，企業研究，面接対策，企業研修
成績評価（合格基準60	毎回の提出物20%，レポート80%により評価する.
関連科目	インターンシップA・B・C、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論、社会・産業実習
教科書	教科書は使用しない.
参考書	岡山理科大学キャリア支援マガジンＭＥ．必要に応じてMOMO-campusからダウンロード可能とする.
連絡先	C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで
注意・備考	履修登録：「インターンシップA・B・C，社会・産業実習」の単位認定を受けるためには「インターンシップ概論」を必ず修得しておくこと. 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」（1年間210円）へ必ず加入すること.
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21U010）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	生田夏樹＊（いくたなつき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章①（「使用後を考えなかった兵器」）を要約する(1)　第1課題：アウトラインを作成する。
２回	文章①を要約する(2)　第２課題：要約本文を作成する。
３回	文章②（「はたして科学者はパズルを解いているのか」）を要約する(1) 第３課題：アウトラインを作成する。
４回	文章②を要約する(2)　第４課題：要約本文を作成する。
５回	与えられたテーマA（「協力のあり方について」）の文章を作成する（1）　第５課題：アウトライン１回目を作成する。
６回	与えられたテーマAの文章を作成する（2）　第６課題：アウトライン２回目を作成する。
７回	与えられたテーマAの文章を作成する（3）　第７課題：本文のうち序論と本論１を作成する。
８回	与えられたテーマAの文章を作成する（４）　第８課題：本文のうち本論２と結論を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間１２０分)
２回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。（アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
３回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間１２０分)
４回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
５回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間１２０分)
６回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
７回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
８回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （序論、本論１に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。　（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①　文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 ②　文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 ③　与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価（合格基準60	課題提出７回分（56%）最終評価試験(44%),　60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法基礎編Ｂ」「文章表現法応用編Ａ・Ｂ」「プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂおよび応用編Ａ・Ｂ」
教科書	なし。
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を50名とする。

試験実施	実施する

科目名	心理学Ａ（FB21U020）
英文科目名	Psychology A
担当教員名	松浦美晴＊（まつうらみはる＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	授業の概要と、「心理学の歴史」について説明する。
２回	「科学としての心理学」について説明する。
３回	「知覚のはたらき」について説明する。
４回	「記憶と学習のメカニズム」について説明する。
５回	「人間の空間行動」について説明する。
６回	「パーソナリティと発達」について説明する。
７回	「心の健康」について説明する。
８回	「心の危機」について説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
２回	教科書の目次と、第1章に目を通しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	教科書第2章に目を通し、p.14の「演習」を行ってくること。（標準学習時間120分）
４回	教科書第3章に目を通し、「演習」p.25「課題2」を行ってくること。（標準学習時間120分）
５回	教科書第4章に目を通し、p.38の「演習」を行ってくること。（標準学習時間120分）
６回	教科書第5章に目を通し、「演習」p.49「課題3」を行ってくること。（標準学習時間120分）
７回	教科書第6章に目を通し、「演習」p.63「課題1」、p.65「課題3」を行ってくること。（標準学習時間120分）
８回	これまでの内容を見直して、整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	人間の心と行動の仕組みを研究する学問である心理学について概説し、体系的な理論を学ばせる。心理学の基本的な知識についての理解を深めさせ、よりよい人間性の育成を目指す。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する)
達成目標	心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解し、トピックと理論について知り、それらを説明できるようになる。
キーワード	こころの理解、知覚、認知、学習、パーソナリティ
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100%）
関連科目	心理学Ｂ
教科書	生活にいかす心理学ver.2／古城和子（編著）／ナカニシヤ出版／4888487057
参考書	授業中に適宜指示する。
連絡先	山陽学園大学　TEL：086-272-6254（代表）
注意・備考	日常の経験を振り返り、その裏付けとして授業の内容を捉え、人間についての理解を深めることを望む。
試験実施	実施する

科目名	スポーツとフィールド科学（ゴルフ）【金1金2】（FB21U030）
英文科目名	Sports (Golf)
担当教員名	森博史（もりひろし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 1時限 ／ 金曜日 2時限
対象クラス	理学部(16～),工学部(16～),総合情報学部(16～),生物地球学部(16～),教育学部(16～),経営学部(16～)
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
１回	ゴルフの歴史、用具、講義実施場所、講義の内容と目的、受講の心得等について説明する。
２回	練習場の利用方法とマナーについて説明する。 ウエッジ練習①：特性と技術について説明した後、打球練習をする。
３回	ウェッジ練習② ： 打球を安定させる練習をする。ウェッジ練習③ ： アプローチショットの説明をした後、距離の打ち分け練習をする。
４回	ショートアイアン（９番・８番）、ミドルアイアン（７番・６番・５番）、ロングアイアン（４番・３番）について説明をした後、練習をする。
５回	フェアウエイウッド、ドライバーについて説明をした後、練習する。
６回	グリーン上・バンカー内でのルールとマナーについて説明をした後、パターとバンカーショットの練習をする。実技テストの説明をする。
７回	実技テストを行った後、ラウンド（ショートコース）で使用するクラブの総合練習をする。
８回	コースでのルール、マナー、スコアーカード記入等の説明をした後、ラウンドをする。講義全体の振り返りとまとめをする。

回数	準備学習
１回	授業内容と目的、受講の心得について確認をおこなうこと。ウエッジの特性について調べておくこと。（標準学習時間６０分）
２回	練習場の利用方法とマナー、ウエッジの特性について説明できるように復讐を行うこと。ウエッジの打球を安定させること、距離の打ち分けについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
３回	距離の打ち分けについて説明ができるように復習を行うこと。ショートアイアン、ミドルアイアン、ロングアイアンについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
４回	ショートアイアン、ミドルアイアン、ロングアイアンについて説明ができるように復習を行うこと。フェアウエイウッド、ドライバーについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
５回	フェアウエイウッド、ドライバーについて説明ができるように復習を行うこと。パターとバンカーショットについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
６回	パターとバンカーショットについて説明ができるように復習を行うこと。ゴルフコースについて調べておくこと。実技テストの準備をしておくこと（標準学習時間１２０分）
７回	ラウンドで使用するクラブ選択について説明ができるように復習を行うこと。ゴルフコースでのルールとマナーについて調べておくこと。（標準学習時間120分）
８回	ゴルフを通して生涯スポーツの意義と役割について説明ができるように復習をし、理解を深めること。（標準学習時間120分）

講義目的	ゴルフ練習場で基本技術と理論を習得した後、ショートコースでのラウンドで技術・理論の正しさを実践的に裏づける。ルールを理解し、重要視されるマナーについても知識を深め、社会的態度を育てる。また、生涯を通じて継続的にスポーツや運動を実践していける習慣や態度を育てることを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のＤにもっとも強く関与する） ルールを理解し、重要視されるマナーについても知識を深め、社会的態度を育てる。また、生涯を通じて継続的にスポーツや運動を実践していける習慣や
達成目標	①ゴルフの基本技術を習得する。（D） ②ラウンドで必要なショット（ティーショット、アプローチショット、バンカーショット、パット）を習得する。（D） ③ルールを遵守する態度やマナー、安全への配慮等を身に付ける。（D） ④ラウンドを経験することで、練習場の打席とは違う自然の傾斜や芝の違いを科学的に理解できる。（D）
キーワード	クラブ、パター、バンカー、グリーン、ルール、マナー
成績評価（合格基準60	積極性（３０％）、ルール・マナーの遵守（２０％）、協調性（２０％）、安全への配慮（２０％）、技術（１０％）により成績を評価し、６０％以上を合格とする。
関連科目	健康の科学、生涯スポーツ、スポーツとフィールド科学を履修することが望ましい。
教科書	使用しない。

参考書	使用しない。
連絡先	Ｃ３号館５階 森 博史研究室 mori@dls.ous.ac.jp
注意・備考	１回目の授業はC1号館２階（トレーニングルームⅡ：柔道場）で行う。 １回目の授業には必ず出席すること。 ３０名を超過した場合、抽選により受講者を決定する（安全面等、適正な教育環境を確保するため）。 ２回目以降は「ゴルフ練習場」で行う（実費：入場料・ボール代が必要）。 クラブは貸し出す。
試験実施	実施しない

科目名	フレッシュマンセミナー（FB21V010）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	三木恒治（みきこうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	応用数学科,電気電子システム学科,情報工学科,建築学科,工学プロジェクトコース,生命医療工学科
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	現時点（入学時）における各人のライフデザイン、キャンパスデザインについて考える。① 大学４年間の「ゴール」を設定する（宣言する）② 社会貢献活動等を通じて「感動体験」を学ぶ（感動は「生きる力」の源）。③「学んだことを役立てようと思えば武器になる。思わなければ何の役にも立たない」。また、社会人として必要になる資質についても考え、大学における「教養」学習とは何かを講義する。
２回	主体的な学びを身につけるために、大学が提供する様々なサポートについて講義する。また、自ら学び成長していくためのスキルとしてポートフォリオという概念とシステムについても指導する。
３回	各自が所属する学科の特徴と社会との関わりを講義する。
４回	社会における大学の役割について理解を深め、社会人としての研究者の責任について講義する。講義時に研究倫理に関する誓約書の提出を全学生に課す。
５回	社会の一員としての学生の責任を自覚することを促すための講義を行う。最低限知っておくべき事務手続き、アパート暮らしでの注意点、最近の身近な犯罪・発生状況、学生を取り巻く環境等の具体的な説明も行う。
６回	自立した個人としてのリスクマネジメント（危機管理）について講義する。1人ぐらし等、生活リズムの変化に伴う生活上の注意点と身体的・精神的な健康管理について説明を行う。
７回	岡山理科大学生として具体的な学生生活のイメージを持つよう、様々な体験をした学生の事例紹介を行う。
８回	「フレシュマンセミナー」の学びを振り返る。ライフデザイン実現のため、学生生活をどう送るかのキャンパスデザインを改めて考える。①アメリカの心理学者ジョン・L・ホランドの「職業興味検査（VPI）」を全員で行う。②スタンフォード大学のジョン・D・クランボルツ教授によって考案されたキャリア理論「計画された偶発性理論（ Planned Happenstance Theory）」を紹介する。

回数	準備学習
１回	各人でこれからの人生をどう生き、またそのためにこれからの学生生活をどう過ごすかを考えてくること（標準学習時間60分）
２回	「教養」という単語をネットで調べ、自己の人生において「教養」とは何かを考えておくこと。図書館を見学しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	自分の人生設計（ライフデザイン）において、所属する学科での学びをどのようにすべきかを考えておくこと（標準学習時間120分）
４回	自分たちが研究者でもあるという視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと（標準学習時間120分）
５回	学生も自己責任を問われる社会人であるとの視点を持って、社会に対する責任について各自考えておくこと。「学生便覧」「キャンパスライフ」「履修ガイド」を読んでおくこと。４月４日に配布の「レジュメ（学生課）」(カラーＡ４裏表版１枚)をよく読んで実践しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	自分が責任ある社会人として生きていくためにはどのような危機管理が必要かを考えておくこと（標準学習時間120分）
７回	岡山理科大学の提供する様々なサポートを活用してどのような学生生活を送りたいか、各人で考えておくこと（標準学習時間120分）
８回	大学でどう過ごすかということと、卒業後の進路について、より具体的に考えておくこと（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は初年次の全学生が受講し、岡山理科大学の学生として最低限求められる資質や知識を学ぶ。大学では、学びの態度が「学習」から「学問」へと深化する。また、大学での正課活動だけで

	なく学外での正課外活動にも積極的に取り組む中で、大学生としてまた地域人としての自覚と責任を持った行動が求められる。本講義の目的は、そうした社会の一員である大学生として、また自分の人生における一時期として、この4年間をどのように過ごすかということについて、自己意識をしっかりと持つことを目的とする。（教養教育センターの単位認定の方針のＦに最も強く関与する）
達成目標	（1）自己のライフデザインの中で、岡山理科大学生としてどのように過ごすかというキャンパスライフデザインを描くことができる。 （2）その際に、大学が提供するさまざまなサポートについて理解したうえで、自己の学びにそれらをどう利用し生かしていけるか計画を立てられる。 （3）自分が社会の一員であることの自覚を持ち、社会への責任を果たしていくという意識を持つことができる。
キーワード	ライフデザイン、キャンパスライフデザイン、学生と社会人
成績評価（合格基準60	毎回の講義後出される課題において60%以上の評価により合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	教学支援センター長、教養教育センター長　（いずれも教学支援室へ問い合わせてください）
注意・備考	初回のガイダンスで説明するが，ポートフォリオを活用した課題提出（出席管理）を実施するので，そのためのスキルを習得すること。 フィードバックもこれによって行う。理想的な大学生活のスタートが切れるよう積極的に参加すること。 特に４回目は研究倫理教育（全員必修）を兼ねるので必ず出席して誓約書を提出すること。この講義は複数学科合同開講のため，理大ホールで行う。席を詰めて座る，私語を慎む，遅刻をしないなどのマナーを厳守すること。
試験実施	実施しない

科目名	技術者の社会人基礎Ａ（FB21V020）
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学プロジェクトコース,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 ＊文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
２回	＊ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
３回	＊テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
４回	＊手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 ＊封書（宛名・差出人）の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
５回	＊テーマに基づいた手紙を作成する。（標準学習時間　１２０分）
６回	＊手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
７回	＊テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
８回	まとめ

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 （標準学習時間　１２０分）
２回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
３回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
４回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
５回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
６回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
７回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
８回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 （標準学習時間　１２０分）

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションの重要さを理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	①社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ②ビジネスマナーにのっとた電話応対ができる。 ③コミュニケーションの重要さを理解し良好な人間関係の構築ができる。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
成績評価（合格基準60	提出課題50％・講義ごとの小テストの結果50％により成績を評価し、総計で60％を合格とする。
関連科目	社会と人間、企業と人間
教科書	特定の教科書は指定しない。

参考書	適宜、指示する。
連絡先	
注意・備考	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を７０名とする。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21V030）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	生田夏樹＊（いくたなつき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章①（「使用後を考えなかった兵器」）を要約する(1)　第1課題：アウトラインを作成する。
２回	文章①を要約する(2)　第２課題：要約本文を作成する。
３回	文章②（「はたして科学者はパズルを解いているのか」）を要約する(1) 第３課題：アウトラインを作成する。
４回	文章②を要約する(2)　第４課題：要約本文を作成する。
５回	与えられたテーマA（「協力のあり方について」）の文章を作成する（1）　第５課題：アウトライン１回目を作成する。
６回	与えられたテーマAの文章を作成する（2）　第６課題：アウトライン２回目を作成する。
７回	与えられたテーマAの文章を作成する（3）　第７課題：本文のうち序論と本論１を作成する。
８回	与えられたテーマAの文章を作成する（４）　第８課題：本文のうち本論２と結論を作成する。 最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	特に無いが、学内でパソコンを使用するためのアカウントを準備しておくこと。(標準学習時間１２０分)
２回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。（アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
３回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。(標準学習時間１２０分)
４回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
５回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 日常生活の様々な場面で見られる「協力」の例について考えておくこと。(標準学習時間１２０分)
６回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
７回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （アウトラインに改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)
８回	前回提出した課題へのコメントを一読しておくこと。 （序論、本論１に改良すべき所がある場合は、改良したファイルを用意しておくこと。）(標準学習時間１２０分)

講義目的	小論文、レポート等の作成において必要とされる、論理的で明晰な文章の書き方の基礎を受講者が身につけることである。　（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	①　文章を要約するために必要な発想ならびに技法を習得すること。 ②　文章を作成するための「アウトライン」の重要性を理解すること。 ③　与えられた課題について、アウトラインに基づいて800字の作文を独力で完成させることができること。
キーワード	文章表現、作文、アウトライン、要約
成績評価（合格基準60	課題提出７回分（56%）最終評価試験(44%),　60%以上を合格とする。
関連科目	「文章表現法基礎編Ｂ」「文章表現法応用編Ａ・Ｂ」「プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂおよび応用編Ａ・Ｂ」
教科書	なし。
参考書	プリント（資料）を配布する。
連絡先	
注意・備考	課題点も成績評価に含まれるので、毎回の課題を必ず提出すること。 受講者数の上限を５０名とする。

試験実施	実施する

科目名	経済学Ａ（FB21V040）
英文科目名	Economics A
担当教員名	山下賢二＊（やましたけんじ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	経済学とは何かについての概要を講義する。
２回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に消費者行動の原則と効用の概念について講義する。
３回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に効用関数について講義する。
４回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に無差別曲線について講義する。
５回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点の導出について講義する。
６回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に最適消費点を解析的に求める方法について講義する。
７回	ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。 特に所得消費曲線、需要曲線、補償需要曲線について講義する。
８回	これまでの７回分の講義のまとめを行う。 最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	新聞などから経済ニュースを読んでおくこと（※内容は何でもよい。） （標準学習時間60分）
２回	1.微分の復習をしておくこと 2.第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと （標準学習時間60分）
３回	前回の講義を復習しておくこと （標準学習時間60分）
４回	前回の講義を復習しておくこと （標準学習時間60分）
５回	前回の講義を復習しておくこと （標準学習時間60分）
６回	前回の講義を復習しておくこと （標準学習時間60分）
７回	前回の講義を復習しておくこと （標準学習時間60分）
８回	すべての講義を復習しておくこと （標準学習時間120分）

講義目的	経済現象は日々変化しており，その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では，経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うこと を目的として，若干の数学を用いながら，経済理論の最も基本的な部分を講義する。　（教養教育センター　単位認定の方針Ｃにもっとも強く関与。）
達成目標	基本的な経済理論を理解できるようになること，様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになること
キーワード	ミクロ経済学、家計
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100%)

関連科目	
教科書	①１からの経済学／中谷武・中村保編著／碩学舎/中央経済社／9784502680809 ②プリント（ホームページからダウンロード。URLは第１回目の講義で指示する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	岡山商科大学経済学部　山下賢二研究室kenyamashita@po.osu.ac.jp
注意・備考	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を多用する。高校で微分をすでに学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。 試験形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	環境と社会Ａ（FB21V050）
英文科目名	Environment and Society A
担当教員名	劒持堅志＊（けんもつかたし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておくと、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能（AI）の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
２回	日本で発生した深刻な公害（足尾鉱毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど）やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
３回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかに努力し、克服していったかについてについて解説する。
４回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
５回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
６回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、私たちが実践できる地球温暖化対策について講義する。
７回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても講義する。
８回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施

回数	準備学習
１回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書①の構成と目次（４～９）などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
２回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 （標準学習時間60分）
３回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 （標準学習時間60分）
４回	参考書①第２～３章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
５回	地球レベルの環境破壊について、参考書①３-４、３－６章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
６回	地球温暖化の原因と現状について、参考書①３-１章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
７回	原子力発電所事故等について、参考書①3-８章などを勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
８回	再生可能エネルギーについて、参考書①３-２章やインターネットなどを参照して勉強しておくこ

	と。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。（標準学習時間120分） 評価試験の範囲は１～８回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、 自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。 過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、 喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、 ライフスタイルを変革していく必要性があることを講義する。 更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が 課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や 私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、 また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 （教養教育センター　単位認定の方針Cにもっとも強く関与。）
達成目標	①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 ②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 ③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 ④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 ⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 ⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、 地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、 再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、 化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、 電気自動車、自動運転、人口知能（AI)の進化、環境マネージメントシステム、 ライフスタイルの変革
成績評価（合格基準60	中間評価試験（50%）及び最終評価試験（50%）で成績を評価し、 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	①改定６版　eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／日本能率協会マネジメントセンター／ISBN： 978-4-8207-5952-2　C305 1 ②不都合な真実（アルゴア著、ランダムハウス講談社）　ISBN 978-427000181 3) ③地球システムの崩壊（松井 孝典、新潮選書) ④生命の多様性（エドワード・O．ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	（個人メール）　katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	技術者の社会人基礎Ａ（FB21W010）
英文科目名	Social communication for engineers A
担当教員名	田邉麻里子＊（たなべまりこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部,電気電子システム学科,工学プロジェクトコース,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	＊ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 ＊文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
２回	＊ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
３回	＊テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
４回	＊手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 ＊封書（宛名・差出人）の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
５回	＊テーマに基づいた手紙を作成する。（標準学習時間　１２０分）
６回	＊手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
７回	＊テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
８回	まとめ

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 （標準学習時間　１２０分）
２回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
３回	前回までの講義内容を復習しておくこと。（標準学習時間　１２０分）
４回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
５回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。
６回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
７回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 （標準学習時間　１２０分）
８回	これまでの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。 （標準学習時間　１２０分）

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションの重要さを理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。（教養教育センター単位認定方針のEに強く関与する）
達成目標	①社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ②ビジネスマナーにのっとた電話応対ができる。 ③コミュニケーションの重要さを理解し良好な人間関係の構築ができる。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、はがき、メール
成績評価（合格基準60	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
関連科目	社会と人間、企業と人間

教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	
注意・備考	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。 受講者数の上限を７０名とする。
試験実施	実施しない

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21W020）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
２回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
３回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
４回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
５回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
６回	文章を要約する③：参考文を要約する。
７回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 （標準学習時間30分）
２回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 （標準学習時間30分）
３回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 （標準学習時間45分）
４回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 （標準学習時間45分）
５回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 （標準学習時間45分）
６回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 （標準学習時間45分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 （標準学習時間45分）
８回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検を行うこと。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	与えられた文章の構成を理解し、的確に要約することができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60	演習（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編Ｂ、文章表現法応用編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法Ｉ基礎編（群青色版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6．講義には必ず国語辞典（通信

	機能のない電子辞書も可）を持参すること。　7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FB21X010）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	杉林周陽＊（すぎばやしのりあき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,生物地球学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	文章スキルの大切さ、テキストと講義の進め方について説明する。
２回	指示に従って受講シートの記入に取り組む。
３回	文章を要約する①：参考文を読みながら、アウトラインの作成を指導する。
４回	文章を要約する②：参考文を読みながら、文章の組み立てを説明する。
５回	文章を書くときの注意点①：文章表現の形式とルールについて解説する。
６回	文章を要約する③：参考文を要約する。
７回	文章を書くときの注意点②：正確でわかりやすい表現について解説する。最終評価試験について説明する。
８回	ここまでの講義をまとめる。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：受講上の注意を再確認すること。 （標準学習時間30分）
２回	予習：受講シート記入上の注意を読んでおくこと。 復習：記入した内容を自己点検すること。 （標準学習時間30分）
３回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：アウトラインの大切さを確認すること。 （標準学習時間45分）
４回	予習：指示された参考文を読んでおくこと。 復習：文章の基本的な組み立てを確認すること。 （標準学習時間45分）
５回	予習：文章の基本的な書き方を確認しておくこと。 復習：文章表現の形式とルールをまとめること。 （標準学習時間45分）
６回	予習：文章の要約についてまとめておくこと。 復習：取り組んだ要約を自己点検すること。 （標準学習時間45分）
７回	予習：文章表現の注意点について考えておくこと。 復習：正確でわかりやすい表現のポイントをまとめること。 （標準学習時間45分）
８回	予習：ここまでの講義内容を確認し、最終評価試験の準備をすること。 復習：最終評価試験について自己点検を行うこと。 （標準学習時間120分）

講義目的	一般社会で通用する文章を書くために、基本的な取り組みの姿勢とスキルを身につける。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）
達成目標	与えられた文章の構成を理解し、的確に要約することができる。
キーワード	文章表現、小論文、日本語、就職活動
成績評価（合格基準60	演習（40%）、最終評価試験（60%）。 原則として、演習をすべて行うことが最終評価試験の受験資格となる。
関連科目	文章表現法基礎編Ｂ、文章表現法応用編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション基礎編Ａ・Ｂ、プレゼンテーション応用編Ａ・Ｂ
教科書	三木恒治・世良利和・藤野薫・杉林周陽／新・文章表現法Ｉ基礎編（群青色版）／蜻文庫
参考書	必要に応じて指示する。
連絡先	
注意・備考	1.受講者数の上限を５０名とする。 2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 3.受講者は必ずテキストを購入すること。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6．講義には必ず国語辞典（通信

	機能のない電子辞書も可）を持参すること。　7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。　8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。　9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。　10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。
試験実施	実施する

科目名	論理学Ａ（FB21X020）
英文科目名	Logic A
担当教員名	中島聰（なかしまさとし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション。序論として、論理学の定義・その学問的な特徴・論理的な推論の形態について説明する。
２回	西洋の古代・中世の論理学の歴史を概説する。
３回	西洋の近現代の論理学の歴史を概説する。
４回	伝統的論理学(1)　名辞(概念)の意味と種類、外延と内包、定義について説明する。
５回	伝統的論理学(2)　命題(判断)の性質・種類・標準形式、周延不周延について説明する。
６回	伝統的論理学(3)　直接推理の性質、種類として対当推理・変形推理について説明する。
７回	伝統的論理学(4)　間接推理のうち、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本型について学習する。
８回	古代論理学の歴史と基礎的な事項についての学習内容を復習する。 また最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	講義全体の学習内容を、シラバスで確認し、把握しておくこと。(標準学習時間60分)
２回	教科書第一部「西洋論理学の思想史的背景」を読み、西洋論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
３回	教科書第一部「西洋論理学の思想史的背景」を読み、西洋論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
４回	教科書第二部「名辞」を読み、名辞(概念)の意味、外延と内包、種類、定義について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
５回	教科書第二部「命題」を読み、命題(判断)の性質、種類と標準形式、周延不周延について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
６回	教科書第二部「直接推理」を読み、推理の性質、その種類として対当推理・変形推理について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
７回	教科書第二部「間接推理」を読み、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
８回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)

講義目的	西洋の代表的な論理学である伝統的論理学を中心にして、論理学の基礎を学習する。論理学は「人間の正しい思考の規則・法則を明らかにする」基本的・形式的な学問である。論理学の基礎的な事項や思考方法を学び、さらに初級的な推論の形態やその技法を習得することで、社会生活上での言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力の上達を目的とする。（教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する）
達成目標	①各論理学の基礎的な事項について正確な理解ができる。 ②初級的な推論の問題演習を通して、その技法を身につけることができる。 ③社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開できる。
キーワード	西洋の古代中世論理学の歴史　　アリストテレス　　概念・命題・推理　　論理的推論の形態と技法
成績評価（合格基準60	最終評価試験により成績を評価する。 最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	なし。
教科書	論理学研究／中島　聰／ふくろう出版／978-4-861865466
参考書	教科書巻末に掲載した参考文献を参照すること。
連絡先	
注意・備考	論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須です。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理

	解できるようになります。
試験実施	実施する

科目名	環境と社会Ａ（FB21X030）
英文科目名	Environment and Society A
担当教員名	劒持堅志＊（けんもつかたし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておくと、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能（AI）の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。
２回	日本で発生した深刻な公害（足尾鉱毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど）やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。
３回	岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかに努力し、克服していったかについてについて解説する。
４回	地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。
５回	地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。
６回	地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、私たちが実践できる地球温暖化対策について講義する。
７回	日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても講義する。
８回	原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。 中間評価試験を実施

回数	準備学習
１回	自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書①の構成と目次（４～９）などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
２回	日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。 （標準学習時間60分）
３回	岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。 （標準学習時間60分）
４回	参考書①第２～３章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。
５回	地球レベルの環境破壊について、参考書①３-４、３－６章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
６回	地球温暖化の原因と現状について、参考書①３-１章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
７回	原子力発電所事故等について、参考書①3-８章などを勉強しておくこと。 （標準学習時間60分）
８回	再生可能エネルギーについて、参考書①３-２章やインターネットなどを参照して勉強しておくこ

	と。 評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。（標準学習時間120分） 評価試験の範囲は１～８回

講義目的	地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、 自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。 過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、 喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、 ライフスタイルを変革していく必要性があることを講義する。 更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が 課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が 社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、 また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 （教養教育センター　単位認定の方針Cにもっとも強く関与。）
達成目標	①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。 ②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。 ③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。 ④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。 ⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。 ⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。
キーワード	公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、 地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、 再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、 化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、 電気自動車、自動運転、人口知能（AI)の進化、環境マネージメントシステム、 ライフスタイルの変革
成績評価（合格基準60	中間評価試験（50%）及び最終評価試験（50%）で成績を評価し、 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	①改定６版　eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／ 　日本能率協会マネジメントセンター／ISBN： 978-4-8207-5952-2　C 3051 ②不都合な真実（アルゴア著、ランダムハウス講談社）　ISBN 978-427000181 3) ③地球システムの崩壊（松井 孝典、新潮選書) ④生命の多様性（エドワード・O．ウィルソン、岩波現代文庫)
連絡先	（個人メール）　katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	身近な地学Ⅰ（FB21X040）
英文科目名	Geoscience closely related to our daily live s Ⅰ
担当教員名	北岡豪一＊（きたおかこういち＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,教育学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	人類はどのようにして「科学」を手に入れたのか，天動説から地動説への道筋を例にして，先人の苦難の足跡をたどりながら学習する。
２回	地球がどのようにして誕生し，大地，大気，水がどのようにして生まれ，そして地球表層の環境がどのように変遷してきたかを概説する。
３回	地球の重力について学習する。地球のかたちや、地球表層の大陸と海洋，大山脈と海溝の分布のからくり、重力の分布を測定することによって地下の構造が分かることを理解する。
４回	地震波（たて波、よこ波、表面波）の伝播のしかたについて学習し、地球内部の層構造が明らかにされてきた過程を説明する。
５回	地球の磁場が生命に与えている恩恵について学習する。また，大陸移動や海洋底拡大の考え方がどのような証拠に基づいて生まれたのか，その歴史を紹介する。
６回	プレートテクトニクスの視点から，日本列島とその周辺でなぜ火山と地震が多いのか、そのメカニズムを紹介し，最新の地球科学へといざなう。
７回	大地を構成している岩石がどのようにして作られ，それが，風化，移動，堆積、変形，変成しながら，地球規模で循環している姿を学習する。
８回	前半は，地球の歴史と日本列島がどのようにして形成されたのか，概観する。後半の0.5コマ分で最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	自分なりに不思議に思ういろいろな自然現象について考えておくこと。（標準学習時間：60分）
２回	先週の科学の歴史を復習しながら，科学的なものの考え方とは何かについてよく納得しておくこと。（標準学習時間：60分）
３回	重力は日常生活において極めて重要な概念であるから，書物やネットを通してよく理解しておくこと。（標準学習時間：60分）
４回	波にはいろいろなものがあるが、どのような波があり，その伝わり方について予習しておくこと。（標準学習時間：60分）
５回	電磁石は身の回りでいろいろと利用されているが，どのようなものに利用され、また、磁石はどうしてできるのか，予習しておくこと。（標準学習時間：60分）
６回	書物やネットの図を見ながら，地球上の火山と地震の震源分布をじっくり見比べておくこと。（標準学習時間：60分）
７回	身近にある岩石，砂，土がどのようにして作られ，どうしてここにあるのか，考えてみること。（標準学習時間：60分）
８回	最終評価試験を実施するので、これまで学習した内容をよく復習し理解しておくこと。（標準学習時間：180分）

講義目的	科学は，身近な自然現象の中で不思議さを感じ，それを分かろうとする人々によって生み出され，発展してきた．科学が発達した現代でも，自然の中には数知れない不思議さが秘められている．本講義では，地球内部のダイナミズムによって地震や火山が起こり，大気、水、岩石，地層が作られてきたことを紹介しながら，自然界にはなお未解明部分の多いことを教示する． （理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	・プレートテクトニクスの考え方が歴史的にどのようにして作られたのかを知っている． ・火山・地震の起こるメカニズムが地球内部のダイナミックスから理解している． ・岩石や地層の形成過程を理解している． ・地球の重力から地下構造を探ることができることを知っている． ・岩石の地磁気から地表の移動や地層形成の歴史を探ることができることを知っている． ・生き物は地球と太陽の恵みの中で活動しているということが実感できる． ・さまざまな自然現象の中で不思議さを感じとることができる．
キーワード	地球，地球内部，火山，地震，重力，地磁気，プレートテクトニクス，岩石，科学史
成績評価（合格基準60	毎回講義の小レポート（50点）と最終評価試験（50点）により評価する。
関連科目	身近な生物学Ⅰを受講していることが望ましい。

教科書	なし
参考書	「ニューステージ新地学図表」/浜島書店編集部/浜島書店/978-4-8343-4012-9
連絡先	kitaoka_51@yahoo.co.jp
注意・備考	提出課題については、講義中に模範解答を示しフィードバックを行う。 講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。 講義資料は講義開始時に配布する。 以下の学科は本科目の内容が専門科目でカバーされているので，全体の受講希望者が100名を超える場合は受講を制限する可能性がある。 基礎理学科，生物地球学科 「地学基礎論Ⅰ・Ⅱ」と一部内容が重複する可能性があるので，その科目の履修生および履修予定学生は「身近な地学Ⅰ・Ⅱ」の履修を避けること。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学C(再生医療等の最先端医療科学)（FB21X050）
英文科目名	Science Literacy C
担当教員名	岩井良輔（いわいりょうすけ）,根本泰＊（ねもとやすし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	全8回の講義の進め方を説明する。人体にある五臓六腑の中でどんな現象が起きているのか？また、それが人間の生命維持にどう機能しているのかを説明する。 （岩井　良輔,根本　泰＊）
２回	医療用に開発された代表的な素材を紹介し、それらに求められる機能を身の回りにある科学現象と結び付けて具体的に解説する。また、医療機器へ要求される法令に関しても言及する。 （根本　泰＊）
３回	失われた臓器機能を代替する人工臓器（人工腎臓、人工血管、人工肺、人工心臓など）を紹介し、現行品の開発の歴史と将来の展望について解説する。 （根本　泰＊）
４回	生命の最小単位である細胞とそれらを利用した医療や医薬品開発について概説する。 （岩井　良輔）
５回	人工多能性幹細胞（iPS）の作製とその再生医療への応用に向けた取り組みについて、最先端の開発状況を解説する。 （岩井　良輔）
６回	細胞を集め並べて3次元の組織、器官さらには臓器を作製する最先端の医療科学について解説する。実際に培養により作製された3次元の組織体を観察し最先端の医療科学を体験する。 （岩井　良輔）
７回	細胞の働きを操作できる遺伝子改変技術を遺伝子組換え食品などと合わせて説明する。 遺伝子治療、クローン動物作製などの歴史と最新のゲノム編集について説明する。 （根本　泰＊）
８回	これまでのまとめを実施する。最終評価試験を実施する。 （岩井　良輔,根本　泰＊）

回数	準備学習
１回	課題1：インターネットや書籍を用いて、再生医療など先進医療技術関係の記事を1つ探して読んでおくこと 課題2：過去3日間の食事につき、食べた物とその量（大体で良い）を表にしておくこと。（合計標準学習時間60分）
２回	課題1：レトルト食品と真空パック食品の賞味期限に大きな差がある理由を考えてみること。 課題2：ジェネリック医薬とは何か調べておくこと。（合計標準学習時間60分）
３回	課題1：1回目の講義資料のうち『腎臓の役割』の部分を復習しておくこと。 課題2：人工透析とは何か調べておくこと。（合計標準学習時間60分）
４回	細胞の構造と機能について教科書や参考書で調べておくこと。（標準学習時間60分）
５回	インターネットや書籍を用いて、iPS細胞を用いた再生医療研究について調べておくこと。（標準学習時間60分）
６回	興味のある器官や臓器を一つ選んで、その器官や臓器の再生医療について雑誌、新聞やインターネット等で調べておくこと。（標準学習時間60分）
７回	課題1：遺伝子組換え食品に対する心象を5名の人間に聞いておくこと。 課題2：ウイルスと細菌の違いを調べておくこと。（合計標準学習時間60分）

８回	この授業全体について復習をしておくこと。（標準学習時間90分）

講義目的	人生をより豊かにするために広く教養を身に付けることを目的とし、本講では事前の知識量を不問とし、分かりやすい説明に徹する。現代人の代表的な疾病及びその発症メカニズム並びにその治療技術を知ることで各人の健康意識を高める。本講では全8回の科目のうち4回分を民間企業の現役社員へ委嘱し、大学教員と違う角度からも話をすることで、一見、講義と関連がない分野にも習得した知識を展開できる生きた知識を伝授することを目指す。（理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与）
達成目標	①新聞やテレビ番組の『再生医療等の先進医療技術』に関する情報を正しく理解でき、それを他者へ説明ができる。 ②実演を通じ、紙面に書かれた医療技術情報を現物として具体的にイメージできる。 ③臓器の働きを理解し、身の回りにある自然現象と置き換えてイメージできる。
キーワード	再生医療、人工臓器、医療機器、遺伝子治療、iPS細胞
成績評価（合格基準60	最終評価試験を４０％、毎回の提出課題（計７回）を６０％とし、総計で６０％以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	技術科学研究所　岩井研究室　C７号館3階 iwai@rit.ous.ac.jp　オフィスアワー（月～金、１３：００～１５：００）
注意・備考	受講希望者が50名を超えるときは受講制限を行うことがあるので、初回の講義日には必ず出席すること。 講義資料およびレポート課題用紙は、講義開始時に配布する。 毎回の課題に対するフィードバックは、課題を出した次の授業の最初に解説するとともに、課題のレポート用紙に教員のコメントを記入する。
試験実施	実施する

科目名	国際関係論Ａ（FB21Z010）
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	砂川和泉＊（すながわいずみ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション：講義の進め方・受講上の注意点などを説明する。 国際社会の特徴を国内社会と比較しながら説明する。
２回	国際関係の歴史(1)：近代ヨーロッパ国際社会の成立を中心に説明する。
３回	国際関係の歴史(2)：19世紀から第1次世界大戦までを中心に説明する。
４回	国際関係の歴史(3)：国際連盟設立の経緯を中心に説明する。
５回	国際関係の歴史(4)：国際連合設立の経緯を中心に説明する。
６回	国際連合の組織構造：国際連合の主要な機関を概観する。特に総会と安全保障理事会について説明する。
７回	その他の国際機構：国際連合以外の主な国際機構について概観する。
８回	最終評価試験を実施する。 最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。

回数	準備学習
１回	新聞の国際面に目を通しておくこと(標準学習時間30分)
２回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
３回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
４回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
５回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
６回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
７回	前回の講義内容について復習しておくこと(標準学習時間30分) 配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分)
８回	前回までの講義内容について復習しておくこと(標準学習時間180分)

講義目的	国際社会の組織化の歴史や国際機構の仕組みについての講義を行い、国際機構についての理解を深める。　（教養教育センター　単位認定の方針Ｃにもっとも強く関与。）
達成目標	①国際連盟と国際連合の設立の経緯について、その概略を説明できる。 ②国際連盟と国際連合の基本的な仕組みについて説明できる。
キーワード	国際機構、国際連合
成績評価（合格基準60	上記達成目標の到達度を最終評価試験(100%)で評価する。
関連科目	
教科書	使用しない。講義時間中にプリントを配布する。
参考書	適宜指示する。
連絡先	
注意・備考	最終試験のフィードバックとして試験内容の解説を行う。 講義中の撮影、録音および録画を禁止する。
試験実施	実施する

科目名	福祉環境論Ａ（FB21Z020）
英文科目名	Welfare Environmental Science A
担当教員名	土橋恵美子＊（つちはしえみこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション：講義の目的、進め方について説明する。
２回	障害者差別解消法と合理的配慮について説明する。
３回	聴覚障がいとその程度・二次障害について説明する。
４回	聴覚障がいおよび視覚障がいの疑似体験を実施する。
５回	重複障がいの疑似体験を実施する。
６回	聴覚障がい学生支援について説明する。
７回	手話通訳の起源とろう文化について説明する。
８回	第１回から第７回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
２回	障がい者の差別に関する日本の現状について考えておくこと。(標準学習時間120分)
３回	聴覚障がいについて調べておくこと。(標準学習時間120分)
４回	聴覚障がいおよび視覚障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)
５回	重複障がいのある当事者について考えておくこと。（標準学習時間120分）
６回	聴覚障がい学生支援について考えておくこと。(標準学習時間120分)
７回	手話の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)
８回	第１から第７回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	『障がい」および「障がい者」について学び、聴覚障がい者に関する法律や当事者の声を通して『知る』ことにより、バリアがどこにあるかを感じとり、合理的配慮の視点から考察することを目的とする。　（教養教育センター　単位認定の方針Ｄにもっとも強く関与。Ｃに強く関与。）
達成目標	①新聞記事、番組（NHK教育テレビ「手話ニュース」など）、書籍などから障がいとは何か、バリアとは何かを『理解する』ことができる。 ②議事体験を通して、まず障がいについて『知る』。そして、支援する・される間にあるバリアを『わかり』、当事者が求める支援について、合理的配慮の視点から理論を用いて説明できる。 ③能動的な支援として「かわる・かえる」過程を体感し、障がい者支援について、具体案を提示し、その効果を説明することができる。
キーワード	障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア
成績評価（合格基準60	グループワーク（ディスカッション）への貢献40%、講義最終日の試験（最終評価試験）60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	健康の科学
教科書	使用しない。適宜資料を配布する
参考書	適宜紹介する
連絡先	
注意・備考	・障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。 ・この講義はアクティブラーニングを重視し、グループワークおよびグループディスカッションを行う。
試験実施	実施する

科目名	科学・工作ボランティア入門【火3金3】（FB31H110）
英文科目名	Introduction to Volunteer Activitiy for Scie nce and Technology
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）,吉村功＊（よしむらたくみ＊）,森田明義＊（もりたあきよし＊）,武田芳紀＊（たけだよしのり＊）,重松利信（しげまつとしのぶ）,糸山嘉彦＊（いとやまよしひこ＊）,滝澤昇（たきざわのぼる）,山口一裕（やまぐちかずひろ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 ／ 金曜日 3時限
対象クラス	理学部,工学部,総合情報学部,生物地球学部,経営学部
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（講義内容と進め方の説明） 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウエッブサイトを紹介する。 （高原　周一）
２回	講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 （全教員）
３回	発表会準備（１） 発表会の進行について説明する。 班分けを行い、班内で自己紹介を行う。 発表内容について検討する。 （全教員）
４回	発表会準備（２） 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。 発表会の内容を決定する。 （全教員）
５回	発表会準備（３） 科学イベントにおける安全対策について講習する。 必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 （全教員）
６回	発表会準備（４） 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。 実験・工作の改良・追加を試みる。 （全教員）
７回	発表会準備（５） 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。 （全教員） （全教員）
８回	発表会準備（６） 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 （全教員）
９回	発表会準備（７）各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける（予行演習）。それをもとに発表内容を再検討する。 （全教員）
１０回	発表会準備（８） 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。 （全教員）
１１回	発表会準備（９） 発表会の準備を完了させる。 （全教員）
１２回	発表会（１） 発表会で発表する。※ 12回目～14回目は土曜日に連続して行う。 （全教員）

１３回	発表会（２）　他班の発表を聞いてい相互評価を行う。 （全教員）
１４回	発表会（３）　各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。発表会の片づけを行う。 （全教員）
１５回	この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。 （全教員）

回数	準備学習
１回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。（標準学習時間60分）
２回	紹介したウエッブサイトを閲覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立ちそうな本を探すこと。（標準学習時間120分）
３回	本やインターネットで発表会に使えそうな実験内容を調べること。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。（標準学習時間120分）
４回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。（標準学習時間120分）
５回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。（標準学習時間120分）
６回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。（標準学習時間120分）
７回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べること。（標準学習時間120分）
８回	各人が分担した作業（物品の確保、シナリオ・フリップの作成など）を行うこと。（標準学習時間60分）
９回	予行演習の準備を行うこと。（標準学習時間60分）
１０回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。（標準学習時間60分）
１１回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。（標準学習時間60分）
１２回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。発表会当日の会場設営・準備に参加すること。　（12回目～14回目の合計の標準学習時間180分）
１３回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
１４回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
１５回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。（標準学習時間60分）

講義目的	近年、市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されるようになった。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。 まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学園内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につける。同時に、社会人として必要となるコミュニケーション力等の汎用的な能力の向上も目指す。 グループ内での討論、教員への報告、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（科学ボランティアセンターの単位認定方針A「科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し卒業後も地域で科学ボランティアリーダーとして活躍する意欲をもつ」に強く関与）
達成目標	1．科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し、これに積極的に参加する意欲をもつ。 2．科学ボランティア活動を行う上で最低限必要となる知識・能力を身につける。 3．科学・技術全般に関心をもつ。 4．社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につける。
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
成績評価（合格基準60	レポートの内容（70%）、発表会の内容（30%）によって評価する。発表会の評価には、受講生相互の評価も加味する。
関連科目	科学ボランティア実践指導Ⅰ・Ⅱ、科学ボランティア活動

教科書	使用しない。
参考書	「ものづくりハンドブック 1～7」たのしい授業編集委員会/編・仮説社　他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科　高原周一　（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp　TEL: 086-256-9607）　もしくは科学ボランティアセンター　（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、発表会は土曜日に行う。 ・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・本講義は科学ボランティアリーダー資格認定の必修の講義である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（http://ridai-svc.org/）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」 ・グループワークによりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会での相互評価結果はMomo-campus上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	国際関係論Ａ（FV21B111）
英文科目名	Approaches to Transnational Relations A
担当教員名	渡邉剛央（わたなべたけひさ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	国際社会の特徴について学ぶ。国際社会と国内社会とはどのような点が異なるのかを学ぶ。
２回	19世紀までの国際社会の歴史について学ぶ。国際機構が成立する前の歴史を学ぶことで，なぜ国際機構が必要とされるようになったのかを学ぶ。
３回	戦間期の国際社会の歴史について学ぶ。国際連合の前身である国際連盟の誕生と崩壊にいたる歴史を学ぶことで，現在の国際連合がなぜ誕生したのかを学ぶ。
４回	戦後の国際社会の歴史について学ぶ。戦後の国際社会において国際連合がどのような役割を果たしてきたかについて学ぶ。
５回	国際連合の組織について学ぶ。総会や安全保障理事会など，国際連合の各機関の役割について学ぶ。
６回	国際的な経済体制について学ぶ。貿易や金融などに関する国際的な制度の内容について学ぶ。
７回	国際的な人権保障について学ぶ。人権問題について国際社会がどのように取り組んでいるかについて学ぶ。
８回	地域的な国際制度について学ぶ。特に欧州連合の成立過程および組織について学ぶ。そのうえで最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	国際社会で起きている紛争（たとえば竹島問題）を題材として，国際社会と国内社会との違いをまとめてみること。
２回	配布資料を読んで，歴史の流れを把握すること。
３回	配布資料を読んで，歴史の流れを把握すること。
４回	配布資料を読んで，歴史の流れを把握すること。
５回	国際連合にはどのような機関があるのか調べてみること。

６回	世界貿易機関および国際通貨基金がどのような組織なのかについて調べてみること。
７回	人権を保障する条約としてどのようなものがあるのかを調べてみること。
８回	駐日欧州連合代表部のウェブサイトを見て，欧州連合の目的および組織についてまとめてみること。

講義目的	現在の国際社会では組織化が進展しており、国際社会の秩序や平和を維持するためには、国際機構の存在は欠かせない。したがって、国際関係を学ぶうえで、国際連合などの国際機構についての理解を深めることは必要不可欠である。そこで、本講義では、国際関係の歴史を概観した後に、国際機構、特に国際連合成立の経緯、組織構造をみていくことで、現在の国際社会の基本的な仕組みを解説する。そして、そこに込められた人々の平和への願いを読み解き、国際化の真の意味を理解することを目指す。
達成目標	○国際社会の特徴について説明できるようになること。 ○国際社会の成り立ちについて説明できるようになること。 ○国際連合の組織および機能について説明できるようになること。 ○国際経済体制について説明できるようになること。 ○国際的な人権保障制度について説明できるようになること。
キーワード	国際連合，世界貿易機関，国際通貨基金，人権，欧州連合
成績評価（合格基準60	各回に実施する基礎力テスト（比率10%）および応用力テスト（比率40%），最終評価試験（比率50%）により評価する。100点満点に換算し，60点以上で合格とする。
関連科目	国際関係論B
教科書	講義で資料を配布する。
参考書	国際連合－軌跡と展望／明石康／岩波書店／978-4004310525

連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	教養演習Ａ（FV21B121）
英文科目名	Seminar on Liberal Arts A
担当教員名	戸田修司（とだしゅうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
１回	演習の進め方、方針などについて説明をする。
２回	受講生に、自己PRを含む５分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。（１）
３回	受講生に、自己PRを含む５分程度のプレゼンテーションを順番に行ない、報告者への質疑応答の際に注意すべき点について説明する。（２）
４回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。（１）
５回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。（２）
６回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。（３）
７回	教員側が選定した時事問題を題材として、内容を正確に読み取り、それをもとにディスカッションをするための方法を指導する。（４）
８回	これまで演習で実施したディスカッションの講評を行う。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	シラバスを確認し、演習の進め方を把握しておくこと。
２回	自己PRを整理し簡潔にまとめておくこと。
３回	自己PRを整理し簡潔にまとめておくこと。
４回	演習で取り上げるテーマを調べ、自身の意見を考えておくこと。
５回	演習で取り上げるテーマを調べ、自身の意見を考えておくこと。
６回	演習で取り上げるテーマを調べ、自身の意見を考えておくこと。

７回	演習で取り上げるテーマを調べ、自身の意見を考えておくこと。
８回	これまでの演習で学んだことを整理する。

講義目的	①主として各国の文化に関連する文章を読みながら議論をする。②分野を問わず，参加者自身が関心を持つ問題についての簡単な報告（個人あるいはグループによる）を行う。上記のことにより思考能力，表現能力の向上を目指す。決められたテーマに関して発表する準備を通じて、問題に対して自らの考えを整理し，説得力のある発言が行えることを達成目標とする。また、質疑応答、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高めることも、ねらいの一つである。教養演習Aでは、主に新聞記事などを題材に自由な議論を行なう。
達成目標	①教員側が選定した時事問題について自分で調べ正確な内容を把握できること。 ②受講者が自己PRやディスカッションにおいて、自分の意見を発表できること。 以上を本演習の目的とする。
キーワード	時事問題、プレゼンテーション、ディスカッション、政治、経済、文化、国際問題
成績評価（合格基準60	最終評価試験(100%)により評価する。
関連科目	政治学AB、社会と人間AB、日本国憲法、国際関係論AB
教科書	使用しない。
参考書	必要に応じて適宜指示する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	学びの基礎論Ａ（FV21B131）
英文科目名	Introduction to Life Long Learning A
担当教員名	小林忠資（こばやしただし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス（講義の概要、進め方、評価方法等の説明）と「大学の学び」への招待 学士力、社会人基礎力、グローバル化等をキーワードに、大学での学びについて考察し、自分が今後獲得すべき能力について目標設定を行う。
２回	コミュニケーショントレーニングと人間理解 コミュニケーションの意味と価値を理解し、良好な人間関係を保つためのコミュニケーションについて説明する。
３回	聴く方法、情報のまとめ方 ノートの取り方について検討し、ノートを取る意味について考えることで、情報を能動的に受け取る姿勢を学ぶ。
４回	コミュニケーショントレーニング① コミュニケーションを理解したうえで、立場の違いによるコミュニケーションを説明する。
５回	コミュニケーショントレーニング② 事例を用い、コミュニケーション力を測定する。
６回	アカデミックライティング レポートと感想の違いについて検討し、アカデミックライティングの構造や特質について説明する。
７回	社会に求められる人材、グローバル人材になるためには交渉力、異文化理解、異文化コミュニケーションについて説明する。
８回	講義の総括をし、最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	講義の目的を理解し、シラバスを確認し、大学で学ぶ意義について考えておくこと。
２回	コミュニケーション力テキストP８～P３７まで熟読し、練習問題に取り組んでおくこと。
３回	これまでの授業において、どのような方法で情報を受け取っているかを振り返り、コミュニケーション力テキストP３８～P６９まで熟読したうえで、練習問題に取り組んでおくこと
４回	コミュニケーション力テキストP７０～P８７まで熟読したうえで、練習問題に取り組んでおくこと。
５回	コミュニケーション力テキストP８８～P９９まで熟読したうえで、練習問題に取り組んでおくこと。
６回	レポートと感想文の違いについて考えておくこと。
７回	グローバル化に求められる人材について考えておくこと。
８回	これまでの講義の振り返り、学んだことをまとめておくこと。疑問点があれば、明確にしておくこと。

講義目的	本講義の目標は、新入生が明確な目的意識をもって自律的に学修していくことができるように学びの動機付けを行うとともに、基礎的な学習技術を修得させることである。内容として、生涯にわたる「学び」を深めるために①人生の一回性の認識や学びの意味、生涯にわたる学び、自己実現、至高経験について考察する②コミュニケーション力を高めるために、状況判断力、情報伝達力、情報獲得力、傾聴力、人間関係構築力、問題解決力について考察する。
達成目標	①生涯にわたる学びや大学で学ぶ意義について理解し、実践につなげることができる。 ②これまでの経験を意味づけし、将来に向けて自分のキャリアの目標設定ができる。 ③第三者が読んで理解しやすく、説得力ある文章を書くことができる。

	④相手の発言を聞き取り、把握した上で自分の意見を明確に主張することができる。
キーワード	学び、人間力、コミュニケーション、アカデミックスキル
成績評価（合格基準60	・授業中に作成したワークシートの提出（30%） ・レポート（40%） ・最終評価試験（30%）
関連科目	
教科書	特定の教科書は使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	・本授業は学びの基礎論Bを履修しておくことがのぞましい。 ・授業中の飲食・私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業中で配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は出席者からコピーをしておくこと。 ・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある
試験実施	実施する

科目名	文学Ａ（FV21C110）
英文科目名	Literature A
担当教員名	大西好幸＊（おおにしよしゆき＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	イントロダクション 日本古典文学の展開を概説する。
２回	上代の文学として『古事記』『万葉集』を取り上げ、解説する。
３回	復習小テスト①　中古の文学 （和歌・物語）として『古今和歌集』『源氏物語』を取り上げ、解説する。
４回	復習小テスト②　中古の文学 （日記・随筆・説話）として『土佐日記』『枕草子』『今昔物語集』を取り上げ、解説する。
５回	復習小テスト③ 中世の文学（物語・和歌）として『平家物語』『新古今和歌集』を取り上げ、解説する。
６回	復習小テスト④ 中世の文学（随筆・能・狂言）として『徒然草』『風姿花伝』を取り上げ、解説する。連歌にも触れる。
７回	復習小テスト⑤ 近世の文学（俳諧）として『奥の細道』を取り上げ、解説する。
８回	教科書「近世の文学」（小説・浄瑠璃）の箇所を読んで予習をしておくこと。これまでの授業内容を総復習し試験に備えておくこと。【標準学習時間180分】

回数	準備学習
１回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。日本古典の中で最も印象深い作品について感想をまとめておくこと。【標準学習時間60分】
２回	教科書「上代の文学」の章を読んで予習をしておくこと。『万葉集』の中から好きな一首を選び、感想をまとめておくこと。【標準学習時間120分】
３回	教科書「中古の文学」（和歌・物語）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト①の準備をしておくこと。【標準学習時間120分】
４回	教科書「中古の文学」（日記・随筆・説話）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト②の準備をしておくこと。【標準学習時間120分】
５回	教科書「中世の文学」（物語・説話・和歌）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト③の準備をしておくこと。【標準学習時間120分】
６回	教科書「中世の文学」（随筆・能・狂言・連歌）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト④の準備をしておくこと。【標準学習時間120分】
７回	教科書「近世の文学」（俳諧）の箇所を読んで予習をしておくこと。復習小テスト⑤の準備をしておくこと。【標準学習時間120分】

講義目的	文学の主要作品を手がかりとして、日本や世界の文化の特質、ものの考え方、日本と外国の違いについて、さまざまな観点から考える。作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標とする。「文学Ａ」は近代以前の文学作品を対象とし、それぞれの地域によって異なる風土、言語、歴史的背景を手掛かりとして、文学作品に表れた人々の思い、心の動き方、社会の中で展開される人間模様などを見てゆきたい。 （単位認定の方針Ｂに強く関与する）
達成目標	(1)　日本古典文学の基礎的な知識を身につける。 (2)　古典文学を生み出した歴史的背景や上代から近世までどうつながり、どのように展開しているかそのダイナミズムを理解する。 (3)　古典作品を通して人々の生き方や考え方に触れ、日本の文化・思想・歴史を学び、理解を深める。
キーワード	上代、中古、中世、近世、日本文学史
成績評価（合格基準60	提出物(20%)、小テスト(30%)、最終評価試験(50%)により総合的に評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	本科目に引き続き「文学B」を履修することが望ましい。
教科書	完成　日本文学史ノート 二訂版／兵庫県高等学校教育研究会国語部会編／京都書房／ISBN978-4-7637-2204-1

	(第１回目の授業で紹介する) プリントを適宜配布する。
参考書	授業時に適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	日本史Ａ（FV21C120）
英文科目名	Japanese History A
担当教員名	白石成二＊（しらいしせいじ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	初めに自己紹介を行う。獣医学部の立地する愛媛県や今治市に対する理解を深めるために、伊予国の大まかな歴史や国指定史跡をはじめとする貴重な文化財の紹介を行う。次に日本史を学ぶ意義は「多角的なものの見方」や「固定観念の相対化」であることを確認したうえで授業の進め方について説明する。その後、旧石器時代の具体的内容や、その特色について確認するとともに、考古学の捏造事件を取り上げ、一方的な情報を盲信することの危険性についても触れる。
２回	近年の発掘成果によって「貧しい縄文文化」「遅れた縄文文化」のイメージが大きく変化していることを説明する。また縄文時代には一万年にわたって戦争がなかった要因を検討したうえで、縄文時代から現代へのメッセージについて考える。また弥生時代の具体的内容に触れるとともに、その結果、縄文時代にはなかった大規模な戦争が起こるようになったことを確認し、今日各地で起こっている戦争の問題に引きつけて説明する。
３回	古墳時代の前期・中期・後期の内容と特色について触れ、巨大な前方後円墳や八角形墳などがなぜ築かれたのかを説明する。そしてそのあり方は現代日本人の死生観に通じるものがあることを確認する。また古代日本と大陸との交渉のなかで渡来人が多くやってきて文化形成に大きな役割を果たした。現在、国境を越えた人の交流が進んでいる。古代の渡来人の歴史を踏まえ、「日本人とは何か」について検討する。
４回	聖徳太子研究の深化によって推古・厩戸時代のイメージが大きく変容している。その時代の具体的内容の理解とともに、歴史の虚像と実像について触れ、また大化の改新についても木簡の出土によって新しい事実が明らかになり、従来のイメージの転換がおこっている。さらに木簡等によって『日本書紀』の内容について、再検討が進められていることにも触れる。今日、多くの虚実の情報が行き交う中で、その受け取り方について考える。
５回	古代最大の対外戦争がなぜ起こったのか、その敗北によってどれほどの大きな影響があったのかを具体的に説明する。また古代最大の内戦である壬申の乱の背景や経過や結果について触れる。そしてその両方の戦争を経ることによって、古代文明のグローバルスタンダードである律令制に基づく天皇中心の国家体制が成立する。それは文明国の仲間入りであるとともに、かつての「倭国」から新たな国号「日本」の誕生であったことを確認する。
６回	古代の七・八世紀は実に多くの女帝が誕生した。その理由を考えるとともに、論争となっている女帝の「中継ぎ論」と「中継ぎ見直し論」について触れる。その歴史理解うえで現在の皇室をめぐる議論についても考える。次に世紀の発見と言われた長屋王家木簡の出土によって、長屋王という上流貴族の実態が具体的に明らかになってきたことに触れる。新しい史料の発見によって従来の歴史理解が見直されるものであることを確認する。
７回	古代の日本の外交について遣唐使を通して検討する。とりわけ阿倍仲麻呂や井真成の個人的な活動や実質的に最後の遣唐使となる「承和の遣唐使」についてふれ、遣唐使の役割についてみていく。その遣唐使にみられる古代外交の特色が、現代の外交とも重なっていることを確認する。次に奈良時代の精華とされる天平文化の具体的内容に触れるとともに、その文化が仏教のような宗教文化だけでなく、衣食住の全般にわたって大陸の強い影響を受けていることを説明する。
８回	第１回から第７回までの授業で扱った事項について、補足説明をする。過去の歴史ではあっても、それは現在の様々な問題と密接に関わっていることを確認する。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	我が国で初めて旧石器時代の存在を確認した相沢忠洋の『岩宿の発見』に目を通すこと。また全体を通しての参考文献である網野善彦『日本社会の歴史（上）』（岩波新書）の旧石器時代の部分を読んで予習しておくこと。（標準学習時間120分）
２回	縄文時代については、田中琢・佐原真『考古学の散歩道』（岩波新書）、上田篤『縄文人に学ぶ』（新潮新書）、小林達雄『縄文の思考』（ちくま新書）、瀬川拓郎『アイヌと縄文』（ちくま書房）など、弥生時代については、石川日出志『農耕社会の成立』（岩波新書）、東潮『邪馬台国の考古学』などがあり、どれか一冊を図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間120分）
３回	古墳時代については松木武彦『古墳とは何か』（角川選書）、外池昇『天皇陵の誕生』（祥伝社新書）、ヤマト王権と渡来人については吉村武彦『ヤマト王権』（岩波新書）、加藤謙吉『渡来氏族の謎』（祥伝社新書）、同『大和の豪族と渡来人』（吉川弘文館）などがあり、図書館で読んで予

	習しておくこと。（標準学習時間120分）
４回	推古・厩戸の時代については、聖徳太子虚像説の立場を代表するのが、大山誠一『「聖徳太子」の誕生』（吉川弘文館）、谷沢永一『聖徳太子はいなかった』（新潮新書）で、実在説の立場から吉村武彦『聖徳太子』（岩波新書）、東野治之『聖徳太子』（岩波ジュニア新書）であり、必読の書である。大化の改新については遠山美都男『天智と持統』（講談社現代新書）、倉本一宏『蘇我氏』（中公新書）、武光誠『蘇我氏の古代史』（平凡社新書）などがある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間120分）
５回	白村江の戦いについては、鬼頭清明『白村江』、壬申の乱については遠山美都男『壬申の乱』（中公新書）、早川万年『壬申の乱を読み解く』（吉川弘文館）、律令制の成立については大山誠一『天孫降臨の夢』がある。図書館で読んで予習しておくこと。（標準学習時間120分）
６回	古代の女帝については、吉村武彦『女帝の古代日本』（岩波新書）、仁藤敦史『女帝の世紀』（角川選書）、瀧浪貞子『最後の女帝孝謙天皇』（吉川弘文館）、長屋王の変については寺崎保広『長屋王』（吉川弘文館）、遠山美都男『検証平城京の政変と内乱』（学研新書）、倉本一宏『奈良朝の政変劇』（吉川弘文館）などがある。図書館で読んで予習しおくこと。（標準学習時間120分）
７回	遣唐使をめぐる東アジア外交については、東野治之『遣唐使』（岩波新書）、『遣唐使阿倍仲麻呂の夢』（角川選書）、古瀬奈津子『遣唐使の見た中国』（吉川弘文館）、森公章『遣唐使の光芒』（角川選書）など、天平文化については、直木孝次郎『万葉集と古代史』（吉川弘文館）、東野治之『正倉院』（岩波新書）、同『鑑真』などがある。図書館で読んで予習をしておくこと。（標準学習時間120分）
８回	ここまでの授業内容についての復習を行うこと。（標準学習時間120分）

講義目的	日本列島内における古代史から、中世に至る時代を扱う。日本列島では弥生時代を経て、各地の首長連合によるヤマト政権による国家的事業としての古墳時代を迎えた。その後、極東アジア地域からさまざまな文化を導入し、国のかたちを整えていった。中でも律令制は、国家形成等にかかわる重要な制度であり、日本史の方向性を決定したといっても過言ではないだろう。この講義では、日本列島の地勢的状況、歴史的な事象とその背景について、分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を得ることが達成すべき目標である。 （単位認定の方針Ｂに強く関与する）
達成目標	我が国の国家形成等に関わる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる力と、その分析結果について深く考察できる力を習得する。
キーワード	「旧石器時代」、「縄文時代」、「古墳時代」、「飛鳥時代」、「大化の改新」、「白村江の戦い」、「壬申の乱」、「律令制」、「女帝」、「木簡」、「遣唐使」、「天平文化」
成績評価（合格基準60	最終評価試験100％により成績を評価する。
関連科目	日本史Ｂを続けて履修することが望ましい。
教科書	使用しない。授業の進行過程で、資料やプリントを配布する。
参考書	日本社会の歴史（上）／網野善彦／岩波新書／ＩＳＢＮ4004305004：日本社会の歴史（中）／網野善彦／岩波新書／ＩＳＢＮ4004305012：日本社会の歴史（下）／網野善彦／岩波新書／ＩＳＢＮ4004305020：教養としての日本史（上）（下）／白石成二／創風社／ISBN：978-4-86037-233-0 時代ごとの参考文献は「準備学習」の項で紹介しているので参照すること。また授業の進行過程でも適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。
注意・備考	（１）第１回目から毎回出席をとるので、十分留意すること。（２）ケガ、病気、その他で欠席した場合、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出することが必要となる。（３）これら証明するものや、活動報告等がない場合は欠席扱いとなるので、十分注意して受講すること。
試験実施	実施する

科目名	外国史Ａ（FV21C130）
英文科目名	World History A
担当教員名	松澤仁志＊（まつざわひとし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーション。講義の進め方、歴史学習の意義について説明する。
２回	オリエントと地中海世界について概観する。
３回	アジアの古典文明をインド、中国（秦漢帝国まで）の歴史を中心に説明する。
４回	イスラーム世界の形成と発展について説明する。
５回	ヨーロッパ世界の形成と発展について説明する。
６回	東アジア世界の形成と展開について説明する。
７回	中世から近世にかけてのヨーロッパ世界の形成と展開について説明する。
８回	これまでの学習内容の復習をし、疑問点を明らかにしておくこと（180分）

回数	準備学習
１回	シラバスを読んで、学習の流れを把握しておくこと（60分）
２回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（120分）
３回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（120分）
４回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（120分）
５回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（120分）
６回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（120分）
７回	前回の授業内容を復習するとともに、事前配布のプリントのキーワードについて高校までの世界史学習の知識を整理しておくこと（120分）

講義目的	歴史を学ぶことは、年号を覚えることだけではないことを気づかせ、現代を生きる我々が、どのような歴史を持って今に至っているかを考え、将来を歩む人生観の形成に資することを目的とする。現代は民主主義、資本主義、科学主義などを基本的な要素とした近代社会であるが、これらが世界の各地域においてどのように形作られ、どのような展開を見せたかということを講義する。その後、それらを形成し、各国の世界観や文化に影響を与えたそれぞれの世界の歴史について、古代文明や中世社会の構造とその変質および科学革命などについて解説する。 （単位認定の方針Ｂに強く関与する）
達成目標	近世までの世界史の流れを概観するとともに、異なる文明圏同士の相互交流の状況を把握し、現代につながる歴史的影響力について考察する。
キーワード	
成績評価（合格基準60	講義中の課題（30%）、最終評価試験（70%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	本科目に引き続き「外国史Ｂ」を履修することが望ましい。
教科書	市民のための世界史／桃木 至朗他／大阪大学出版会／ISBN487259469X：ニューステージ世界史詳覧／／浜島書店／ISBN4834320251
参考書	適宜紹介する。
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける。　また、電子メールでも質問を受け付ける。（メールアドレスは講義初回に公開する）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	政治学Ａ（FV21C140）
英文科目名	Political Science A
担当教員名	戸田修司（とだしゅうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 政治、民主政治、民主主義の発展について概説する。
２回	権力分立（１）－三権分立と議院内閣制－について講義する。
３回	国会について講義する。
４回	内閣と内閣総理大臣について講義する。
５回	権力分立（２）－権力相互の抑制と均衡－について講義する。
６回	選挙政治－選挙制度－について講義する。
７回	政党と圧力団体について講義する。
８回	これまで扱ったテーマを再度振り返り重要なポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	シラバスを確認し、講義内容を把握しておくこと。
２回	議院内閣制について調べておく。
３回	第７章を読んでおく。
４回	第８章を読んでおく。
５回	権力分立について調べておく。
６回	第４章を読んでおく。
７回	第４章を読み、圧力団体を調べておく。
８回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。

講義目的	本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、そこに凝縮されている政治、社会の本質について考えることで、現代政治の意味を理解する手掛かりとしたい。本講義の目標は、現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得し、現代の政治について自分の考えを持つことである。政治学Ａでは、主として＜政治と経済＞及び＜政治と社会＞について学ぶ。
達成目標	本講義の目標は、現代政治についての知識とその捉え方を修得し、特に国内の政治について基本的な用語を説明できることである。
キーワード	政治学、現代政治、現代社会、民主政治、民主主義、権力分立、議院内閣制、国会、内閣、選挙政治、政党、圧力団体
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100%）により評価する。
関連科目	日本国憲法、社会と人間AB、経済学AB、国際関係論AB
教科書	はじめて出会う政治学【第３版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-64112 3687
参考書	NEW教科書シリーズ政治学／山田光矢編／弘文堂／978-4-335001925 その他必要に応じて適宜指示する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	経済学Ａ（FV21C150）
英文科目名	Economics A
担当教員名	山中高光＊（やまなかたかみつ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	［オリエンテーション］ ［経済学とは何か］経済をとらえる経済学の基本的枠組み・考え方(市場経済、家計、企業、政府、ミクロ経済学、マクロ経済学など)を概観する。 ［需要と供給］需要・供給分析の基礎を説明し、その応用として消費税の負担を考える。
２回	［需要曲線と消費者行動］需要曲線とは何か。家計の選択、消費者余剰を説明する。
３回	［供給曲線と企業行動］供給曲線とは何か。生産、費用、完全競争市場における企業の行動。消費者余剰を説明する。
４回	［市場取引と資源配分］市場と価格メカニズム、余剰分析、資源配分の歪み、市場と経済発展について説明する。
５回	［独占と競争の理論］完全競争、独占、独占的競争について説明する。
６回	［市場の失敗］市場の失敗、外部効果、公共財について説明する。
７回	［不確実性と不完全情報の経済理論］不確実性と経済現象、不確実性の経済理論、情報の不完全性について説明する。
８回	すべての講義を復習しておくこと。

回数	準備学習
１回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
２回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
３回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
４回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
５回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
６回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。
７回	テキストの予習。新聞を読む習慣を身に付ける。市場経済の動きを新聞やTV等で把握しておくこと。テキストの練習問題を解く。

講義目的	基本的な経済理論を理解できるようになること，様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになることを目標とする。経済現象は日々変化しており，その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では，経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として，若干の数学を用いながら，経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として，個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義する。経済学Aではその中でも特に家計と企業の行動について講義する。 （この講義は教養教育センター単位認定の方針Ｃに強く関与する）
達成目標	1.基本的な経済理論を理解できる。 2.様々な経済問題を科学的・論理的に把握できる。
キーワード	ミクロ経済学、資源配分、需要、供給、家計、企業、政府、消費者理論、生産者理論、市場経済、価格メカニズム、完全競争、独占、独占的競争、市場の失敗、不確実性
成績評価（合格基準60	最終評価試験100％
関連科目	経済学Ｂ
教科書	入門経済学第4版／伊東元重／日本評論社／ISBN 978-4-535-55817-5
参考書	経済学・入門 第3版／塩澤　修平／有斐閣／ISBN 978-4-641-22004-1 ：マンキュー入門経済学　第２版／マンキュー／東洋経済新報社／ISBN9784492314

	432 その他授業中に随時紹介する
連絡先	授業終了後に教室などで質問を受け付ける。また電子メールで質問を受け付ける（メールアドレスは講義初回に公開する）。
注意・備考	講義では、微分（偏微分・全微分含む）を利用する。 試験形態は計算問題も含め筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	フレッシュマンセミナー（FV21D110）
英文科目名	Freshman's Seminar
担当教員名	尾崎博（おざきひろし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	《本学での学び》 建学の理念にもとづいて本学のポリシーと学生に求める資質を説明するとともに本学園の沿革なども紹介する。また、今治獣医学部のポリシー　についても紹介する。さらに、地域社会への貢献の重要性についても考える。 （担当：学部長）
２回	《大学生としての学び》 大学における学びの技法（姿勢、マナー、時間管理など）についてガイダンスするとともに、教養教育センターや理科教育センターが提供するリベラルアーツ科目の魅力や受講の注意点を説明する。また学習支援室や図書館、ラーニングコモンズなどを活用した個人またはグループ学習の重要性についても説明する。 大学での学びが学生主体で無ければならないことを理解し、授業改善や学生FD　、ポートフォリオやポータルの活用についても説明する。
３回	《キャリア形成》 就職適性検査を通じて大学入学時おける自分の適性を理解する。
４回	《健康管理と安全管理》 健康管理や心の健康をガイダンスして、大学生の時期における心理的発達や生活および学習環境の変化について学びながら大学生活のイメージを考えさせる。また安全対策マニュアルに沿って大学生活における安全・防災についても考えさせる。
５回	《ハラスメントや犯罪》 社会人としての法律順守の考え身に着けるとともに、大学生活において発生したハラスメントに対する対応を理解させる。
６回	《大学の研究力》 大学の戦略研究や付属研究所、研究施設などを紹介することで、本学の研究力を理解する。また研究倫理教育も実施して、研究者の仲間入りであることを意識させる。 （担当：各研究分野長）
７回	《キャリアデザイン》 将来の目標を定め、それに向けたキャリアデザインを考えさせる。大学生活がキャリア形成で非常に重要な期間であることを認識し、専門教育や教養教育の正課活動だけでなく、クラブ・サークル活動やボランティア活動、留学やインターンシップなど、正課外活動の重要性を理解させる。
８回	《キャンパスライフデザイン》 自分の将来の目標に向けて、大学で何をすべきかを学科の教員や同級生とのディスカッションを通して考える。

回数	準備学習
１回	本学の建学の理念を見ておくこと。
２回	大学での学びに関する不安や疑問点を自分なりに整理しておくこと。
３回	自分自身のことを見つめ直すために、ふだんの生活における自分の言動や思考回路、価値観などを考えておくこと。
４回	自分の健康について、不安や悩みがないかを考えておくこと。また大学内や生活地域における防災

	についても考えておく。
５回	身の回りでハラスメントや犯罪に関する問題がないかを考えておくこと。
６回	本学の教員が行っている研究内容について大学のＨＰ等で調べておくこと。
７回	自分が将来何をしたいのかを考えておくこと。
８回	将来の目標に向けて、卒業までの各年次ですべきこと・やりたいことなどを考えておくこと。

講義目的	本講義では、入学したばかりの新入生を対象に、岡山理科大学とはどの様な大学か、入学した学部とはどの様な学部か、ここで何ができるかを説明する。そして４年間あるいは６年間という限られた時間を最大限有効に使うのに必要な事柄、例えば、「話を聞く」「ノートを取る」「論理的に考える」「適切に話し書く」などの学ぶための基本的な技法（アカデミック・スキル）を説明する。この授業を通して、自分がこの大学で何をしたいか、将来どの様な社会人・職業人になりたいか考える第一歩とする。
達成目標	(1) アカデミック・スキル 情報収集や資料整理の方法、ノートの取り方、レポート・論文作成方法 、口頭発表の技法、文献講読の方法、論理的思考力、問題発見・解決能力、調査・実験の方法、図書館の活用方法などを理解して「アカデミック・スキル」を磨くこと (2) スチューデント・スキル 進路選択や職業生活に対する動機づけ、集中力や記憶力の醸成、時間管理や学習習慣の確立、大学教育全般に対する動機づけ、受講態度や礼儀・マナー、自己分析とキャリアデザイン、海外留学、インターンシップ、ボランティア活動の活用、学習支援センターやラーニングコモンズ、ポートフォリオなどの活用などを理解して「スチューデント・スキル」を磨くこと (3) 内面的アイデンティティー チームワークを通じての協調性、大学への帰属意識（建学の理念、ポリシー）、地域への帰属意識、市民としての自覚・責任感・倫理観の醸成、自信・自己肯定感の醸成、健全な大学生活（健康・運動・食育・心の病の問題を含む）、法律（交通、カルト、軽犯罪、薬物・飲酒・喫煙、ドラッグ、危険ハーブ、飲酒、喫煙）順守の重要性、ハラスメントに関する知識、大学における安全対策などを理解して「内面的アイデンティティー」を確立すること
キーワード	アカデミック・スキル、スチューデント・スキル、内面的アイデンティティー
成績評価（合格基準60	毎回の講義で出される提出課題(70%)と最終課題であるキャンパスライフデザイン(30%) により評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	全ての科目に関連するが、特に初年次に受講する教養教育科目（人間・社会科学教育科目、キャリア教育科目、科学技術教育）、外国語教育科目や専門教育科目。
参考書	特に指定しないが、必要に応じて冊子や資料を配布する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	初回のガイダンスで説明するが、ポートフォリオを活用した課題提出（出席管理）を実施するので、そのためのスキルを習得すること。
試験実施	実施しない

科目名	心理学Ａ（FV21F111）
英文科目名	Psychology A
担当教員名	矢野葉子＊（やのようこ＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	オリエンテーションおよび、心理学とは何か？について概説し、今後の講義方針について説明する
２回	心理学における心と身体の扱いについて、概説する
３回	科学としての心理学について、概説する
４回	動物と心理学との関係について、概説する
５回	人間の一生および発達と心理学について、概説する
６回	人を取りまく環境と心理学について、解説する
７回	対人援助技術と心理学について、概説する
８回	前回までに概説した内容をおさらいし、改めて心理学とは何かについて説明する。後半45分で、最終評価試験を行う

回数	準備学習
１回	心理学という学問に対して、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(60分)
２回	心とは何か？あるいは身体とは何か？について問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(120分)
３回	科学とは何か？問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(120分)
４回	動物とは何か？　人間とそれ以外の動物との違いは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(120分)
５回	発達とは何か？と問われたときに、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(120分)
６回	環境とは何か？集団とは何か？社会とは何か？について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(120分)
７回	人を助けるとは何か？について、自分なりの考えやイメージを説明できるようになっておくこと(120分)
８回	これまでの講義内容を振り返り、疑問点を明らかにしておくこと(180分)

講義目的	現代心理学が明らかにした人間の行動の仕組に関する研究成果を、特定の学派や立場にかたよらないように体系化して概説する。そして、心理学に関する基本的な知識を理解させ、よりよい人間性の育成を目指す。そのため、心の健全な発達、社会への適応のあり方、人間関係論など、幅広いトピックを扱う。心理学Aでは、心理学の歴史と方法についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できることを達成目標とする。 （単位認定の方針Ｂに強く関与する）
達成目標	心理学についての基本的な知識を理解し、日常生活を心理学的な視点から捉え、説明できるようになること
キーワード	
成績評価（合格基準60	講義中の課題(60%)　最終評価試験(40%)
関連科目	心理学B
教科書	使用しない
参考書	講義中に紹介する
連絡先	授業終了後に教室で質問を受け付ける
注意・備考	講義中の課題については、その講義時間内に解答例を示し、フィードバックを行う
試験実施	実施する

科目名	法学Ａ（FV21F121）
英文科目名	Law A
担当教員名	渡邉剛央（わたなべたけひさ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	法とは何かについて学ぶ。社会には様々なルールがあるが，その中で法はどのような特徴を持ったルールなのかを学ぶ。そのうえで，法が社会においてどのような形式で存在しているのかを学ぶ。
２回	法の解釈について学ぶ。なぜ法の解釈が必要なのか，解釈にはどのような方法があるのかについて学ぶ。
３回	憲法とは何かについて学ぶ。憲法の目的とは何か，現在の憲法と大日本帝国憲法との違いは何かについて学ぶ。
４回	国会について学ぶ。国会の地位，国会の活動，国会の権限，議院の権限，国会議員の地位について学ぶ。
５回	内閣について学ぶ。内閣の地位，内閣総理大臣の地位，内閣の権限について学ぶ。
６回	裁判所について学ぶ。司法権とは何か，司法権の限界，裁判所の組織について学ぶ。
７回	財政について学ぶ。財政立憲主義，予算制度について学ぶ。
８回	地方自治について学ぶ。地方自治の存在意義，地方自治制度の内容，住民の権利について学ぶ。そのうえで最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
１回	社会における重要なルールとして法と道徳とがあるので，それぞれの違いについてまとめてみること。
２回	配布資料を読んで，各種の法の解釈方法の意味および相違点について把握すること。
３回	現在の憲法と大日本帝国憲法との間にはどのような違いがあるかについて調べてみること。
４回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握しておくこと。
５回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握しておくこと。

６回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握しておくこと。
７回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握しておくこと。
８回	配布資料を読んで，キーワードとその意味を把握しておくこと。

講義目的	普段は気に留めないが、私たちは、常に法規範に取り巻かれて生活している。いざお互いの利益が衝突したり権利が侵害されると、法が顕在化し、私たちは法に則って問題を解決することになる。法は社会のおける問題解決基準となり得る。では、法とは何か。判例を通して、身近な具体的問題を取り上げつつ、自由・財産・犯罪等の観点から法というものを考察することが本講義の目的である。法学Ａで取り扱う分野は主として「法の解釈」と「日本国憲法」である。公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成することが達成すべき目標である。
達成目標	○法とは何かについて説明できるようになること。 ○法の解釈方法について説明できるようになること。 ○憲法に定められている統治機構について説明できるようになること。
キーワード	法学，法の解釈，日本国憲法，大日本帝国憲法，国会，内閣，裁判所，財政，地方自治
成績評価（合格基準60	各回に実施する基礎力テスト（比率10%）および応用力テスト（比率40%），最終評価試験（比率50%）により評価する。100点満点に換算し，60点以上で合格とする。
関連科目	この講義では憲法の統治機構を中心に扱うので，人権に興味がある学生は日本国憲法を履修すること。法学B
教科書	講義で資料を配布する。
参考書	現代法学入門（第4版）／伊藤正巳・加藤一郎／有斐閣／978-4641112568：憲法（第6版）／芦部信喜／岩波書店／978-4000227995

連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	社会と人間Ａ（FV21F131）
英文科目名	Society and Human Beings A
担当教員名	戸田修司（とだしゅうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス：講義の概要、進め方、評価方法について説明する。 「社会」に興味関心を持ち積極的に関わることの意義について説明する。
２回	憲法改正に関する諸問題について解説する。
３回	アベノミクスの現状と課題について解説する。
４回	地方が抱える諸問題（地方創生）について解説する
５回	日本とアメリカが抱える諸問題にいて解説する。
６回	労働者・社会保障・マイナンバーについて解説する。
７回	東日本大震災復興の現状と課題について解説する。
８回	これまでに取り上げたテーマのポイント総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。
２回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
３回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
４回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
５回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
６回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
７回	講義のテーマについて事前に調べておくこと。
８回	これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。

講義目的	「人間」が集まるところに「社会」が出現する。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在する。そこでは、そのルールと秩序を巡って、色々な対立が起き、様々な人間模様、社会問題が生まれる。この講義では、改正公職選挙法の成立により、18歳での選挙権が認められた現実を鑑み、若者の「市民性＝社会参画の権利と義務」の重要性を論じる。皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議する。これらの教材を通して、受講生が良き市民として成長し、状況をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけばよいかを学ぶことが講義の目的である。憶測や予見を排して問題点を観察し、自主的・主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、・それを言葉や文章で表現出来ることを達成すべき目標とする。
達成目標	①新聞や報道などで取り上げられる用語・内容を理解し、自分で説明できること ②日本の抱える諸問題を捉えることができること 問題の背景にある原因を正しく把握し、根拠に基づく自分なりの判断ができることを目標とする。
キーワード	社会問題、時事、憲法改正、アベノミクス、地方創生、日米問題、雇用問題、社会保障、マイナンバー、震災
成績評価（合格基準60	最終評価試験（100%）により評価する。
関連科目	社会と人間B、政治学AB、教養演習AB、日本国憲法、国際関係論AB、経済学AB
教科書	使用しない。必要に応じ適宜資料を配布する。
参考書	『最新時事用語＆問題（月間新聞ダイジェスト別冊号）』最新号、『公務員時事用語＆問題』最新年度版、その他必要に応じ適宜紹介する。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	スポーツとフィールド科学（テニス）（FV21P111）
英文科目名	Sports (Tennis)
担当教員名	明比孝善＊（あけびたかよし＊）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 1時限 ／ 木曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
１回	講義実施場所、内容、目的、受講の心得 テニスの歴史、用具等について説明する。　テニス場の使用方法とマナーについて説明する。ラケットとボールに慣れる練習をする。
２回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
３回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 フォアハンドストロークの復習を行う。 バックハンドストロークについて説明を行った後、練習する。
４回	ストレッチウォーミングアップを行う。 フォア・バックハンドストロークの復習を行う。 ストロークを使って、ラリーが出来るようになることを目的とした簡易ゲームをする。
５回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 フォア・バックハンドボレーについて説明を行った後、練習する。
６回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストロークの復習を行う。 スマッシュについて説明の後、練習する。
７回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 サービスについて説明を行った後、練習する。
８回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ダブルスのルールの審判法について説明を行った後、ゲーム形式を行う。
９回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 前衛・後衛のポジション・役割について説明の後、ゲーム形式をする。
１０回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 ポーチの役割について説明の後、練習する。
１１回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーを復習する。 ロビングショットの役割を説明の後、練習する。
１２回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 アプローチの説明の後、練習する。
１３回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 平行陣の説明の後、ゲーム形式を行う。
１４回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 戦術の説明の後、ゲーム形式を行う。
１５回	ストレッチ・ウォーミングアップを行う。 グラウンドストローク・ネットプレーの復習を行う。 講義全体の振り返りとまとめをする。チーム分けの後、試合を行う。
１６回	最終評価のため、試合を行う。

回数	準備学習
１回	授業内容・目的の確認テニスの歴史と用具について復習を行うこと。テニスのマナーについて予習を行うこと。
２回	マナーについて復習を行うこと。フォアハンドストロークについて復習を行うこと。

３回	バックハンドストロークについて復習を行うこと。
４回	フォア・バックハンドストロークについて復習を行うこと。
５回	ボレーについて復習を行うこと。
６回	スマッシュについて復習を行うこと。
７回	サービスについて復習を行うこと。
８回	ルール・審判法について復習を行うこと。
９回	ダブルスでのポジションについて復習を行うこと。
１０回	ポーチについて復習を行うこと。
１１回	ロビングとポジションチェンジについて復習を行うこと。
１２回	アプローチについて復習を行うこと。
１３回	平行陣について復習を行うこと。
１４回	戦術について復習を行うこと。
１５回	講義全体について復習を行うこと。テニスを通じて得たものを考えること。
１６回	テニスを通じて得たものを考えること。

講義目的	テニスの技術を修得すると同時に、体力の向上や、公正・協力・責任などの社会的態度を身につけ、生涯を通じて継続的にスポーツ（運動）を実践していける習慣や態度を育てる。内容として①テニスの技術（グラウンドストローク、サーブ、レシーブ、ボレー、スマッシュ）を習得すること ②シングルス、ダブルスのゲームのルールと審判法を習得すること ③テニスを楽しむため、プレースタイルや戦術を考えられる能力を身に付けること ④ルールを遵守する態度やマナーを身に付けることを目指す。 （単位認定の方針Ｄに強く関与する）
達成目標	テニスのルールを理解するとともに、実践し、ゲームの進行、運営が出来ること。スポーツ傷害の予防が出来ること。
キーワード	硬式テニス・軟式テニス・スポーツ傷害
成績評価（合格基準60	積極性（３０％）、ルール・マナーの遵守（２０％）、協調性（２０％）、安全への配慮（２０％）、技術（１０％）
関連科目	
教科書	使用しない
参考書	指定しない
連絡先	授業終了時にテニスコートで質問を受け付ける。
注意・備考	授業は、テニスコートで行う。第１回目の授業には必ず出席すること。雨天により体育館に場所を変更になることがあります。
試験実施	実施する

科目名	文章表現法基礎編Ａ（FV21P121）
英文科目名	Technical Writing (Basic) A
担当教員名	戸田修司（とだしゅうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス：講義の進め方、評価方法について説明する。 レポートおよび小論文、就職活動におけるエントリーシートにおける文書作成の重要性、また自身の考えを的確に他人に伝えるポイントを説明する。 提出課題①「あなたの趣味・特技」
２回	何人かの提出課題①を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題①を修正出来るように指導する。 提出課題②「他者と話すときに心がけていること」
３回	何人かの提出課題②を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題②を修正出来るように指導する。 提出課題③「今までで一番印象に残る出来事」
４回	何人かの提出課題③を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題③を修正出来るように指導する。 提出課題④「社会人になるにあたっての抱負」
５回	何人かの提出課題④を皆で共有し、どうすれば内容が伝わり説得力のある文章が書けるか話し合い、そこで得たポイントを基に個々が提出課題④を修正出来るように指導する。 提出課題⑤「最近印象に残ったニュースについて」
６回	何人かの提出課題⑤についてグループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。 提出課題⑥「少子高齢化について」
７回	何人かの提出課題⑥についてグループワークを行い、各自調べてきたことを基に内容を確認し、自身の考えをまとめる。何人かの考えを提示し、どうすれば説得力のある内容になるかを指導する。
８回	これまでの講義で取り上げた文章作成のポイントを総括する。後半45分で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	シラバスを確認し、学習の進め方を把握しておくこと。 予習：提出課題①の概要を作成する。
２回	提出課題①の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題②の概要を作成する。

３回	提出課題②の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題③の概要を作成する。
４回	提出課題③の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題④の概要を作成する。
５回	提出課題④の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題⑤について調べる。
６回	提出課題⑤の完成文を作成する（次回提出）。 提出課題⑥について調べる。
７回	提出課題⑥の完成文を作成する（次回提出）。 これまでの講義内容を振り返り、文章作成のポイントを整理する。

講義目的	本講義の目標は、レポートおよび論文等の文書作成に必要な基本技能を修得することである。まずは要約の作業を通じて文章の全体的な構成を把握し、実際のレポート例を参考にしながら、レポートの基本的なルール（文体・引用等）、構成（パラグラフライティング等）、書式等を理解する。また、経験や一般的な知識の文章化だけではなく、専門科目等のレポートを書く際に必要なスキルも身につけさせる。書くことが苦手な学生については、その苦手意識を克服できるように、講義をすすめる。
達成目標	①文章作成上の基本的なルールを身につけ表現できること ②個々のテーマに沿って、自身の考えを文章で表現できること 丁寧に文章作成のポイントを指導した上で、互いに積極的な意見交換ができることを目標とする。
キーワード	レポート、小論文、エントリーシート、自己分析、自己表現、文章表現、アイデア、文章構成、概要、要約、作文
成績評価（合格基準60	課題提出(60%)、最終評価試験(40%)により評価する。
関連科目	文章表現法基礎編、学びの基礎論AB、教養演習AB、インターンシップ概論、インターンシップABC

教科書	使用しない。
参考書	必要に応じて適宜指示する（適宜資料を配布する）。
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	プレゼンテーション基礎編Ａ（FV21P130）
英文科目名	Presentation Skills (Basic) A
担当教員名	小林忠資（こばやしただし）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンスとプレゼンテーションの基本について学ぶ 講義の概要、進め方、評価方法等の説明し、よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明する。
２回	プレゼンテーションの準備について学ぶ プレゼンテーションを行うため、どのような準備をすればよいかを説明する。また、プレゼンテーションの構成や心得について説明する。
３回	プレゼンテーションの進め方について学ぶ 話し方やコミュニケーション（非言語も含む）について説明する。
４回	効果的なプレゼンテーションの技法を学ぶ PowerPoint実習を行いつつ、相手に伝わるスライドの構成について学ぶ。
５回	スライド作成の実践 趣味の紹介のスライド作成を行う。①趣味の概要、②趣味の楽しさ、③趣味の奥深さ、④自分の趣味への誘いの４枚のスライドを作成する。【演習】
６回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
７回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。【演習】
８回	プレゼンテーションの実践 プレゼンテーションの実践とフィードバックを実施する。 まとめ【演習】

回数	準備学習
１回	講義の目的を理解し、シラバスを確認しておくこと。
２回	よいプレゼンテーションや目的に応じたプレゼンテーションを説明できるようにしておくこと。
３回	プレゼンテーションの基本的構造を理解しておくこと。
４回	プレゼンテーションにおけるコミュニケーション言動の要素について理解しておくこと。

５回	PowerPointの操作を確認しておくこと。
６回	これまでの学習を確認しておくこと。 目的を明確にした内容にまとめておくこと。 相手を引き付ける工夫を考えておくこと。
７回	目的を明確にした内容にまとめておくこと。 相手を引き付ける工夫を考えておくこと。
８回	目的を明確にした内容にまとめておくこと。 相手を引き付ける工夫を考えておくこと。 これまでの学習を整理しておくこと。

講義目的	本講義の目的は、プレゼンテーションの計画・方法、発表の技術、プレゼンターの人的側面等の基本を学びながら、実践を通して自分の主張を明確に伝える表現力を養うことである。設定されたテーマについて、個人あるいはグループで調査分析し、論理的な内容にまとめたうえで、適切な速度と声量でパワーポイントを活用した発表を行う。また、よいプレゼンテーションの例として、TED等の動画の視聴を課題として出し、よいプレゼンテーションとは何かを自分で考えさす機会も設ける。
達成目標	①パワーポイントを使ってプレゼンテーション用のスライドを作成することができる。 ②図表を使ったり、アニメーションを使って視覚に訴え、相手を説得するためのスライドを作成することができる。 ③自分の考えや主張をまとめたスライドにまとめることができる。 ④自分の考えや主張を相手に伝えることができる。
キーワード	コミュニケーション、論理表現、情報収集、情報分析
成績評価（合格基準60	趣味の紹介パワーポイントの作成（40%） 実際のプレゼンを評価する（40%） 最終評価試験（20%） 発表評価の内訳は、内容構成、話し方、図表の使い方とする。

関連科目	特定の教科書は使用しない。
教科書	特定の教科書は使用しない
参考書	適宜指示する
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	・本授業は、プレゼンテーション基礎編Bを継続して履修することがのぞましい。 ・授業中の飲食、私語は禁止する。 ・携帯電話の電源は切り、机の上に置かずしまっておくこと。 ・授業で配布する資料の予備は保管しないため、出席者からコピーしてもらうこと。 ・パワーポイントを利用した実習をおこなう。 ・受講生の既習知や進度によって、一部シラバスの変更の場合がある。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学Ｃ（FV21P140）
英文科目名	Integrated English Ⅰ A
担当教員名	吉川泰弘（よしかわやすひろ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	宇宙の誕生、膨張と銀河系、地球と太陽の誕生、そして生命の誕生。細菌の多様性は、大まかにいえば化学合成独立栄養細菌。嫌気性従属栄養細菌、嫌気性光合成独立栄養細菌、好気性従属栄養細菌というような順序で出来上がってきたと考えられる。その間に、真正細菌から古細菌が分岐し、由来は、現在でも明らかではないがウイルスが出現した。この経緯を紹介する。
２回	モネラ界（原核細胞の世界、細菌）の生物から、核と核膜、ミトコンドリアあるいは葉緑体、その他細胞内小器官（リソソーム、ゴルジ体など）を持つ単細胞の真核細胞生物（原生動物、藻類）が出現した。真核細胞の出現機構はまだ不明であるが、原核生物（2種類の細菌、あるいは古細菌と真正細菌）が合体した可能性が考えられる。ミトコンドリアはαプロテオ菌由来、葉緑体はシアノバクター由来と考えられる。真核細胞の特性を紹介する。
３回	10億年くらい前に、単細胞生物は多細胞生物となった。単細胞生物が群をなし、表層と内層に分かれて、体細胞と生殖細胞、組織・器官を形成するようになった。ミトコンドリアを保有する多細胞群は真菌、あるいは２胚葉性動物、３胚葉性の扁形動物、線形動物（条虫や吸虫、線虫）となった。藻類から多細胞化したものが植物となり、５界説がすべて揃う過程を学修する。
４回	旧口動物の扁形動物は軟体動物に進化し、線形動物は甲殻類（エビ、カニ）からさらに節足動物（昆虫類）に進化して1つの頂点に立つ。新口動物は棘皮動物から、脊索動物を経て、脊椎動物への進化を進める。無顎類から、軟骨魚類、硬骨魚類に進化する。生体防御の最終段階の細胞性免疫、液性免疫を獲得するのが魚類である。魚類から四肢を発達させ、陸上に上がるのが両生類である。陸上で生活するためには鰓呼吸から肺呼吸へと大変化を遂げる。循環器系、内分泌系、神経系の原型はほぼ完成する過程を学修する。
５回	爬虫類類は恐竜として全盛をむかえ、翼竜は空を飛び、爬虫類の頂点といえる鳥類が分岐する。進化はネオテニー（幼形成熟）と言われるように、幼形で成熟する特質を持つ。空を飛ぶための機能的進化は、昆虫に類似した側面を持つ。また、形態的には哺乳類で空を飛ぶ、翼手目にも類似している。鳥類と分岐した哺乳類は、卵生から胎生へと変化し、哺乳により子を育てる。齧歯類に類似した祖先から、多くの哺乳類が分岐した経緯を学修する。
６回	サル類：霊長類は約220種といわれている。7000万年前くらいに霊長類として分岐し、原猿類と真猿類が分かれ、オラウータン、ゴリラが分岐し、ヒトともっとも近いチンパンジーと別れたのが500～700万年前と言われている。現生人類の直接の祖先は6万年前にアフリカ大陸を出たと思われる。ここでは人はどこまでサルか？について比較生物学を展開する。
７回	6回までで生物進化の概要を講義した。進化の過程をゲノム、増殖・生殖戦略の共通性と多様性、組織・臓器の機能・形態、神経系・生体防御系、内分泌系などの進化という見方で振り返ってみる。それはまた、受精卵からの個体発生とダブる側面を持っていることを学修する。

８回	このように、生物進化は多様性を生み、現在もその末裔が生物界を作り上げている。同一空間に多くの生物種が存在するためには、共生、寄生、感染といった相互作用を持ち、食料・環境の循環を基盤に、一つの世界を作り上げている。8回では、これまでの講義を振り返り、生物学では生物進化における共通性と独自性、多様性を理解し生物間の相互作用を理解することであることを学修する。

回数	準備学習
１回	細菌は一般にバイキンと呼ばれて嫌われてるが、空気中の窒素や酸素の産生、吸収に重要である。またバイオマスで注目されるように資源循環にも役立っている。確かに感染症の病原体として問題もあるが、細菌感染症などを統御する抗生物質も細菌や真菌によってつくられるものがほとんどである。細菌が出現しなければ、その後の生命体は存在しなかったかもしれない。細菌の役割を調べてみること。
２回	真核生物のうち動物、植物、真菌を除いたものが原生生物という、ややネガティブな定義である。さらに原生生物のうち葉緑体をもって光合成をするものが藻類、ミトコンドリアを持つ従属栄養体が原生動物である。現生動物のうちで病原性を持つものを原虫と定義している。このステージでは無性生殖で増殖するもの、無性生殖と有性生殖をするものが出現する。原虫の生活環を類型化すること。
３回	扁形動物である条虫、吸虫は、複雑な生活環を持つものが多い。１つ、2つといった中間宿主を持つ。終宿主で交配、受精卵を排出し、中間宿主で無性生殖するという戦略を持つもの、また雌雄同体のものが多くいる。線虫では雌雄異体のものが多くなる。吸血昆虫などを利用して、感染域を広げる戦略をとるものもいる。寄生虫と中間宿主の関係を整理すること。
４回	甲殻類、昆虫はウイルス、細菌、原虫などの立派な宿主である。一方で吸血昆虫はウイルスや細菌、原虫などを運ぶし、ダニなどはミツバチの幼虫に感染する寄生虫である。また、十分な免疫系が発達していないにも拘らず蜂や蟻などは巨大な社会を形成し問題なく暮らしている。彼らがどのような能力を持っているのかは興味ある課題である。また海から陸上に上がったのは両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類だけでなく昆虫類やカタツムリ、ナメクジのような陸生巻貝もある。環境変化にどのように適応したか調べること。
５回	鳥類は爬虫類から進化した一つの頂点といえる。しかし、哺乳類と比較すると、多くの点で共通する部分と異なる点がある。また鳥類でも空を飛ぶものと飛ばないものがあり、昼行性のものと夜行性のものがある。その点は哺乳類も同じである。生活空間の類似した哺乳類と鳥類で形態と機能を比較してみること。
６回	最も身近なサル類は多くの点でヒトに類似している。大きな違いがあるとすればやはり、脳構造であろう。しかし、構造といっても量的な違いである。ヒトとサル類（原猿、新世界ザル、旧世界ザル、特に尾長ザル、チンパンジー）とヒトの脳についてどのような違いがあるか整理してみること。また脳と関連する機能や社会性の違いも比較してみること。
７回	神経系、生体防御系、内分泌系、呼吸器系、造血系、消化器系（肝臓、膵臓を含む）、泌尿器系（腎臓）、骨格・筋肉系を多細胞動物について、どれでもよいから、１～２つほど進化的にどのように変わったかを纏めてみること。
８回	最近、国際的にOne World, One Health という言葉が使われるようになっ ている。ここで学んだ生物進化と多様性が、このコンセプトとどのように関連しているか考え、まとめてみること。

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学C」では、観察も交えながら、主に生物・地学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。 　地球上に最初に現れた生物は細菌（約40億年前）で、地球の生命の歴史の約半分は細菌の世界である（ウイルスは30億年くらい前に出現したと考えられている）。約20億年前に真核生物（原生生物：原生動物と藻類）が登場し、10億年前に多細胞生物（真菌、寄生虫）が登場した。寄生虫は節足動物や軟体動物へと進化し、5～6億年前のカンブリア紀の後に高等多細胞生物が出現し、脊椎動物が魚類から哺乳類へと進化、霊長類の中から人類へと進化した。生命の連続性と多様性を基盤として、単純系から複雑系への生物変化を学修する。
達成目標	地球上に生存する様々な生物の多様性を理解すること。またその多様性がどのような経緯をたどってできてきたのか、それぞれの生物種は他の生物種とどのような関係を持っているのか？将来の進路を考えて、生物多様性の中でも、通常病原体と言われているような地球の初期から出現した生物群と宿主と言われる最後に出現した生物群（ヒトや家畜）に至るまでの連続性を理解し、説明できること。
キーワード	
成績評価（合格基準60	成績は講義期間中に実施するミニテスト20%、ミニテストに関連する説明能力（レポート）30%、定期試験（正誤課題、5択問題）50%で評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。
関連科目	獣医の専門科目、獣医保健看護の専門科目の基礎となる。感染症学、病原体科学、組織形態・機能学等に関連する。
教科書	教科書は使用しない。スライドと討議で授業を進める。
参考書	生物進化の謎と感染症／吉川泰弘／NHK出版／978-4-14-910914-5
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学Ｂ（FV21Q110）
英文科目名	Lifelong Sports
担当教員名	財部健一（たからべけんいち）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	ガイダンス、グループ分け。配布資料を参考にインパクトの大きな課題選択と２回目以降の進め方のガイダンス。
２回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング１）
３回	インパクトの大きな課題の発見、意見交換、評価とグループとして取り組み設定（アクティブラーニング２）
４回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング３）
５回	インパクトの大きな課題の対処法の発見と評価（アクティブラーニング４）
６回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価（アクティブラーニング５）
７回	インパクトの大きな課題の対処法がもたらす新しい価値の発見と評価とまとめ（アクティブラーニング６）
８回	アクティブラーニング６のまとめの報告

回数	準備学習
１回	講義目的、達成目標を学習し単位目当ての安易な履修は避けること。(標準学習時間３０分)
２回	インパクトの大きな課題について、各自の意見を用意しておくこと。（標準学習時間６０分）
３回	アクティブラーニング１により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
４回	アクティブラーニング２により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
５回	アクティブラーニング３により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
６回	アクティブラーニング４により設定された課題の事前学習しとくこと。（標準学習時間６０分）
７回	アクティブラーニング５により設定された課題の事前学習しておくこと。（標準学習時間６０分）
８回	アクティブラーニング６のまとめの報告準備をしておくこと。（標準学習時間９０分）

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー （知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科 学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実 社会との関係性を重視する。「現代人の科学B」では、実験も交えながら、主に物理・化学分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	未来社会を創る大学生に求められる新しい価値の創出力に必要なアカデミックスキルであるアクティブラーニング（自ら調べ、チームで考え、新しい価値観である新しい結論を導く）を体験し、問題発掘、対処、解決、浸透法などの習慣を身に付ける事を目標とする。習慣には、人の話を聞く（多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を学ぶ等々）、自分の意見を相手に分かりやすく述べる（順序立てて考え述べる）、議論に積極的に参加する、仲間と強調して一つの課題に取り組む、グループで決めた学習ルールを守る等の態度、方法の習得が含まれる。
キーワード	インパクトの大きな科学、技術課題、説明責任、新しい価値の創出、新しい価値の浸透、アクティブラーニング
成績評価（合格基準60	定期試験は行いません。第８回の報告が６０％、各回のアクティブラーニングでの積極性４０％とする。
関連科目	
教科書	なし
参考書	宇沢弘文/社会的共通資本/岩波新書/２０００：アレックス・ペンランド/小林啓倫訳/ソーシャル物理学/草思社/２０１５
連絡先	Ｄ２号館３Ｆ　財部研究室
注意・備考	この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。講義資料は講義開始時に配布する。ワークショップ形式で行うため、50名以上の場合は受講制限する可能性がある。受講生から出された意見にはその都度コメントし、フィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	企業と人間Ａ（FV21W110）
英文科目名	Industry and Humans A
担当教員名	寺田盛紀（てらだもりき）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	企業と経営における人間：産業社会学、経営学、経済学、労務管理論などの諸分野の中での「人間」の扱われ方を概観する。
２回	職場の組織と人間の管理：F. テーラー、F.B.ギルブレスなどの人間の管理についての考え方について、現代の企業を例に概観する。
３回	大企業組織における人間の扱い方：M.ウェーバーの官僚制組織論を通して、専門分化された企業組織における人の働き方について外国との比較で考える。
４回	職場の人間関係・従業員の心理的側面：企業・職場における人間関係の管理（理解）に関して、とくに従業員の社会心理的な側面（傾向）について概説する。
５回	従業員の職業価値へのアプローチ：H.マズローやD.マクレガーなどの従業員の価値に注目した議論を紹介しつつ、受講生の仕事に対する価値観（職業観）を考えて見る。
６回	職場における管理者と従業員：上司・部下関係に注目する。職場におけるリーダーの在り方とその教育的作用について、リーダーシップ論などを参考に考察する。
７回	職場における従業員管理システム：第1線の監督者の役割に焦点化し、職場における従業員管理（掌握）の特徴を理解する。
８回	これまでの7回分の講義の中から、学生が理解に至らなかった諸点について、質疑応答を行う。講義の後半（45分）で最終評価試験を行う。

回数	準備学習
１回	経済の3要素や職場における人間関係、労働者、経営者（使用者）、労働組合などの用語について、事前に学習しておくこと。
２回	左記2人の名前、主な業績について、WEBで調べておくこと。
３回	ウェーバーについて、いつごろのどこの国のどういう人物か調べておくこと。
４回	フォーマル組織（学校や職場の公的な組織・人間関係）とインフォーマル組織（個人個人が築いている公的組織に影響されない人間関係）ということについて、大学やクラブ活動を例にとくに後者の存在を言葉にしておくこと。
５回	日本人の仕事に対する考え方（職業観）の特徴について、NHK世論調査や世界青年意識調査（総務省）などから観察し、関係する図表をコピーし、ノートに貼り付けておくこと。
６回	リーダーシップの意味、自分が理想とするリーダー像を発表できるように学習し、考えておくこと。
７回	「上位下達」について調べておくこと。
８回	講義ノートを整理しなおし、参考書等を図書館等で読み、重要な事柄をノートしなおしておくこと。また、質問事項について纏めておくこと。

講義目的	当事者意識を喚起することによって，意欲のある学生の自分では気づいていない潜在能力や可能性を最大限に伸ばすことが達成目標である。企業や経済のしくみ、社会人・組織人に求められる責任範囲や能力についての理解、および、より良い人間関係の構築や自己の能力を発揮するために不可欠な知識や能力、コミュニケーションスキルの習得を促す。また状況に応じた最適な判断をするための方法として、資料を読み解く力、データを分析する力を養い、文章力や読解力の向上も目指したい。（教養教育センター単位認定方針Cに強く関与する）
達成目標	企業と人間をめぐる社会現象（〇〇〇問題）を学問的に解釈し、あわせて自己の卒業後の企業社会における職業人生の送り方をデザインする際の基礎を養うこと。
キーワード	科学的管理、官僚制、リーダーシップ
成績評価（合格基準60	最終評価試験100%により成績を評価し、60%以上を合格とします。
関連科目	キャリア形成講座
教科書	使用しない。
参考書	各回に適宜指示する。
連絡先	岡山校キャリア支援センター
注意・備考	特になし
試験実施	実施する

科目名	キャリア形成講座Ａ（FV21W120）
英文科目名	Career Design A
担当教員名	渡邉剛央（わたなべたけひさ）,小林忠資（こばやしただし）,戸田修司（とだしゅうじ）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	アイスブレイクを通して他人とコミュニケーションをとることへの抵抗感をなくす。 （全教員）
２回	自分の長所・短所を明確にする。 （全教員）
３回	自分の大学での目標を明確にする。 （全教員）
４回	自分の将来像を明確にする。 （全教員）
５回	一般的な社会問題についてのグループ・ディスカッションを行う上で必要なことを学ぶ。 （全教員）
６回	ルーブリック作成をとおしてわかりやすいプレゼンテーションとは何かを明確にする。 （全教員）
７回	動物由来感染症対策についてのグループ・ディスカッションを行う。 （全教員）
８回	動物由来感染症対策についてのグループによるプレゼンテーションを行う。 （全教員）

回数	準備学習
１回	1分間の自己PRを考えてくること。
２回	自分の年表を作成してくること。
３回	大学生活において何をしたいか，またそう考える理由についてまとめてくること。
４回	卒業後に何をしたいか，またそう考える理由についてまとめてくること。
５回	事前に与えられた課題について，自分の意見をまとめてくること。
６回	わかりやすいプレゼンテーションを行うために必要なことをまとめてくること。
７回	日本における動物由来感染症対策における課題と解決策についての自分の意見をまとめてくること。
８回	各グループにおいて，動物由来感染症対策についてのプレゼンテーションの準備を行うこと。

講義目的	社会で必要とされる力（コミュニケーション力・表現力・チームワーク力）を実践的な演習を通じて習得する。段階的なスキルアップワークと発表機会を通じて、主張力・傾聴力・展開力を強化し、就活対策のみならず、社会人となって以降に役立つ生涯キャリア形成の意識と実践力について学ぶ。達成目標は下記の通りである。①コミュニケーション力、表現力、チームワーク力、プレゼン力のレベルアップを、ペアワークおよびグループワークを通じて実現すること。②自己分析と自己理解について、個働と協働の両視点から実施し、答え・課題等をつかむこと。③発想～ミーティング～プレゼンの過程から、実社会での企画展開を体験し、自分の個性・特性・強み・弱みを知ること。
達成目標	○他人と積極的にコミュニケーションをとることができるようになること。 ○自分の意見を分かりやすく他人に伝えることができるようになること。 ○他人と協力をして目標を達成することができるようになること。
キーワード	キャリア形成，コミュニケーション力，表現力，チームワーク力
成績評価（合格基準60	毎回個人が提出するレポートの評価の合計（比率60%）と最終回のプレゼンテーションの評価（比率40%）の合計を100点満点に換算し，60点以上で合格とする。

関連科目	キャリア形成講座B
教科書	教科書は使用しない。
参考書	実践キャリア考ー体験からキャリアを考える／一般財団法人全国大学実務教育協会／実教出版／978-4407332261
連絡先	（研究室等確定後に記載）
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	現代人の科学Ｄ（FV21W130）
英文科目名	Sports (Outdoor Sports for Eco-Tourism)
担当教員名	澤見英男（さわみひでお）
対象学年	１年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	獣医学部
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
１回	インターネット検索により予備知識を得ておくこと
２回	ｎ桁のr進数を用いた四則演算について理解をし、減算を上位桁から行うといった日常でも使える補数のプチ応用についても学ぶ(標準学習時間：2時間)
３回	コンピュータの歴史について学び、計算機の応用例（大量かつ単純な処理）の１分野から、多桁乗算により精度が百桁以上になる階乗の値を計算できること、高精度の除算と加算による指数関数の底（ネイピア数）の求め方を学習し、精度百万桁以上の円周率の求め方についても学ぶ(標準学習時間：2時間)
４回	台形公式などを用いた、ガウス分布の数値積分により、高精度な偏差値表の作れることを学ぶ(標準学習時間：2時間)
５回	統計処理で用いる、母集団、平均、標準偏差、偏差値などについて学習をし、簡単な例題の演習を通して、母集団からの乖離の程度を偏差値表を用いて評価できることを学ぶ(標準学習時間：2時間)
６回	座標系と座標変換について学習し、日常生活に密着した応用例として、夏至と冬至の日の出と日没時間（日照時間）の求め方と、高緯度地域で白夜の現れることを学ぶ(標準学習時間：2時間)
７回	この世界の照明光である太陽光の性質と、黒体輻射の理論式に基づく白色光の三原色を用いた表現方法について学習し、ケルビンを単位とした照明光の色温度および三原色と人間の視覚特性との関係を学ぶ(標準学習時間：2時間)
８回	英文書籍におけるアルファベット文字の出現頻度を基に、０と１の組み合わせにより英文を符号化・復号化できることを学び、情報量（エントロピ）をビットで評価することの意味も理解する(標準学習時間：2時間)

回数	準備学習
２回	インターネット検索および配布資料により予備知識を得ておくこと
３回	インターネット検索および配布資料により予備知識を得ておくこと
４回	インターネット検索および配布資料により予備知識を得ておくこと
５回	インターネット検索および配布資料により予備知識を得ておくこと
６回	インターネット検索および配布資料により予備知識を得ておくこと
７回	インターネット検索および配布資料により予備知識を得ておくこと
８回	インターネット検索および配布資料により予備知識を得ておくこと

講義目的	現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの現代を生きる市民は、専門分野によらず、幅広い分野の科学・技術リテラシー（知識のみならず科学的なものの見方も含む）を身に付けておくことが望ましい。「現代人の科学」は、様々な科学・技術分野のトピックスを題材にし、科学・技術リテラシーの向上を目指す科目群である。また、分野横断的な視点や実社会との関係性を重視する。「現代人の科学D」では、コンピューターに関係する分野のいくつかのトピックスを取り上げる。なお、この科目は特定の分野の基礎知識の修得を前提としない。
達成目標	日常的に用いているアラビア数字、漢数字、ローマ数字を用いた計算法について理解する。応用例のひとつとして、高精度なネピア数や円周率を求めるための多桁計算アルゴリズムについて理解する。偏差値表を用いた簡単な統計処理を行えるようになる。アルファベットの頻度分布を用いた符号化・復号化の演習を通して情報量の単位ビットという概念を理解する。人間の視覚特性と照明光の色温度の単位ケルビンについて理解する。コンピュータグラフィックスで多用される座標変換、右手系と左手系について理解を深める。
キーワード	数詞と数値、アラビア数字、漢数字、ローマ数字、接頭辞、進数、コンピュータの歴史、多桁計算、階乗、ネピア数、円周率、ガウス分布、偏差値表、情報量、デカルト座標、ガウス座標、座標変換、エントロピ、黒体輻射、色温度、ケルビン、視覚特性
成績評価（合格基準60	演習（30%）とレポート（30%）および試験（40%）の合計が60点以上を合格とする
関連科目	
教科書	講義開始時に必要なプリントを配布するが、必要な資料はダウンロードして用いることができる(http://café.mis.ous.ac.jp/Veterinary/)

参考書	
連絡先	
注意・備考	レポート課題により受講生の理解の度合いを確認し、演習問題や板書により回答してもらうことにより理解のレベルを揃えるようにする
試験実施	実施する